

熊本大学大学院薬学教育部  
における組織評価  
自己評価書

平成 26 年 9 月 30 日  
14. 大学院薬学教育部



## 目次

I 熊本大学薬学教育部の現況及び特徴 .....	2
II 教育の領域に関する自己評価書 .....	9
1. 教育の目的と特徴 .....	10
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出 .....	10
3. 観点ごとの分析及び判定 .....	11
4. 質の向上度の分析及び判定 .....	58
III 社会貢献の領域に関する自己評価書 .....	59
1. 社会貢献の目的と特徴 .....	60
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出 .....	61
3. 観点ごとの分析及び判定 .....	61
4. 質の向上度の分析及び判定 .....	74
IV 国際化の領域に関する自己評価書 .....	75
1. 国際化の目的と特徴 .....	76
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出 .....	77
3. 観点ごとの分析及び判定 .....	77
4. 質の向上度の分析及び判定 .....	88
V 男女共同参画に関する自己評価書 .....	89
1. 男女共同参画の領域の目的と特徴 .....	90
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出 .....	91
3. 観点ごとの分析及び判定 .....	91
4. 質の向上度の分析及び判定 .....	98
VI 管理運営に関する自己評価書 .....	99
1. 管理運営の目的と特徴 .....	100
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出 .....	101
3. 観点ごとの分析及び判定 .....	102
4. 質の向上度の分析及び判定 .....	124

## I 熊本大学薬学教育部の現況及び特徴

## 1 現況

- (1) 学部等名：熊本大学大学院薬学教育部 創薬・生命薬科学専攻 博士前期課程  
創薬・生命薬科学専攻 博士後期課程  
医療薬学専攻 博士課程
- (2) 学生数及び教員数（平成 26 年 5 月 1 日現在）  
：学生数 124 人、専任教員数（現員数）：30 人、助手数（1 人）

## 資料 I -1 学生数（平成 26 年 5 月現在）

専攻名	1 年	2 年	3 年	4 年	合計
創薬・生命薬科学専攻 博士前期課程	35	30	-	-	65
創薬・生命薬科学専攻 博士後期課程	15	13	11	-	39
医療薬学専攻 博士課程	6	7	6		19
生命薬科学専攻 博士後期課程				1	1

\* 医療薬学専攻（4 年）は、平成 27 年度が完成年度  
生命薬科学専攻は、在学生 1 名が修了したら廃止

（出典：熊本大学データ集）

## 1 学年学生定員

- 創薬・生命薬科学専攻 博士前期課程（35 名）  
創薬・生命薬科学専攻 博士後期課程（10 名）  
医療薬学専攻 博士課程（8 名）

## 資料 I -2 教員数及び職員数（平成 26 年 5 月現在）

専攻名	教員数	職員数
創薬・生命薬科学専攻 博士前期課程	[専任教員（計 53 名）] 教授 22 名、准教授 14 名、講師 3 名、助教 14 名 [非常勤講師（計 5 名）] 学内講師 0 名、学外講師 5 名	11 名（非常勤職員 5 名を含む。）
創薬・生命薬科学専攻 博士後期課程	[専任教員（計 31 名）] 教授 13 名、准教授 8 名、講師 1 名、助教 9 名 [非常勤講師（計 0 名）] 学内講師 0 名、学外講師 0 名	
医療薬学専攻 博士課程	[専任教員（計 22 名）] 教授 9 名、准教授 6 名、講師 2 名、助教 5 名 [非常勤講師（計 4 名）] 学内講師 0 名、学外講師 4 名	

（出典：熊本大学データ集）

明治 18 年に創立された私立熊本薬学校は、その後、私立九州薬学校（明治 41 年）、私立九州薬学専門学校（明治 43 年）、官立熊本薬学専門学校（大正 14 年）を経て、昭和 24 年に熊本大学が設置されたとき熊本大学薬学部となった。昭和 39 年に大学院薬学研究科（修士課程）が、昭和 60 年に大学院薬学研究科（博士課程）が新設された。その後、平成 10 年に大学院臨床薬学専攻（博士課程）が、平成 13 年に大学院分子機能薬学専攻（博士課程）が新設された。平成 15 年には大学院医学研究科と大学院薬学研究科を統合・改組し、大学院医学薬学研究部、大学院薬学教育部、大学院医学教育部が設置された。このときから「研究部」は教員が所属する教員組織、「教育部」は大学院生が所属する教育組織となった。平成 18 年、薬学教育に関する法改正を受けて、薬学部には 6 年制学科「薬学科」と 4 年制学科「創薬・生命薬科学」が新設された。この新しい 4 年制学部へ接続する大学院として平成 22 年に大学院薬学教育部創薬・生命薬科学専攻博士前期課程が、平成 24 年に大学院薬学教

育部創薬・生命薬科学専攻博士後期課程が設置され、6年制学部へ接続する大学院として平成24年に医療薬学専攻博士課程が新設された（資料I-3）。

「創薬・生命薬科学専攻」及び「医療薬学専攻」は、学士課程教育で培われた基礎薬科学、生命科学、医療系薬学および衛生・社会系薬学の素養を基盤にして、各専門分野で自立し、かつ指導性を発揮できる、いわゆる高度な薬の専門家および生命科学者の育成を目指している。

資料I-3 薬学教育部創薬・生命薬科学専攻博士後期課程及び医療薬学専攻博士課程等

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
新	薬学部 薬学科 55名						薬学教育部 博士課程 医療薬学専攻 8名				
	薬学部 創薬・生命薬科学科 35名				薬学教育部 博士前期課程 創薬・生命薬科学専攻 35名		薬学教育部 博士後期課程 創薬・生命薬科学専攻 10名				
	薬学部（旧4年制学部） 薬科学科 90名				薬学教育部 博士前期課程 分子機能薬学専攻 42名 生命薬科学専攻 27名		薬学教育部 博士後期課程 分子機能薬学専攻 18名 生命薬科学専攻 13名				

（出典：薬学部教育委員会関係資料）

## 2 特徴

### （1）複合的な教育組織

大学院生命科学研究部が教員組織であるのに対し、大学院薬学教育部は教育に特化した組織であるという点が特徴である。すなわち、生命科学研究部薬学系18分野、薬学部所属臨床系2分野、寄附講座1分野、薬学部附属の3センター（創薬研究センター、育薬フロンティアセンター、薬用資源エコフロンティアセンター）、発生医学研究所2分野、生命資源研究・支援センター3分野からなり、複合的に組織が連携して大学院教育を行っている（資料I-4）。

### （2）大学院先導機構教員参画による薬学教育の充実

薬学部では、国際共同研究拠点等を推進する中核教員の確保のため、大学院先導機構を中心としたテニュアトラック制度等を活用し、テニュアトラック教員を含む大学院先導機構教員を積極的に雇用している。また、イノベーション推進機構にも人材を輩出し、優れた若手人材の有効活用をしている（資料I-5）。また、外国人教員の採用にも活用している。

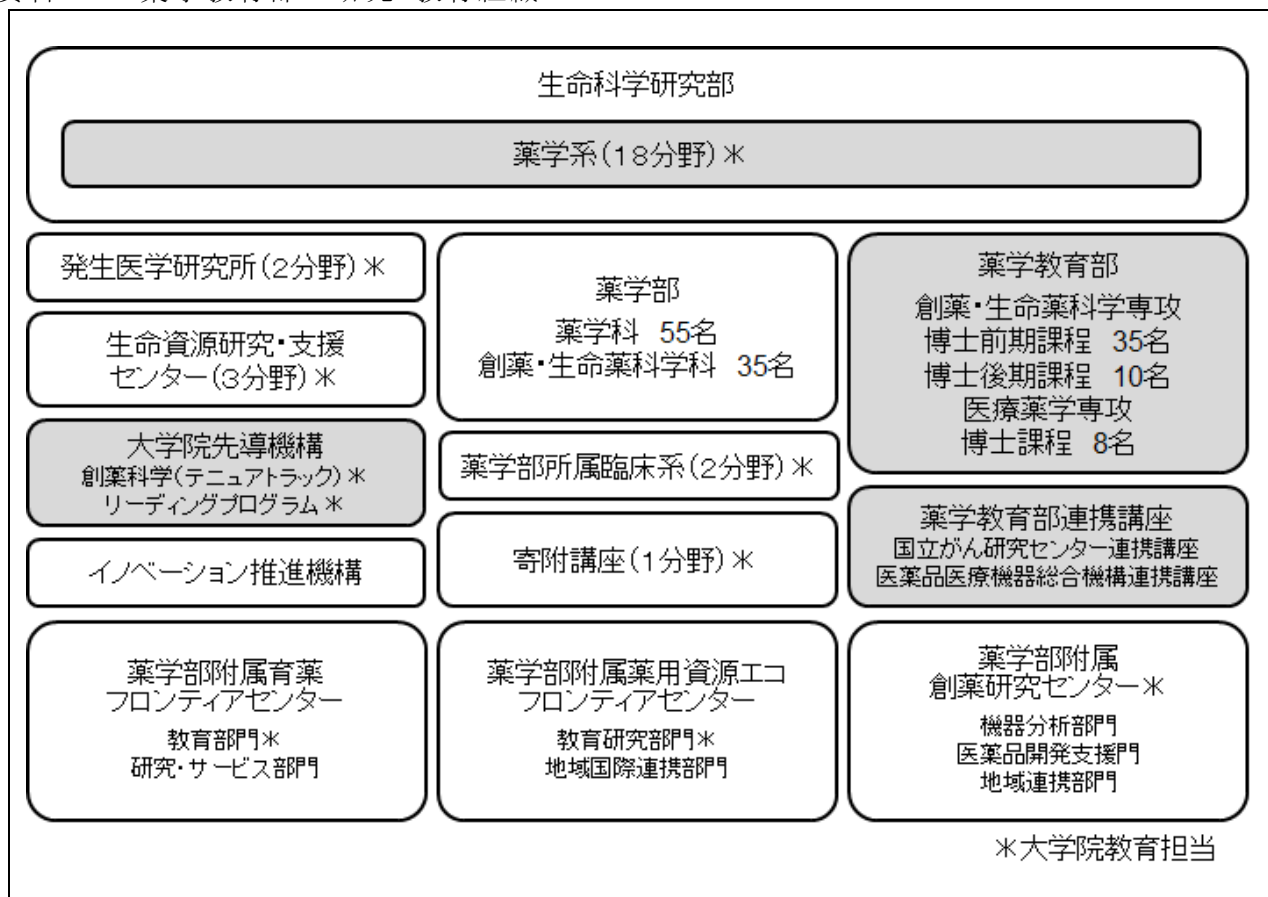
### （3）大学院教育プログラム

平成17年には「DDSスペシャリスト養成プログラム」が学振「魅力ある大学院教育イニシアティブ」に、平成19年には「創薬研究者養成プログラム」が文科省「大学院教育改革支援プログラム」に採択になり、先進的な大学院教育への取組を行ってきた。

### （4）リーディング大学院

平成24年度、医学教育部と薬学教育部が合同で申請した「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO」（HIGOプログラム）が学振博士課程教育リーディングプログラム「複合領域型（生命健康）」に採択された。大学院先導機構に配置されたHIGOプログラム教員が中心となり、海外・行政・企業インターンシップ、英語による授業などの取組を行っている。

資料 I-4 薬学教育部の研究・教育組織



(出典：薬学部組織関係資料)

資料 I-5 薬学教育部の教育研究に参画する大学院先導機構所属教員

大学院先導機構	教員
創薬科学(テニュアトラック教員) H21. 4. 1～H26. 3. 31	助教 1(H26. 4. 1～准教授)
グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO	准教授 1(H25. 5. 1～)
	助教 2(H25. 5. 1, H26. 4. 1～)

(出典：薬学部事務関係資料)

(5) 国立がん研究センターとの大学院連携講座

平成 25 年、大学院薬学教育部と国立がん研究センターとの間で大学院連携講座を締結し、「腫瘍治療・トランスレーショナルリサーチ学」連携講座が発足した。アカデミアで発見されたシーズを日本においてがん治療薬の創薬へと発展させるため、国立がん研究センターとの連携のもとに、トランスレーショナルリサーチ研究教育の取組を行っている。

(6) 次世代人材の育成

本部署では、平成 21 年以降にも、基盤的研究を推進するために優れた人材(内閣府最先端・次世代研究開発支援プログラム採択者等)を教授として採用している。また、若手研究者が主体となって運営する「次世代創薬研究者養成塾」を定期的に開催し、研究教育環境の充実等を通して、次世代人材の育成を推進している(資料 I-6)。

## 資料 I-6 次世代創薬研究者養成塾

回数	開催日	テーマ
1	平成 25 年 6 月 24 日	あの研究の裏側に迫る—研究者が語る真実—
2	平成 25 年 8 月 8 日	精神神経疾患治療薬の個別化投与設計法の開発」「マウス生殖工学技術を用いた遺伝子改変マウス研究の効率化」
3	平成 25 年 12 月 5 日	「製薬企業における創薬活動の現状と課題」「創薬研究の成功事例と失敗事例の紹介」
4	平成 26 年 2 月 17 日	「Fycompa の創薬研究、探索研究から臨床、承認まで」「ヒト幹細胞由来心筋細胞の創薬への応用～ヒトのリスクをどう読むか～」「製薬企業における研究開発と特許」「レギュラトリーサイエンスにおけるモデリング&シミュレーションのパラダイムシフト」「過飽和を利用した薬物の経口吸収改善」「抗がん剤 DDS 製剤の処方設計」

(出典：薬学部事務関係資料)

## 3 組織の目的

## (1) 創薬・生命薬科学専攻の目的

創薬・生命薬科学専攻（博士前期課程）は、創薬科学分野及び生命科学分野の先端的研究者並びに医薬品の開発において先端的役割を担う研究者及び技術者を育成することを目的とする。

創薬・生命薬科学専攻（博士後期課程）は、独創的な発想力、探究心、創薬マインドを育みながら、物理系薬学、化学系薬学、生物系薬学、生命科学を中心とした基盤的学問における知識・技能を礎として、自らの専門領域において卓越した研究能力を発揮できると同時に、創薬科学・生命科学を俯瞰的に捉えて問題設定・問題解決を自主的に行い、先端的研究や医薬品開発の場において指導能力を発揮できる人材を育成することを目的とする。

そのため、次のようなカリキュラムポリシーを掲げている（資料 I-7）。

## 資料 I-7 創薬・生命薬科学専攻のカリキュラムポリシー

創薬・生命薬科学専攻のカリキュラムポリシー	
1.	社会が求める創薬および生命科学のスペシャリストを養成すること。そのため、4コース制を導入し、特定のカリキュラムを実施する。すなわち、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品の体内動態評価、製剤化および薬物送達を行うドラッグデリバリーコース（医療系創薬研究者の養成）</li> <li>・ 医薬品の探索を行うバイオファーマコース（生物系創薬研究者の養成）</li> <li>・ 医薬品のターゲットを発見し、医薬品の設計・合成を行うメディシナルケミストリーコース（化学系創薬研究者の養成）</li> <li>・ 発生学や遺伝学などの生命資源学を専門基盤とし、創薬についての要素も含むライフサイエンスコース（生命科学研究者の養成）</li> </ul>
2.	特定の専門領域だけでなく、より俯瞰的かつ実践的な人材や国際化に対応できる人材を養成するため、各コースを担当する教員が連携して演習形式の授業を行うとともに、多様なシンポジウム・講演会・セミナーに参加し、自分の専門分野以外の研究動向についての知識を増やし、討論を通して理解を深めるための授業科目を配置する。
3.	優れた倫理観と環境マネジメント能力をもち、地域ならびに国際社会に積極的に貢献できる行動力を養成するために、生命倫理学、英語でのプレゼンテーションや論文作成のための演習などの授業科目を導入する。

(出典：熊本大学ウェブサイト)

## (2) 医療薬学専攻の目的

医療薬学専攻(博士課程)は、薬学又は生命科学の幅広い知識及び深い思考力を備えた、高い研究志向及び問題解決能力を有する高度医療専門職業人又は専門分野における国際的研究能力を有する研究者若しくは教育者を養成することを目的とする。

そのため、次のようなカリキュラムポリシーを掲げている(資料I-8)。

## 資料I-8 医療薬学専攻のカリキュラムポリシー

## 医療薬学専攻のカリキュラムポリシー

1. 医療・健康・環境やその基礎となる科学に強い関心をもち、高い問題提起能力および問題解決能力を修得し、研究者・教育者あるいは薬剤師など医療薬学・臨床薬学の関わるさまざまな領域で指導的立場に立って社会に貢献しようという意欲を有する人材を育成する。さらに、“地域社会に開かれた大学院”として、社会人に門戸を開き、薬剤師の資質向上を目指した生涯教育を実施する。
2. 社会が求める実践的な高度専門職業人は、いわゆる特定分野の深い知識・技能に加え、薬学全般に通じている人間でなければならないという考えに基づき、創薬科学、生命科学、生命倫理、医薬品開発、臨床試験、論文作成技術、副作用被害、医療訴訟などの幅広い知識・技能を持ち、かつ臨床および企業等の現場での実践的能力を身につけ、将来、それらを病院、薬局、製薬企業、CRO、SMOや大学・研究所で活かせる先導的薬剤師および臨床現場の薬剤師業務を理解する基礎薬学研究者、製薬企業等での医薬品製造研究者・臨床開発者、治験コーディネーター、大学等での教員・研究員として活動する人材を育てる。
3. 卒業した大学の学部によらず1. 2. を効果的に実現するために、6年制学部を卒業し先導的薬剤師の養成を目指す「臨床薬学」コースおよび医療の分かる研究開発者および教育者の養成を目指す「医療薬科学」コースの2コース制とする。
4. 自らの研究の成果と意義を国際的な水準で議論し、必要に応じて、自らが国際共同研究の展開に寄与できる能力を養う。
5. 専門分野にとらわれない分野横断的な学修ができるカリキュラムを実施し、常に未知の分野の研究にも、果敢に挑戦できる素地を形成する。
6. 自らの研究の成果と、人や自然や社会との共生のために、強い責任感と高い倫理性をもって、自らの研究を深化させていく力を育てる。

(出典：熊本大学ウェブサイト)

## (3) 研究基盤の構築

本部局の教育に関わる教員は、共同研究体制の構築を目的とし、生命科学系の研究者と連携した課題対応型の拠点研究グループを形成している(資料I-9)。本学拠点形成研究Aとして、「細胞系譜制御から幹細胞・iPS細胞応用基盤への展開研究と教育の推進」、本学拠点形成研究Bとして、「プロテオミクスを基盤とした病態システムズバイオロジー教育研究拠点の構築」、「個別化医療をリードする育薬フロンティアセンター研究拠点形成」、「熊本大学発の画期的な新薬創成研究拠点の形成」の計4件が支援を受け、活発に研究を展開している。

本部局の大槻教授が先導的に展開する「タンパク質絶対発現量プロファイルを基盤とする次世代がん診断技術の創出」が最新質量分析によるタンパク質基礎化学を応用し次世代のがん個別化治療と早期診断を実現することを目的とした内閣府最先端・次世代研究開発支援プログラムに採択されている。本事業の重要技術の一つである標的プロテオミクス(Targeted Proteomics)は”Nature Method”において”Method of the Year 2012”に



選ばれている。

さらに本学は平成 25 年度から、文科省「研究大学強化促進事業」に採択され、生命科学に組織する国際共同研究拠点と国際先端医学研究拠点施設との連携による国際水準の研究環境整備化による国際共同研究の強化を図っている。

資料 I-9 薬学部教員の参画した熊本大学拠点形成研究

種類	研究プロジェクト名	研究代表者
A	細胞系譜制御から幹細胞・iPS細胞の応用基盤への展開研究と教育の推進	桑 昭苑（発生医学研究所） 小川峰太郎（発生医学研究所）
B	プロテオミクスを基盤とした病態システムズバイオロジー教育研究拠点の構築	荒木令江（生命科学研究部・医学系） 伊藤隆明（生命科学研究部・医学系）
B	個別化医療をリードする育薬フロンティアセンター研究拠点形成	丸山徹（薬学部） 入江徹美（生命科学研究部・薬学系）
B	熊本大学発の画期的な新薬創成研究拠点の形成	高濱和夫（生命科学研究部・薬学系） 杉本幸彦（生命科学研究部・薬学系）

（出典：薬学部事務関係資料）

#### （4）情報の発信

本部局では、薬学分野の研究を網羅的に紹介する著書「熊薬ものがたり」の出版や最新の研究活動を紹介するニュースレターを発行（資料 I-10）し、基盤的研究を推進し、担うことのできる人材を発掘・育成するために研究成果の教育への還元を推進することを務めている。

資料 I-10 熊薬ものがたり等

熊薬ものがたり新刊	熊薬ものがたり（改訂版）	ニュースレター創刊号
		

（出典：印刷物の表紙）



## Ⅱ 教育の領域に関する自己評価書

## 1. 教育の目的と特徴

### (目的)

薬学教育部では、学士課程教育で培われた基礎薬科学、生命科学、医療系薬学および衛生・社会系薬学の素養を基盤にして、各専門分野で自立し、かつ指導性を発揮できる高度な薬の専門家および生命科学者の育成を目指している。創薬・生命薬科学専攻では、医薬品創製の現場で主導的役割を果たすゲノム創薬と基盤的創薬の研究者・技術者の育成、先端的な生命科学分野及び環境科学分野の研究者・技術者の育成を目標とし、医療薬学専攻では、臨床の現場で薬の本質を深く理解した医療の担い手として医薬品の適正使用に貢献できる高度な指導的臨床薬剤師の育成、疾病の予防および治療に貢献する臨床研究者の育成を目標としている。

### (特徴)

- ・医療薬学専攻には臨床薬学コースと医療薬科学コースの2コース、創薬・生命薬科学専攻にはメディシナルケミストリー、バイオファーマ、ドラッグデリバリー、ライフサイエンスコースの4コースを設置した。
- ・臨床教授・先端薬学教授を任命し、先端的・実践的な大学院教育を推進している。
- ・大学院生を海外の大学や企業に派遣し、国際的に活躍できる人材を育成している。
- ・社会人および外国人学生の受け入れ増のために大学院の入学試験機会を増加させた。
- ・創薬・生命薬科学専攻に所属する学生でも、平成29年度までに学部に入學し、かつ既定の条件を満たせば、薬剤師国家試験受験資格が得られ、学生のニーズに答えている。

### [想定する関係者とその期待]

関係者として、薬学教育部大学院生、大学院修了生、就職先の教育機関、研究機関、企業、病院、薬局等を想定しており、研究者・薬剤師等の高度な専門業務に従事するために必要な能力とその基盤となる人格・学識を身につけ、修了後のキャリアパスを拓き、社会に貢献できる学生の養成を期待している。

## 2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

### 【優れた点】

- ・多彩な専門性と背景を有する専任教員が大学院設置基準を大きく超える数で配置され、協力講座、附属センター、外部講師等による大学院教育の支援体制が整えられている。
- ・リーディング大学院教育プログラム「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO」(HIGOプログラム)により教育活動を展開している。
- ・海外での研究活動、九州薬科学研究教育連合大学院生合宿研修、各種インターンシップなどを通して、自主性、国際性、労わりの心、視野の拡大が図られている。
- ・多様で優秀な学生を受け入れるため、入学試験に TOEFL-ITP をいち早く取り入れるとともに、試験の種類・回数を増加させている。
- ・国際学会への参加を支援する制度を活用し、多くの学生を海外に派遣している。
- ・教育活動に関する資料収集体制が ISO 14001 活動の一環に組み込まれ、日常的活動として機能している。

### 【改善を要する点】

- ・医療薬学専攻の定員充足率の向上

## 3. 観点ごとの分析及び判定

## 分析項目 I 教育活動の状況

## 観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

## 1 教員組織編成や教育体制の工夫とその効果

教育目的(資料 A1-1-1-1)に応じて、大学院設置基準に規定される必要な専任教員数を上回る数の教員を確保している(資料 A1-1-1-2)。教員組織は、薬学教育部長1名と副薬学教育部長1名のもと(資料 A1-1-1-3)、原則として教授、准教授(講師)、助教の3名の教員からなる29分野で構成されており、3寄附講座、2連携講座および1協力分野が含まれている(資料 A1-1-1-4)。さらに、すべての教員がHIGOプログラムの授業担当教員として配置されている。また、国内外の大学との部局間交流などにより、先端かつ多様な教育の場を提供している。

薬学教育部教授会の組織構成および審議事項は、「熊本大学薬学教育部教授会等規則」の下に整備された「熊本大学薬学教育部教授会規則」に定められている(資料 A1-1-1-5)。

教育部教授会は月1回の定例会に加え、必要に応じて臨時に開催され、教育・研究・国際化・組織運営活動等に関する協議・報告が行われている。

教育に関する諸事項を扱う委員会として教育委員会が組織され、薬学教育部に係る事項は大学院教育部会が主に担当する(資料 A1-1-1-6)。教育委員会は、定例教授会開催日の前週に定期的で開催され、教授会の協議題・報告連絡事項として取り上げられる事項について予め十分な検討を行っている。

このような教員組織が活発に学外組織との交流に取り組んだ効果として、大学院連携講座の設置が実現した。平成25年度に国立がんセンターとの大学院連携講座「腫瘍治療・トランスレーショナルリサーチ学」を開設した(資料 A1-1-1-7)。(中期計画番号:K08)

## 資料 A1-1-1-1 薬学教育部理念・目的目標

薬学教育部は「創薬・生命薬科学専攻」及び「医療薬学専攻」からなり、学士課程教育で培われた基礎薬科学、生命科学、医療系薬学および衛生・社会系薬学の素養を基盤にして、各専門分野で自立し、かつ指導性を発揮できる、いわゆる高度な薬の専門家および生命科学者の育成を目指しています。本教育部「創薬・生命薬科学専攻」では、医薬品創製の現場で主導的役割を果たすゲノム創薬と基盤的創薬の研究者・技術者の育成、先端的な生命科学分野および環境科学分野の研究者・技術者の育成を目標としています。一方、本教育部「医療薬学専攻」では、臨床の現場で薬の本質を深く理解した医療の担い手として医薬品の適正使用に貢献できる高度な指導的臨床薬剤師の育成、疾病の予防及び治療に貢献する臨床研究者の育成を目標としています。

(出典 薬学教育部学生便覧)

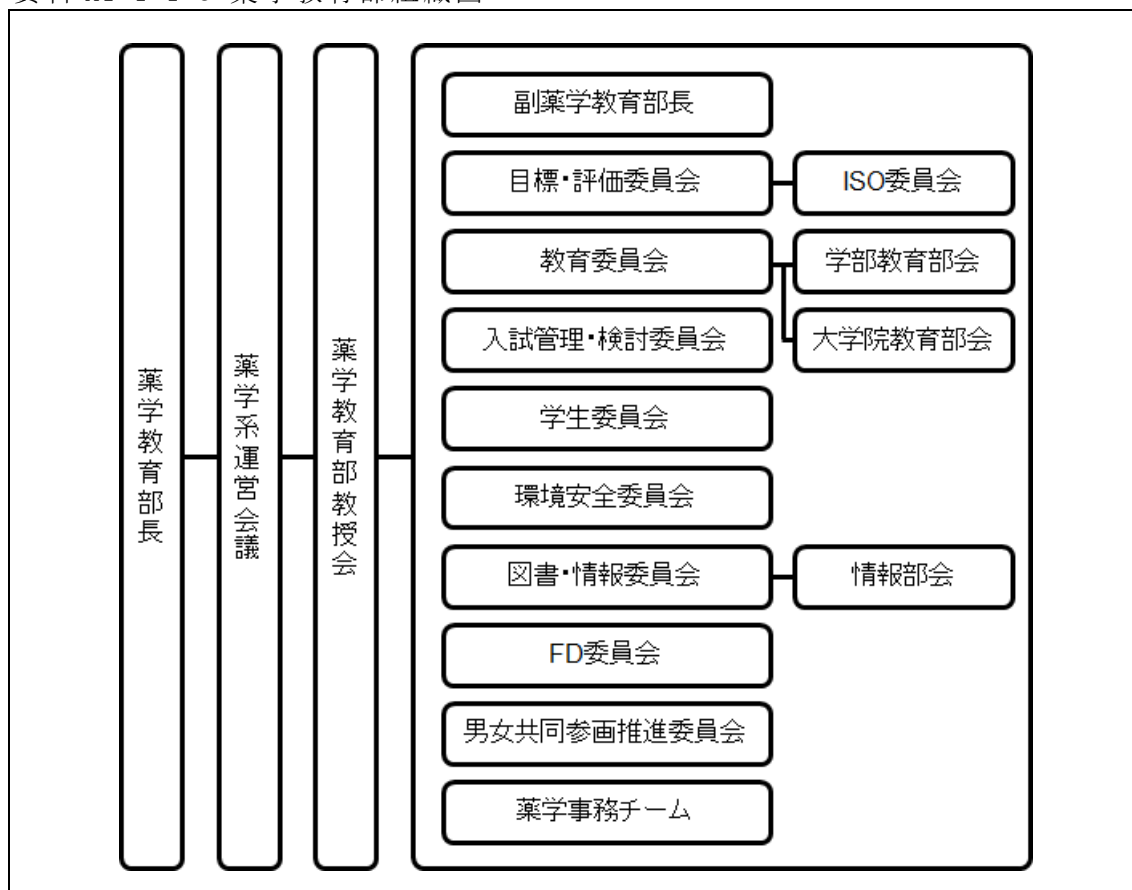
資料 A1-1-1-2 薬学教育部の専任教員数

平成 26 年 5 月 1 日現在における薬学教育部の教員（専任教員）数

課程	学科・専攻 等名	性別	職名							総合計	設置基 準上必 要専任 教員数	専任教員 1 人当たり の在籍 学生数	研究指導 教員			合計
			教授	准教授	講師	助教	助手	合計					研究指導 教授 (内数)	研究指導 補助教員		
									みなし専任							
博士 前期	創薬・生命薬 科学専攻	男	17	13	3	12	0	45	0	53	14	1	43	17	2	45
		女	5	1	0	2	0	8	0				7	5	1	8
合計			22	14	3	14	0	53	0	53						
博士・ 博士 後期	創薬・生命薬 科学専攻(博 士後期)	男	9	7	1	7	0	24	0	31	9	1	21	9	3	24
		女	4	1	0	2	0	7	0				6	4	1	7
	医療薬学専攻 (博士)	男	8	6	2	5	0	21	0	22	9	1	18	8	3	21
		女	1	0	0	0	0	1	0				1	1	0	1
合計			22	14	3	14	0	53	0	53						

(出典：熊本大学ウェブサイト)

資料 A1-1-1-3 薬学教育部組織図



(出典 薬学教育部教授会資料)

## 資料 A1-1-1-4 専攻と教員（分野）との関係

専攻	分野
医療薬学(博士課程)	創薬基盤分子設計学 薬物活性学 環境分子保健学 製剤設計学 薬物治療学 薬剤情報分析学 臨床薬物動態学 臨床薬理学 薬剤学 先端DDS学※(寄附) 医薬高分子学※(寄附)
創薬・生命薬科学(博士後期課程)	遺伝子機能応用学 生体機能分子合成学 機能分子構造解析学 病態遺伝子解析学 薬物機能評価学※(連携) 分子薬化学 構造生命イメージング 天然薬物学 微生物薬学 生命分析化学 薬学生化学 転写制御学 臓器形成学 病態遺伝学 腫瘍治療トランスレーショナルリサーチ学※(連携) 環境分析化学※(協力) 薬物送達学※(寄附)

(出典 薬学教育部教授会資料)

## 資料 A1-1-1-5 薬学教育部教授会規則（抜粋）

## ○熊本大学大学院薬学教育部教授会規則

(平成 16 年 4 月 1 日規則第 197 号)

**改正** 平成 17 年 1 月 12 日規則第 2 号 平成 18 年 3 月 2 日規則第 42 号

平成 18 年 6 月 30 日規則第 192 号 平成 19 年 3 月 20 日規則第 46 号

平成 20 年 3 月 21 日規則第 179 号 平成 21 年 3 月 19 日規則第 162 号

平成 21 年 11 月 25 日規則第 219 号 平成 22 年 3 月 23 日規則第 82 号

平成 22 年 7 月 28 日規則第 126 号 平成 22 年 9 月 22 日規則第 275 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、熊本大学教授会等規則（平成 16 年 4 月 1 日制定）第 14 条の規定に基づき、熊本大学大学院薬学教育部教授会（以下「教授会」という。）に関し必要な事項を定める。

[熊本大学教授会等規則（平成 16 年 4 月 1 日制定）第 14 条]

(組織)

第 2 条 教授会は、次に掲げる者であって、大学院薬学教育部の教育を担当するもの（兼任を除く。）及びイノベーション推進機構の教授のうち別に定めるところにより教授会が必要と認めたものをもって組織する。

(1) 大学院生命科学部研究部の専任の教授、准教授及び講師

(2) 薬学部（附属創薬研究センター、附属育薬フロンティアセンター及び附属薬用資

- 源エコフロンティアセンターを含む。)の専任の教授、准教授及び講師
- (3) 医学部附属病院薬剤部の専任の教授、准教授及び講師
  - (4) 発生医学研究所の専任の教授、准教授及び講師
  - (5) 生命資源研究・支援センターの専任の教授、准教授及び講師
- (審議事項)

第3条 教授会は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 教育課程の編成に関する事項
- (2) 学生の入学、修了その他その在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項
- (3) 教育部長候補適任者の選考に関する事項
- (4) その他教育に関する重要事項

(出典 薬学教育部教授会規則)

資料 A1-1-1-6 平成 25 年度薬学部教育委員会構成

平成25年度薬学部教育委員会構成	
委員長	1名(教授1)
大学院教育部会	4名(教授1、准教授2、助教1)
学部教育部会	4名(教授1、准教授2、助教1)
教養教育薬科学教科集団担当	1名(教授1)
その他の教育関連委員会	
・ OSCE 実行委員会	(教授1、准教授3、講師1、助教1)
・ CBT 実施委員会*	(教授2)
・ CBT システム検討委員会*	(教授2)
* 平成24年度新設	

(出典 平成 25 年度薬学部教授会資料)



## 資料 A1-1-1-7 国立がんセンターとの連携大学院

名称	腫瘍治療・トランスレーショナルリサーチ学分野
対象	大学院薬学教育部創薬・生命薬科学専攻博士前期課程及び後期課程
概要	腫瘍に対する治療方法の開発ならびに診断方法開発のためのトランスレーショナルリサーチを推進する、先端的な大学院教育と研究を新たな連携によって効率良く実現する。 1) 腫瘍病態解明のための基礎的・臨床的研究に深く精通した人材の育成。2) 新医薬品の開発、臨床研究及び治験に精通した人材の育成、3) これらのプロジェクトの推進を支援する優秀な人材の育成。
教員	国立がん研究センターの職員を定員外教員の非常勤講師として任用
授業科目	特別実験Ⅰ（腫瘍治療・トランスレーショナルリサーチ学分野）(6単位) 特別実験Ⅱ（腫瘍治療・トランスレーショナルリサーチ学分野）(6単位)

(出典：薬学部教育委員会資料)

## 2 多様な教員の確保の状況とその効果

教員の採用および昇任は、「国立大学法人熊本大学教育職員選考規則」、「国立大学法人熊本大学教員選考基準」に則り、「熊本大学大学院生命科学研究部教授会における教員選考内規」、「熊本大学薬学部の教員選考に関する申合せ」に従って実施している。教授および准教授の採用は公募制とし、全国の薬学関連機関に推薦依頼文書を送付するとともに、薬学教育部のウェブサイト、独立行政法人科学技術振興機構研究者人材データベース等を活用して、優秀な人材を採用する努力を行っている。

薬学教育部は、53名の専任教員を有するが、若手教員から熟練教員まで適度な年齢バランスで構成されている（資料 A1-1-2-1）。薬学教育部の専任教員 53名のうち女性教員は 8名（教授 5名、准教授 1名、助教 2名）であり（資料 A1-1-1-2）、外国人教員は 1名（助教）から成る。また、医師免許を有する者 1名（教授）が含まれる等、多様な背景を有する教員が確保されている。また、HIGO プログラムには、薬学系からプログラム担当教員 6名（教授）および特任准教授 1名、特任助教 2名（日本人 1名、外国人 1名）が参画している。

教育活動に関する教員評価は、「熊本大学における教員の個人活動評価指針」（資料 A1-1-2-2）、「同実施要項」および「生命科学研究部における教員の個人活動評価実施要領」に従い、研究領域・社会貢献領域等の活動とともに、年度毎の自己評価および研究部長による 3年に一度の評価が実施されている。また、教員資格審査も随時行われている。

教務担当事務局は、資料 A1-1-2-3 のように組織され、大学院生に関する業務は主にスタッフリーダー 1名とスタッフ 1名が対応している。

薬学教育部学生は TA として、学部生の授業科目の円滑な実施を補佐している（資料 A1-1-2-4）。（中期目標計画：K08）

## 資料 A1-1-2-1 教員の年齢構成

平成 26 年 5 月 1 日現在における薬学教育部教員

課程	年齢区分	職名					合計
		教授	准教授	講師	助教	助手	
博士前期課程	～24歳	0	0	0	0	0	0
	25～34歳	0	0	0	7	0	7
	35～44歳	1	9	3	6	0	19
	45～54歳	15	4	0	1	0	20
	55～64歳	6	1	0	0	0	7
	65歳～	0	0	0	0	0	0
合計		22	14	3	14	0	53
博士・博士後期課程	～24歳	0	0	0	0	0	0
	25～34歳	0	0	0	7	0	7
	35～44歳	1	9	3	6	0	19
	45～54歳	15	4	0	1	0	20
	55～64歳	6	1	0	0	0	7
	65歳～	0	0	0	0	0	0
合計		22	14	3	14	0	53

(出典：熊本大学ウェブサイト)

## 資料 A1-1-2-2 熊本大学における教員の個人活動評価指針

## ○熊本大学における教員の個人活動評価指針

(平成 16 年 6 月 24 日指針第 4 号)

- 1 趣旨 この指針は、熊本大学（以下「本学」という。）における教員個人の活動状況に係る点検・評価（以下「個人活動評価」という。）に関し必要な事項を定める。
- 2 評価の目的
  - (1) 教育研究活動の活性化を促進すること。
  - (2) 教員及びその所属する部局等の教育研究活動等の改善に繋げ、もって本学の高等教育機関としての教育研究の質を保証すること。
- 3 評価の対象 個人活動評価の対象となる教員は、本学専任の教授、准教授、講師、助教及び助手とする。
- 4 評価基準及び評価領域
  - (1) 学長は、個人活動評価における評価基準、評価領域等の基本事項について、全学共通の実施要項を定める。
  - (2) 前項に定める教員が所属する学部、大学院各研究科、大学院生命科学研究部、大学院各教育部、医学部附属病院、各研究所、大学院先導機構、イノベーション推進機構、熊本大学学則（平成 16 年 4 月 1 日制定）第 9 条第 1 項に定める学内共同教育研究施設及び保健センター（以下「部局等」という。）の長（以下「部局長等」という。）は、全学共通の実施要項を踏まえ、部局等の特性を考慮して実施要領を定める。
- 5 評価の方法
  - (1) 個人活動評価は、全学共通の実施要項及び部局等の実施要領に基づき、部局長等が行う。
  - (2) 部局長等は、本学の理念及び目的並びに中期目標を踏まえて、教育、研究及び社会貢献のほかに、必要に応じ、管理・運営、診療についての目標を提示し、その目標に即した教員の活動の達成状況について評価を行う。
  - (3) 部局長等は、評価において、教員の職位、諸事情等を考慮する。
- 6 評価の実施
  - (1) 教員は、部局長等が提示した組織の目標を踏まえて 3 年間の目標を設定し、部局長等に提出する。
  - (2) 教員は、毎年、その年度の個人活動評価として自己評価を行い、その結果を自己評価書としてまとめ、必要な資料を添えて部局長等に提出する。
  - (3) 部局長等は、3 年に一度、教員の自己評価に基づく評価を実施し、その結果を個人活動評価書として各教員へ通知するとともに、個人活動評価報告書としてまとめ、学長へ提出する。

(出典：熊本大学における教員の個人活動指針)

## 資料 A1-1-2-3 教務担当事務分掌・配置状況

**教務担当事務分掌・配置状況**

(配置状況) スタッフリーダー (SL) 1名、スタッフ (S) 1名、有期雇用職員 3名  
(事務分掌)

SL: 教務全般、学部入試、各種調査関係、教育委員会、教授会

S: 大学院担当 (大学院入試を含む)、HIGO プログラム関係

有期雇用職員 1: 学部担当、授業料関係、学生の身分異動、学生委員会

有期雇用職員 2: 就職関係、施設予約管理、公認サークル、RI 関係、留学生関係

有期雇用職員 3: HIGO プログラム関係、上記 2 のサポート、総務業務サポート

(出典: 薬学部教務関係資料)

## 資料 A1-1-2-4 平成 25 年度 TA 勤務状況

人数	時間数
50 人	128 時間
8 人	100 時間
平均従事時間	124.1 時間

(出典: 薬学教育部事務関係資料)

## 3 入学者選抜方法の工夫とその効果

薬学教育部では、日本人学生、社会人、外国人に対して、推薦入試、一般入試、2次募集、3次募集の計 11 回の試験 (資料 A1-1-3-1) を、アドミッションポリシー (資料 A1-1-3-2) を明示して実施している。さらに、平成 24 年度から HIGO プログラムの選抜試験を、実地試験およびインターネット試験にて実施している (資料 A1-1-3-3)。また、国際化に対応できる人材を選抜するため、TOEFL-ITP (LEVEL 1) テストを課している。

創薬・生命薬科学専攻の定員充足率は良好であるが、医療薬学専攻の充足率は 100% を下回っており、改善が必要である (資料 A1-1-3-4)。(中期目標計画: K13)

## 資料 A1-1-3-1 平成 25 年度大学院入試実施状況

課程・専攻	選抜区分	募集人員
博士前期課程 創薬・生命薬科学専攻	推薦入試	6名
	1次募集(一般、外国人、社会人)	35名
	2次募集(一般、外国人、社会人)	若干名
	3次募集(一般、外国人、社会人)	若干名
博士後期課程 創薬・生命薬科学専攻	1次募集(進学者、一般、外国人、社会人)	10名
	2次募集(一般、外国人、社会人)	若干名
	3次募集(一般、外国人、社会人)	若干名
	推薦入試	若干名
博士課程 医療薬学専攻	1次募集(一般、外国人、社会人)	8名
	2次募集(一般、外国人、社会人)	若干名
	3次募集(一般、外国人、社会人)	若干名

(出典: 熊本大学ウェブサイト)

## 資料 A1-1-3-2 入学者受入方針（アドミッションポリシー AP）

## アドミッションポリシー

薬学教育部の理念・ミッションに沿った教育・研究を行い、各分野における基盤的研究および最先端の研究を通して薬学および生命科学の将来を担う高資質な人材を育成するため、本教育部では次のような学生を求めます。

- 深い人間愛と国際性を涵養できる学生
- 科学的探求心や知的好奇心が旺盛な学生
- 多様な社会のニーズに即応できる、柔軟性豊かな学生
- 自らの将来に対するビジョンと信念を有する学生
- 問題提起能力および問題解決能力に優れる学生

## 創薬・生命薬科学専攻アドミッションポリシー

薬学教育部の理念・ミッションに沿った教育・研究を行い、各分野における基盤的研究および最先端の研究を通して薬学および生命科学の将来を担う高資質な人材を育成するため、本教育部では次のような学生を求めます。

- 深い人間愛と国際性を涵養できる学生
- 科学的探求心や知的好奇心が旺盛な学生
- 多様な社会のニーズに即応できる、柔軟性豊かな学生
- 自らの将来に対するビジョンと信念を有する学生
- 問題提起能力および問題解決能力に優れる学生
- 創薬科学・生命科学やその基礎となる科学に強い関心をもち、医薬品の研究者・開発者、生命科学研究者あるいは教育者など、創薬科学や生命科学を通して社会に貢献しようという意欲を有する学生

## 医療薬学専攻アドミッションポリシー

薬学教育部の理念・ミッションに沿った教育・研究を行い、各分野における基盤的研究および最先端の研究を通して薬学および生命科学の将来を担う高資質な人材を育成するため、本教育部では次のような学生を求めます。

- 深い人間愛と国際性を涵養できる学生
- 科学的探求心や知的好奇心が旺盛な学生
- 多様な社会のニーズに即応できる、柔軟性豊かな学生
- 自らの将来に対するビジョンと信念を有する学生
- 問題提起能力および問題解決能力に優れる学生
- 医療・健康・環境やその基礎となる科学に強い関心をもち、研究者・教育者あるいは薬剤師など医療薬学・臨床薬学の関わるさまざまな領域で指導的立場に立つて社会に貢献しようという意欲を有する学生

（出典：熊本大学ウェブサイト）

## 資料 A1-1-3-3 平成 25 年度 HIGO プログラム選抜試験状況

選抜区分	出願期間	試験日	合格者発表
準コース生募集	5月24日～ 5月31日	—	6月下旬
医学教育部HIGO基礎コース留学生入学試験 HIGOプログラム選抜試験	6月10日～ 6月18日	7月6日	7月26日
薬学教育部HIGO基礎・4年コース留学生入学試験 留学生対象大学院推薦入試 HIGOプログラム選抜試験	6月10日～ 6月18日	7月6日	7月26日
大学院入学者対象HIGOプログラム選抜試験	4月5日～ 4月10日	4月20日	5月1日
医学教育部HIGO4年コース留学生入学試験 HIGOプログラム選抜試験	2月27日～ 3月5日	3月13日	3月22日

（出典：熊本大学ウェブサイト）

## 資料 A1-1-3-4 専攻等別の学生定員と入学者数

創薬・生命薬科学専攻 博士前期課程					
区分	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
平成26年度4月入学	35	37	37	33	31
平成25年度4月入学	35	30	30	29	28
平成25年度10月入学	若干名	4	4	4	4
平成24年度4月入学	35	35	35	35	32

創薬・生命薬科学専攻 博士後期課程					
区分	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
平成26年度4月入学	10	12	12	12	12
平成25年度4月入学	10	12	12	12	11
平成25年度10月入学	若干名	3	3	3	2
平成24年度4月入学	10	12	12	12	12
平成24年度10月入学	若干名	2	2	2	2

医療薬学専攻 博士課程					
区分	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
平成26年度4月入学	8	11	10	6	6
平成25年度4月入学	8	7	7	7	7
平成24年度4月入学	8	8	8	8	7

(単位:名)

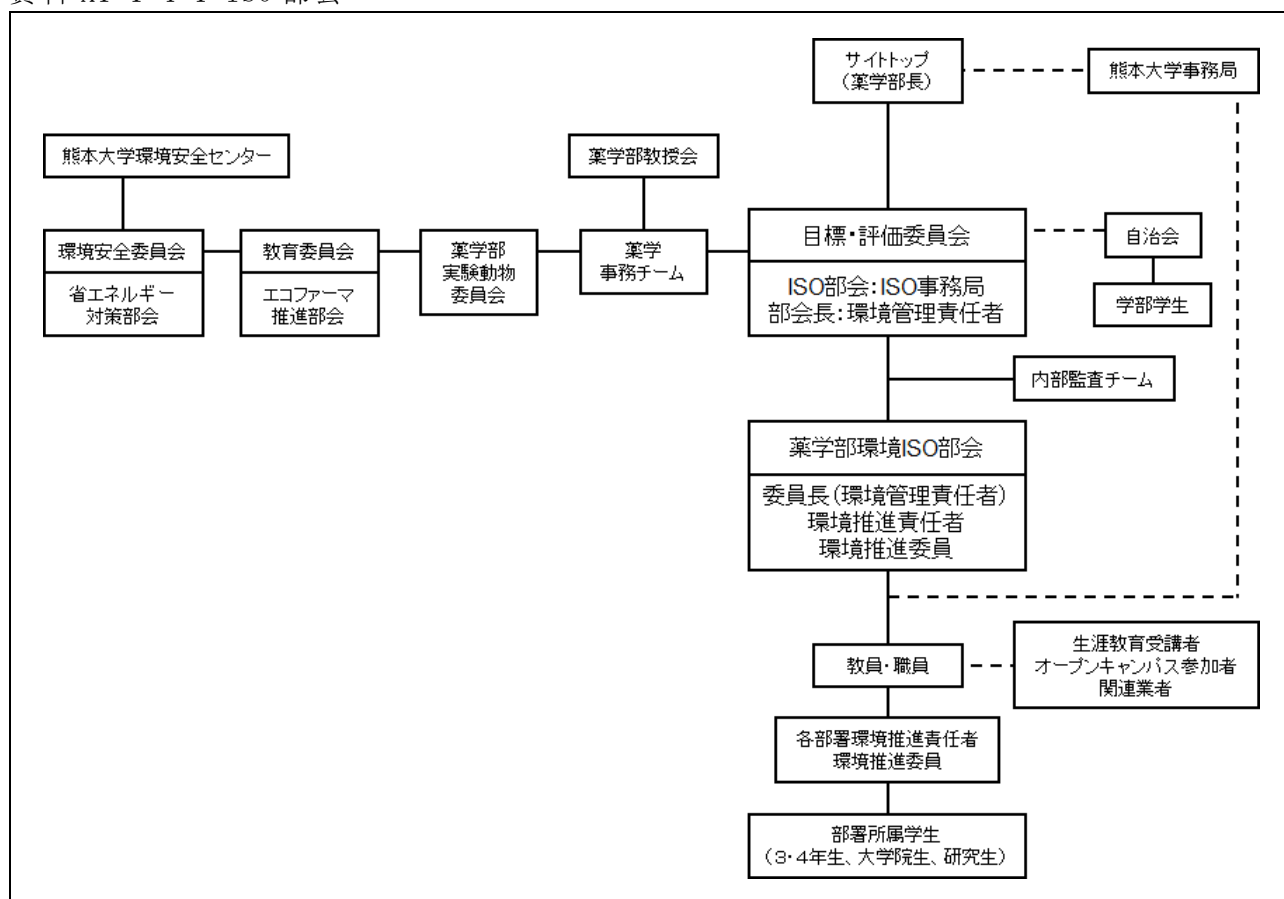
(出典：熊本大学ウェブサイト)

## 4 教員の教育力向上や職員の専門性向上のための体制の整備とその効果

ISO14001 を認証取得して以来、環境教育および環境に配慮した教育研究活動の推進に取り組んでいる。平成 25 年度からは薬学教育部の内部質保証を推進することを環境目的および目標に盛り込み、教育活動の状況に関する資料（授業実施報告書、プリント等の使用教材、学生成績等）を収集・蓄積している。これらの活動は、学部内委員会である目標・評価委員会の下に組織された ISO 部会が統括して実施している（資料 A1-1-4-1）。

薬学部・薬学教育部 FD 委員会は、教育委員会、学生委員会等の関連委員会と協力して FD 活動を統括している。部局独自の FD としては、ISO 14001 認証更新のための内部監査およびグループミーティング（各々年 1 回）に加え、年 1～2 回程度ミーティングを開催し（資料 A1-1-4-2）、教育方法等の質の向上に努めている。教員相互の授業見学は、平成 25 年度後学期より実施を開始し、原則として全教員が各学期 1 回参加することとしている。（中期計画番号：K15、K16）

## 資料 A1-1-4-1 ISO 部会



(出典:平成 26 年度 ISO 申請書類)

## 資料 A1-1-4-2 薬学教育部で開催された FD ミーティングの主な内容

- (1) 薬学科 5 年次生の長期実務実習について (e-Portfolio の活用法を含む) /e-Learning 活用法の実例紹介: 内部教員 3 名による講演および質疑応答 (平成 22 年度)
- (2) 学生のメンタルヘルスと授業における対応について: 保健管理センター教員による講演および質疑応答 (平成 22 年度)
- (3) 薬学教育部の新設専攻について: 平成 24 年度に新設される大学院 2 専攻の設置趣旨。カリキュラム構成、人材育成目標等に関して、大学院教務委員長 (兼 FD 委員会委員長) が説明、その後質疑応答 (平成 22 年度)
- (4) 従前より実施している環境 ISO14001 について、今後の薬学教育第三者評価への対応と連動できるように、平成 24 年度より薬学部全体の環境目標の中に教育関連のチェック内容を従来よりも多く盛り込むこととなった。このことについてのミーティングが 2 回実施され、担当者より説明があり、質疑応答が行われた。(平成 24 年度)
- (5) 学生のメンタルヘルスと授業における対応について (平成 24 年度)
- (6) e-ラーニング等次期システムに関する意見交換会 (平成 25 年度)
- (7) 新しい e-ラーニングシステム Moodle 説明会 (平成 25 年度)

(出典:薬学部・薬学教育部教授会資料)

## 5 教育プログラムの質の保証・質の向上のための工夫とその効果

学生を対象とした授業アンケートは定められた方法に従って実施されており、集計結果および個別のコメントは科目担当教員に提示され、教員側からコメントをフィードバックしている (資料 A1-1-5-1)。教育の状況の自己点検・評価は、授業実施報告書に記載して次年度の授業改善に反映させる体制をとっており、授業参観なども実施している。

臨床教授を 10 名採用し、臨床現場の教育を受ける機会を与えるとともに、リーダー的薬

剤師としての将来像を学生に認識させている。また、先端薬学教授を6名採用し、世界最先端の研究者育成に向けて努力している。

HIGOプログラムにおいて、英語での授業を実施するとともに、東アジアで国際的に活躍する健康生命科学のリーダーの養成を図っている。

キャリアパスを拓くため、独自で就職説明会（病院・薬局・企業等）を実施している。  
（中期計画番号：K16）

資料 A1-1-5-1 授業改善のためのアンケート

授業改善のためのアンケート		回答						
質問No.	質問文	1	2	3	4	5		
Q1	授業の難易度は、どうでしたか。	1 非常に難しかった	2 少し難しかった	3 ちょうどよかった	4 少し易しかった	5 非常に易しかった	無効	平均
		0	5	5	1	0	0	2.64
Q2	教員の声は、聞き取りやすかったですか。	1 非常に聞き取りやすかった	2 聞き取りやすかった	3 聞き取りにくかった	4 非常に聞き取りにくかった		無効	平均
		4	7	0	0		0	1.64
Q3	授業の手段(教科書・プリント・板書、PowerPoint、ビデオ等)は、有効でしたか。	1 非常に有効だった	2 有効だった	3 あまり有効ではなかった	4 全く有効ではなかった		無効	平均
		5	6	0	0		0	1.55
Q4	この授業において、教員との双方向的なやりとり(授業中の質疑応答、受講生へのレポートへの教員のコメント、質問カードの利用など)が、どの程度行われていましたか。	1 十分に行われていた	2 少し行われていた	3 あまり行われていなかった	4 全く行われていなかった		無効	平均
		1	6	3	1		0	2.36
Q5	授業の目標は、どの程度明示されていましたか。	1 十分に明示されていた	2 少し明示されていた	3 あまり明示されていなかった	4 全く明示されていなかった		無効	平均
		7	4	0	0		0	1.36
Q6	あなた自身は、授業の目標をどの程度達成したと思いますか。	1 十分に達成できた	2 少し達成できた	3 あまり達成できなかった	4 全く達成できなかった		無効	平均
		2	8	0	0		1	1.80
Q7	大学の授業の単位は、授業時間の2倍の時間外学習を前提として取得できることになっています。あなたは、この授業について1週あたり平均して、どの程度、授業時間外の学習(予習・復習、資料収集、文献購読、レポート作成など)をしましたか。	1 3時間以上	2 2時間以上3時間未満	3 1時間以上2時間未満	4 1時間未満	5 全くしなかった	無効	平均
		1	5	3	2	0	0	2.55
Q8	全体として、この授業はどの程度有意義でしたか。	1 非常に有意義だった	2 有意義だった	3 あまり有意義ではなかった	4 全く有意義ではなかった		無効	平均
		5	6	0	0		0	1.55

(出典 薬学教育部 FD 部会資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

- ・ 2つの専攻科の特色を出すため、AP・CP・DPを掲げるとともに、キャリアパスを意識した授業カリキュラムを構築している。
- ・ 国立がん研究所との連携講座の設置及び国内外大学との部局間協定の締結により、高度職業人の養成およびレギュラトリーサイエンスプログラムの充実を図っている。
- ・ 文部科学省博士課程教育リーディングプログラム「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO」の推進に向けて全力で取り組んでいる。

## 観点 教育内容・教育方法

(観点に係る状況)

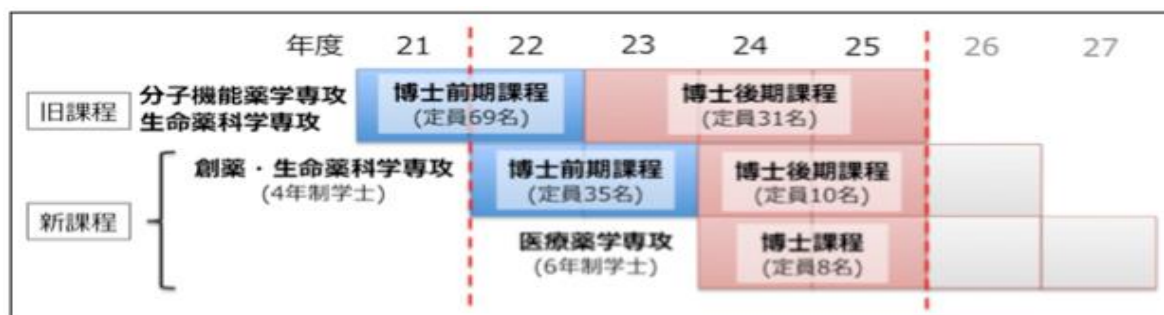
## 1 体系的な教育課程の編成状況

薬学教育部の教育課程の概念図はウェブサイト公開している。(資料 A1-2-1-1) 目標とする人材養成のため医療薬学専攻ならびに創薬・生命薬科学専攻の学位授与方針(ディプロマポリシー)が定められている(資料 A1-2-1-2)。また、各専攻の学位審査体制・修了要件は、熊本大学ウェブサイトや学生便覧等に明示されている(資料 A1-2-1-3)。

教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)は、熊本大学ウェブサイト示されている(資料 A1-2-1-4)。各専攻の授業科目の開設状況(コースの分類、年次配当、必修・選択の別ならびに平成 25 年度授業計画カレンダー)は、学生便覧等に提示されている(資料 A1-2-1-5)。

また、授業科目案内、履修要項、シラバスは、薬学教育部のウェブサイト示されており(資料 A1-2-1-6)、シラバスの記述例は、資料 A1-2-1-7 に提示した。平成 25 年度の各専攻の授業時間割は、資料 A1-2-1-8 のとおりである。修了に必要な単位数、最低履修単位数ならびに履修方法等は、資料 A1-2-1-9 および学生便覧に明示されている。履修モデルは、薬学教育部のウェブサイト示されており(資料 A1-2-1-9)、学生が体系的に授業に取り組み、単位を修得するのに役立っている。(中期目標計画: K14)

## 資料 A1-2-1-1 教育課程の概念図



(出典: 熊本大学ウェブサイト)

## 資料 A1-2-1-2 学位授与の方針(ディプロマポリシー DP)

**医療薬学専攻**

- (1) 本学大学院薬学教育部の定める期間在学して、教育部の教育と研究の理念や目的に沿った研究指導を受け、かつ所定年限内に教育部が行う博士論文の審査及び最終試験に合格し、課程を修了することが学位授与の要件である。その審査及び最終試験では、自らの研究の成果と意義を国際的な水準で議論できることが評価に際し、重要な要件である。
- (2) 博士課程の学生は、授業科目のうちから、32単位以上を修得する必要がある、履修しようとする授業科目は、専門分野にとらわれない分野横断的なものとなっていることが望ましい。
- (3) 研究者として自立して活動し、また高度な専門業務に従事するために必要な能力とその基盤となる学識を身につけていることが、修了に際し、強く考慮される。
- (4) 研究が、高い倫理性と強固な責任感とをもって実施され、人や自然との共生にかなったものとなっていること。

**創薬・生命薬科学専攻**

- (1) 本学大学院薬学教育部の定める期間在学して、教育部の教育と研究の理念や目的に沿った研究指導を受け、かつ所定年限内に教育部が行う修士または博士論文の審査及び最終試験に合格し、課程を修了することが学位授与の要件である。修士の審査及び最終試験では、自らの研究の成果と意義を科学的かつ論理的に議論できる



- ことが評価に際し、重要な要件である。博士の審査及び最終試験では、自らの研究の成果と意義を国際的な水準で議論できることが評価に際し、重要な要件である。
- (2) 博士前期課程の学生は、授業科目のうちから、34単位以上を修得する必要がある。履修した授業科目は、各コース特定の専門分野に加えて、専門分野にとらわれない分野横断的なものとなっていることが望ましい。
- (3) 博士後期課程の学生は、授業科目のうちから、16単位以上を修得する必要がある。履修した授業科目は、社会で薬の専門家の高度専門職業人として即戦力となりうる特定分野の深い知識・技能に加え、幅広い知識・技能を持ち、かつ研究者専門分野にとらわれない分野横断的なものとなっていることが望ましい。
- (4) 研究者として自立して活動し、また高度な専門業務に従事するために必要な能力とその基盤となる学識を身につけていることが、修了に際し、強く考慮される。
- (5) 研究が、高い倫理性と優れた倫理観と環境マネジメント能力をもち、地域ならびに国際社会に積極的に貢献できるものになっていることは、修了に際し、考慮される。

本内容に関して詳しく記載されているウェブサイトの URL を以下に示す。

#### 医療薬学専攻 博士課程

[http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/iryo\\_yakugaku.html](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/iryo_yakugaku.html)

#### 創薬・生命薬科学専攻 博士前期課程

[http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku\\_seimei\\_j.html](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku_seimei_j.html)

#### 創薬・生命薬科学専攻 博士後期課程

[http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku\\_seimei\\_s.h](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku_seimei_s.h)

(出典：熊本大学ウェブサイト)

### 資料A1-2-1-3 学位審査体制ならびに修了要件

#### 医療薬学専攻 博士課程

##### (1) 学位審査体制

学位申請には、博士論文と本人が筆頭著者 (equal contributionも含む) になっている英語で書かれた公表論文 (審査委員を置く学術雑誌に掲載済みまたは投稿中) 1報以上の提出を必要とする。なお、投稿中である場合、受付を証明する書類と投稿論文1部を申請書類に添付すること。

##### (2) 修了要件

博士課程の学生は、授業科目のうちから32単位以上を修得し、履修に当たっては、下記の表のとおり履修しなければならない。

コース	授業科目等	単位数	
		必修	選択必修
臨床薬学コース	共通科目から	18単位	2単位以上
	コース科目1から		8単位
	コース科目2から	2単位	2単位以上
医療薬科学コース	共通科目から	18単位	6単位以上
	コース科目から	4単位	4単位以上

#### 創薬・生命薬科学専攻 博士前期課程

##### (1) 学位審査体制

学位申請には、修士論文を提出し、修士の学位を受けようとする場合の審査及び最終試験を受けることとする。

##### (2) 修了要件

博士前期課程の学生は、授業科目のうちから34単位以上を修得し、履修に当たっては、下記の表のとおり履修しなければならない。

必修・選択	授業科目等	単位数
必修	全コース共通から	14単位
	所属するコースから	12単位
選択	全コース共通から	8単位以上

**創薬・生命薬科学専攻 博士後期課程****(1) 学位審査体制**

学位申請には、博士論文と本人が筆頭著者 (equal contribution も含む) になっている英語で書かれた公表論文 (審査委員を置く学術雑誌に掲載済みまたは投稿中) 1 報以上の提出を必要とする。なお、投稿中である場合、受付を証明する書類と投稿論文 1 部を申請書類に添付すること。

**(2) 修了要件**

博士後期課程の学生は、授業科目のうちから 16 単位以上を修得し、履修に当たっては、下記の表のとおり履修しなければならない。

必修・選択	授業科目等	単位数
必修	全コース共通から	14 単位
	所属するコースから	2 単位

本内容に関して詳しく記載されているウェブサイトの URL を以下に示す。

**医療薬学専攻 博士課程**

[http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/iryo\\_yakugaku/p12.html](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/iryo_yakugaku/p12.html)

**創薬・生命薬科学専攻 博士前期課程**

[http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku\\_seimei\\_j/p12.html](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku_seimei_j/p12.html)

**創薬・生命薬科学専攻 博士後期課程**

[http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku\\_seimei\\_s/p12.html](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku_seimei_s/p12.html)

**HIGO プログラム**

<http://higoprogram.org/curriculum/duration.html>

(出典：熊本大学ウェブサイト)

## 資料 A1-2-1-4 教育課程の編成・実施方針 (カリキュラムポリシー CP)

**医療薬学専攻カリキュラムポリシー**

- (1) 医療・健康・環境やその基礎となる科学に強い関心をもち、高い問題提起能力および問題解決能力を修得し、研究者・教育者あるいは薬剤師など医療薬学・臨床薬学の関わるさまざまな領域で指導的立場に立って社会に貢献しようという意欲を有する人材を育成する。さらに、“地域社会に開かれた大学院”として、社会人に門戸を開き、薬剤師の資質向上を目指した生涯教育を実施する。
- (2) 社会が求める実践的な高度専門職業人は、いわゆる特定分野の深い知識・技能に加え、薬学全般に通じている人間でなければならないという考えに基づき、創薬科学、生命科学、生命倫理、医薬品開発、臨床試験、論文作成技術、副作用被害、医療訴訟などの幅広い知識・技能を持ち、かつ臨床および企業等の現場での実践的能力を身につけ、将来、それらを病院、薬局、製薬企業、CRO、SMO や大学・研究所で活かせる先導的薬剤師および臨床現場の薬剤師業務を理解する基礎薬学研究者、製薬企業等での医薬品製造研究者・臨床開発者、治験コーディネーター、大学等での教員・研究員として活動する人材を育てる。
- (3) 卒業した大学の学部によらず (1)、(2) を効果的に実現するために、6 年制学部を卒業し先導的薬剤師の養成を目指す「臨床薬学」コースおよび医療の分かる研究開発者および教育者の養成を目指す「医療薬科学」コースの 2 コース制とする。
- (4) 自らの研究の成果と意義を国際的な水準で議論し、必要に応じて、自らが国際共同研究の展開に寄与できる能力を養う。
- (5) 専門分野にとらわれない分野横断的な学修ができるカリキュラムを実施し、常に未知の分野の研究にも、果敢に挑戦できる素地を形成する。
- (6) 自らの研究の成果と、人や自然や社会との共生のために、強い責任感と高い倫理性をもって、自らの研究を深化させていく力を育てる。

**創薬・生命薬科学専攻カリキュラムポリシー**

- (1) 社会が求める創薬および生命科学のスペシャリストを養成すること。そのため、4 コース制を導入し、特定のカリキュラムを実施する。すなわち、

- ・医薬品の体内動態評価、製剤化および薬物送達を行うドラッグデリバリーコース（医療系創薬研究者の養成）
- ・医薬品の探索を行うバイオファーマコース（生物系創薬研究者の養成）
- ・医薬品のターゲットを発見し、医薬品の設計・合成を行うメディシナルケミストリーコース（化学系創薬研究者の養成）
- ・発生学や遺伝学などの生命資源学を専門基盤とし、創薬についての要素も含むライフサイエンスコース（生命科学研究者の養成）

(2) 特定の専門領域だけでなく、より俯瞰的かつ実践的な人材や国際化に対応できる人材を養成するため、各コースを担当する教員が連携して演習形式の授業を行うとともに、多様なシンポジウム・講演会・セミナーに参加し、自分の専門分野以外の研究動向についての知識を増やし、討論を通して理解を深めるための授業科目を配置する。

(3) 優れた倫理観と環境マネジメント能力をもち、地域ならびに国際社会に積極的に貢献できる行動力を養成するために、生命倫理学、英語でのプレゼンテーションや論文作成のための演習などの授業科目網目を導入する。

本内容に関して詳しく記載されているウェブサイトの URL を以下に示す。

医療薬学専攻 博士課程  
[http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/iryo\\_yakugaku/p06.html](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/iryo_yakugaku/p06.html)  
 創薬・生命薬科学専攻 博士前期課程  
[http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku\\_seimei\\_j/p06.html](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku_seimei_j/p06.html)  
 創薬・生命薬科学専攻 博士後期課程  
[http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku\\_seimei\\_s/p06.html](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku_seimei_s/p06.html)

(出典：熊本大学ウェブサイト)

資料A1-2-1-5 授業科目の開設状況

平成25年度 授業計画カレンダー（薬学教育部）

  は祝日及び休講日    
   は予備日    
   は、補講日

		前期																				
		4月					5月					6月					7月					8月
月		8	15	22	4/29	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	7/30~ 8/1は 月曜日の2コマ分の 補講日。		
火		9	16	23	4/30	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6			
水		10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7			
木		11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	8/1	8			
金		12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	5	12	19	26	8/2	9			

		後期																					
		9月					10月					11月					12月					1月	2月
月		9/30	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	13	20	27	3	2/4~ 2/6は 月曜日の3コマ分の 補講日。				
火		1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	14	21	28	4					
水	9/25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	23	15	22	29	5					
木	9/26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	5	12	19	23	16	23	30	6					
金	9/27	4	11	18	25	11/1	8	15	22	29	6	13	20	23	17	24	31	7					

【学年歴】

- \* 春季休業 : 4月 3日まで
- \* 入学式 : 4月 4日(新入生ガイダンス: 4月3日)
- \* オープンキャンパス : 8月10日
- \* 夏季休業 : 8月11日~9月24日
- \* 開学記念日 : 11月 1日
- \* 紫熊祭準備 : 11月 1日
- \* 紫熊祭 : 11月2日~11月4日
- \* 紫熊祭後片付け : 11月 日
- \* 冬季休業 : 12月25日~1月10日
- \* 卒業式 : 3月25日

【祝祭日】

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>昭和の日 : 4月29日</li> <li>憲法記念日 : 5月 3日</li> <li>みどりの日 : 5月 4日</li> <li>こどもの日 : 5月 5日</li> <li>海の日 : 7月15日</li> <li>敬老の日 : 9月16日</li> <li>秋分の日 : 9月23日</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>体育の日 : 10月14日</li> <li>文化の日 : 11月 3日</li> <li>勤労感謝の日 : 11月23日</li> <li>天皇誕生日 : 12月23日</li> <li>元日 : 1月1日</li> <li>成人の日 : 1月13日</li> <li>建国記念の日 : 2月11日</li> <li>春分の日 : 3月21日</li> </ul> |
|--|--|

医療薬学専攻 博士課程

[http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/iryo\\_yakugaku/p09.html](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/iryo_yakugaku/p09.html)  
 創薬・生命薬科学専攻 博士前期課程  
[http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku\\_seimei\\_j/p09.html](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku_seimei_j/p09.html)  
 創薬・生命薬科学専攻 博士後期課程  
[http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku\\_seimei\\_s/p09.html](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku_seimei_s/p09.html)

HIGOプログラム（基礎コース）  
[http://higoprogram.org/curriculum/post\\_4.html](http://higoprogram.org/curriculum/post_4.html)  
 HIGOプログラム（専門コース）  
[http://higoprogram.org/curriculum/post\\_5.html](http://higoprogram.org/curriculum/post_5.html)  
 HIGOプログラム（4年コース）  
<http://higoprogram.org/curriculum/4.html>

(出典：薬学教育部教授会資料)

資料A1-2-1-6 授業科目案内、履修要項、シラバス等

## カリキュラム、履修要項

・医療薬学専攻 博士課程  
 臨床薬学コース

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員配置				
			必修	選択必修	選択	講義	演習	実習・実験	教授	准教授	講師	助教	助手
共通科目	生命倫理学特論	1前	2			○			1				
	医療薬学論文研究	1前	2				○				1	1	
	医療総合演習	1～4	2				○						
	医療実践演習	1～4	2				○						
	医療特別実験	1～4	10					○					
	副作用被害・医療訴訟特論	1前		2		○			1				
	臨床開発演習	1後		2			○		1				
	治験コーディネータ演習	3前		2			○		2				
	薬剤疫学特論	3前		2		○				1			
コース科目1	専門薬剤師実習	2前後		8				○					
	実践臨床薬学実習	2前後		8				○					
コース科目2	地域医療連携特論	1後	2			○			1				
	医療経営学特論	1後		2		○			1				
	プライマリケア実習	1後		2				○			2		
	専門薬剤師特論	2前		2		○			1	1			
	TDM演習	3前		2			○		1		1		
	医薬品治験開発特論	3前		2		○				2			

## 医療薬科学コース

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員配置				
			必修	選択必修	選択	講義	演習	実習・実験	教授	准教授	講師	助教	助手
共通科目	生命倫理学特論	1前	2			○			1				
	医療薬学論文研究	1前	2				○				1	1	

	医療総合演習	1~4	2				○						
	医療実践演習	1~4	2				○						
	医療特別実験	1~4	10					○					
	副作用被害・医療訴訟特論	1前		2		○			1				
	臨床開発演習	1後		2			○		1				
	治験コーディネーター演習	3前		2			○		2				
	薬剤疫学特論	3前		2		○				1			
コース科目	医療薬科学特論	1前	2			○			2	2			
	医療薬科学課題実習	1後	2				○		2	2			
	再生医療特論	1後		2		○			2				
	実践インターナショナル演習	2年		2				○					
	トランスレーショナル演習	3前		2			○		1	1			
	医薬品製造・臨床調剤実習	3前		2			○		1		1		
	医療ICT演習	3前		2			○		1	1			

## ・創薬・生命薬科学専攻 博士前期課程

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		
			必修	選択	自由	講義	演習	実習・実験
全コース共通	生命環境倫理学特論	1前	2			○		
	有機化学特論	1前		2		○		
	物性化学特論	1後		2		○		
	医薬品化学特論	2前		2		○		
	生体機能学特論	1前		2		○		
	健康・毒性科学特論	1前		2		○		
	動物実験学特論	1後		2		○		
	医薬品スクリーニング学特論	2前		2		○		
	薬物動態学特論	1前		2		○		
	臨床医学特論	1後		2		○		
	科学英語プレゼンテーション演習	1前		2			○	
	ケーススタディ演習	2前		2			○	
	薬学実践演習	1~2	4				○	
	薬学総合演習	1~2	2				○	
	特別実験 I	1~2	6					○
小計 (15科目)	—	14	22	0		—		

ドラッグバリエーション	薬物送達学特論	1 前	2			○		
	DDS マテリアル学特論	1 後	2			○		
	先端医療学特論	1 後	2			○		
	医療薬学特論	2 前	2			○		
	創薬動態実習	1 前	2					○
	先端 DDS 実習	1 後	2					○
	小計 (6 科目)	—	12	0	0	—		
バイオファーマ	ゲノム創薬学特論	1 前	2			○		
	遺伝性疾患学特論	1 後	2			○		
	分子生物学特論	1 後	2			○		
	生化学特論	2 前	2			○		
	生体機能分子学実習	1 前	2					○
	薬効解析学実習	1 後	2					○
	小計 (6 科目)	—	12	0	0	—		
メシナリ	有機合成学特論	1 前	2			○		
	天然物化学特論	1 後	2			○		
	NMR 生命創薬学特論	1 後	2			○		
	X 線結晶構造解析学特論	2 前	2			○		
	先端有機化学実習	1 前	2					○
	先端物理化学実習	1 後	2					○
	小計 (6 科目)	—	12	0	0	—		
ライフサイエンス	病態遺伝子解析学特論	1 前	2			○		
	生殖発生学特論	1 後	2			○		
	臓器形成学特論	1 後	2			○		
	病態遺伝学特論	2 前	2			○		
	発生学実習	1 前	2					○
	生命資源学実習	1 後	2					○
	小計 (6 科目)	—	12	0	0	—		
合計 (39 科目)		—	62	22		—		

## ・創薬・生命薬科学専攻 博士後期課程

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態		
			必修	選択	講義	演習	実習・実験
共通科目	特許演習	1 前	2			○	
	起業・大学教員演習	1 後	2			○	
	市場調査演習	1 後	2			○	
	臨床開発演習	2 前	2			○	
	特別実験Ⅱ	1~3	6				○
	研究型インターンシップ	2 年		2			○

コース 科目	メディシナルケミストリー課題実習	2 前	2				○
	バイオフィーマ課題実習	2 前	2				○
	ドラッグデリバリー課題実習	2 前	2				○
	ライフサイエンス課題実習	2 前	2				○

## シラバス

熊本大学シラバス（授業計画）						
No	授業科目名	年次	学期	単位	担当教員	
1	生命環境倫理学特論	1 年	前期	2		
2	有機化学特論	1 年	後期	2		
3	医薬品情報化学特論（分子軌道論を使った反応解析）	1 年	前期	2		
4	生体機能学特論	1 年	後期	2		
5	健康・毒性科学特論	1 年	後期	2		
6	動物実験学特論（動物実験学）	1 年	集中	2		
7	科学英語プレゼンテーション演習	1 年	後期	2		
8	ケーススタディ演習（医薬品開発と企業化の実際）	1 年	後期	2		
9	薬学総合演習（製剤設計学）（総合演習）	1 年	通年	2		
10	薬学総合演習（薬物活性学）	1 年	通年	2		
11	薬学総合演習（微生物薬学）	1 年	通年	2		
12	薬学総合演習（環境分子保健学）	1 年	通年	2		
13	薬学総合演習（薬学生化学）	1 年	通年	2		
14	薬学総合演習（創薬基盤分子設計学）（総合演習）	1 年	通年	2		
15	薬学総合演習（分子薬化学）	1 年	通年	2		
16	薬学総合演習（生命分析化学）	1 年	通年	2		
17	薬学総合演習（天然薬物学）	1 年	通年	2		
18	薬学総合演習（臓器形成学）	1 年	通年	2		
19	薬学実践演習（製剤設計学）（薬学実践演習（製剤））	1 年	通年	4		
20	薬学実践演習（薬物活性学）	1 年	通年	4		
21	薬学実践演習（微生物薬学）	1 年	通年	4		
22	薬学実践演習（環境分子保健学）	1 年	通年	4		
23	薬学実践演習（薬学生化学）	1 年	通年	4		
24	薬学実践演習（創薬基盤分子設計学）（薬学実践演習（創薬基盤分子設計学））	1 年	通年	4		
25	薬学実践演習（分子薬化学）	1 年	通年	4		

## 出典

医療薬学専攻 博士課程

[http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/iryo\\_yakugaku/p07.html](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/iryo_yakugaku/p07.html)

創薬・生命薬科学専攻 博士前期課程

[http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku\\_seimei\\_j/p07.html](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku_seimei_j/p07.html)

創薬・生命薬科学専攻 博士後期課程

[http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku\\_seimei\\_s/p07.html](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku_seimei_s/p07.html)

HIGOプログラム

<http://higoprogram.org/curriculum/about.html>

熊本大学授業計画

[http://syllabus.jimu.kumamoto-u.ac.jp/kusy\\_result.php?scd=69](http://syllabus.jimu.kumamoto-u.ac.jp/kusy_result.php?scd=69)

医療薬学専攻 博士課程

[http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/iryo\\_yakugaku/p08.html](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/iryo_yakugaku/p08.html)

創薬・生命薬科学専攻 博士前期課程

[http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku\\_seimei\\_j/p08.html](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku_seimei_j/p08.html)  
 創薬・生命薬科学専攻 博士後期課程  
[http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku\\_seimei\\_s/p08.html](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku_seimei_s/p08.html)  
 HIGOPプログラム <http://higoprogram.org/curriculum/subjects.html>

(出典：シラバス)

## 資料A1-2-1-7 シラバスの記述例

シラバスの記載例			
<b>基本情報</b>			
授業科目名	(日)	ゲノム創薬学特論	
	(英)		
時間割コード	04605	開講年次	1年
学期	前期	曜日・時限	木 2限
講義題目			
担当教官			
科目コード	6921120010	科目分類	
選択／必修	便覧参照	単位数	2
<b>詳細情報</b>			
授業形態	講義・WebCT		
授業の目標	<p>ヒトゲノムプロジェクトによって 2001 年にヒト遺伝子の全塩基配列がほぼ解明されたことに呼応し、機能ゲノミクス、薬理ゲノミクス、プロテオミクス、メタボロミクス、タンパク質間相互作用解析といった研究基盤に基づく新たな創薬戦略の確立が試みられるようになってきた。本特論ではそのような近年の状況を踏まえ、創薬戦略の方法論を中心とした最新の研究動向を学び、創薬マインドの醸成を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ゲノム創薬に関わる主な戦略について説明できる。</li> <li>ゲノム創薬の特長と問題点について説明できる。</li> </ol>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>バイオインフォマティクスと創薬</li> <li>ケモインフォマティクスとコンビナトリアルケミストリー</li> <li>創薬標的分子の探索・評価</li> <li>シグナル伝達分子と創薬</li> <li>レポート作成-1 (WebCT 利用)</li> <li>ゲノム創薬の考え方に基づく抗菌剤の開発方法例</li> <li>リード化合物の決定の最適化-1</li> <li>トキシコゲノミクスと遺伝子多型解析</li> <li>薬物動態特性の最適化戦略</li> <li>レポート作成-2 (WebCT 利用)</li> <li>薬理ゲノミクス</li> <li>ゲノム情報に基づいた薬物感受性の個体差克服の戦略</li> <li>ゲノム時代の臨床試験と医薬品行政</li> <li>レポート作成-3 (WebCT 利用)</li> <li>レポートを題材とした解説と討論 (Learning through discussion)</li> </ol> <p>随時、トップジャーナルに掲載された英語論文を取り上げ、関連分野における最新の研究動向を紹介する。</p>		
キーワード	医薬品開発、ハイスループットスクリーニング、抗体医薬、核酸医薬、抗癌薬		
テキスト	講義時間に資料配付		
参考文献	最新の英文原著論文および総説の情報を随時提供する。		
評価方法・基準	講義中に提示する課題に対するレポートの内容に基づいて評価する。		
履修上の指導	学士課程における薬理学、生理学、生化学等の知識を基礎とする。また、		



	生物学領域の英語論文を読解する能力が必要となる。
<b>事前学習</b>	各授業の前に予め題材となる論文を提示するので、前もって目を通しておくことが望ましい。
<b>事後学習</b>	題材として授業で取り上げた論文に関連する研究分野や、引用されている参考論文について、適宜自己学習に励むこと。

(出典：シラバス)

資料A1-2-1-8 授業時間割

平成25年度 薬学教育部博士課程《HIGOプログラム4年コース》授業時間割												
※太字は必修科目											<b>前期</b>	
1時限(9:40~10:10)					2時限(10:20~11:50)							
曜日	年次	時間割コード	科目名	教員	教室	年次	時間割コード	科目名	教員	教室		
月	3	09010	HIGO薬剤疫学特論 ※平成26年度開講予定	入倉								
火						3	09025	HIGO医薬品治験開発特論 ※平成26年度開講予定	渡邊			
水						3	09035	HIGOトランスレーショナル基礎講座 ※平成26年度開講予定	本山			
木	1年	09020	HIGO医療薬科学特論	香月	2							
金												
3時限(12:50~14:20)				4時限(14:30~16:00)				5時限(16:10~17:40)				
曜日	時間割コード	科目名	教員	教室	時間割コード	科目名	教員	教室	時間割コード	科目名	教員	教室
月						HIGO最先端研究プロジェクト						
火						HIGO最先端研究セミナー						
水						HIGO行政セミナー						
木						HIGO企業セミナー						
金	07200	社会文化	高橋 隆雄	発・カ								
通年、集中科目												
年次	時間割コード	科目名	教員	備考								
1~4年	09355	HIGO最先端研究プロジェクト	各分野教員	通年科目								
1~4年	09350	HIGO最先端研究セミナー	各担当研究室、水(12:00~13:00)、発・カ	通年科目								
1~4年	09310	HIGO行政セミナー	入江									
1~4年	09315	HIGO企業セミナー	有馬									
1~4年	09335	HIGO行政インターンシップ	入江、8~9月、12月~1月	随時連絡								
1~4年	09340	HIGO企業インターンシップ	有馬、8~9月、12月~2月	随時連絡								
1~4年	09345	HIGO海外インターンシップ	甲斐、8~9月、12月~3月	随時連絡								
1~4年	09325	HIGO英語講座	佐々木、9/19、20(1~4時限目)	時間割時間は医学教育部								
2年	09030	HIGO専門薬剤師特論	入江									
教室	講義室名											
1	第1講義室											
2	第2講義室											
3	第3講義室											
4	第4講義室											
5	第5講義室											
タ	多目的ホール											
コ	富本記念館コンベンションホール											
カ	富本記念館カンファレンスルーム											
研	善法館研修室											
発・カ	発生研 1階カンファレンスルーム											

後期

1時限(8:40~10:10)					2時限(10:20~11:50)					
曜日	年次	時間割コード	科目名	教員	教室	年次	時間割コード	科目名	教員	教室
月						1年	09005	HIGO医療薬学論文研究	首藤 剛、 Mary Ann Suico	2
火										
水										
木										
金						1年	09015	HIGO医療経営学特論	丸山	5

3時限(12:50~14:20)				4時限(14:30~16:00)				5時限(16:10~17:40)				
曜日	時間割コード	科目名	教員	教室	時間割コード	科目名	教員	教室	時間割コード	科目名	教員	教室
月	HIGO最先端研究プロジェクト											
火	HIGO最先端研究セミナー											
水	HIGO行政セミナー											
木	HIGO企業セミナー											
金												

集中、その他科目				
年次	時間割コード	科目名	教員	備考
1~4年	09305	HIGO特別実習		
1~4年	09330	HIGO中国語講座	佐々木、10/8、11/12、12/10、1/14(3・4時限目)	

教室	講義室名
1	第1講義室
2	第2講義室
3	第3講義室
4	第4講義室
5	第5講義室
タ	多目的ホール
コ	宮本記念館コンベンションホール
カ	宮本記念館カンファレンスルーム
研	番瀬館研修室

平成25年度 薬学教育部博士前期課程《HIGOプログラム基礎コース》授業時間割

○平成25年度授業開始日: 前期4月8日(月)、後期10月1日(火)  
 ※平成24年度以降入学者対応(太字は必修科目)

前期

1時限(8:40~10:10)					2時限(10:20~11:50)					
曜日	時間割コード	年次	科目名	教員	教室	時間割コード	年次	科目名	教員	教室
月										
火										
水	07065	1	HIGO薬師名所字特論	大塚 健巳 藤田良子	ホ					
木	07095	1	HIGO薬物送達学特論	青馬 高徳	カ	07045	1	HIGO創薬学特論	大塚 健巳	研
金	07030	1	HIGO臨床薬学特論	宇野 純生 西崎 大介	カ	07050	1	HIGO薬学生化学特論	杉本 幸彦 三浦 浩志	研

3時限(12:50~14:20)				4時限(14:30~16:00)				5時限(16:10~17:40)				
曜日	時間割コード	科目名	教員	教室	時間割コード	科目名	教員	教室	時間割コード	科目名	教員	教室
月	HIGO最先端研究プロジェクト I											
火	HIGO行政セミナー I											
水	HIGO企業セミナー											
木												
金	07200	社会文 高橋 陸雄		発・カ								

通年、集中科目				
年次	時間割コード	科目名	教員	備考
1,2	07350	HIGO最先端研究プロジェクト I	各分野教員	通年科目
1,2	07305	HIGO行政セミナー I	入江	通年科目
1,2	07310	HIGO企業セミナー I	有馬	通年科目
1,2	07335	HIGO行政インターナショナル I	入江、8~9月、12月~1月	
1,2	07340	HIGO企業インターナショナル I	有馬、8~9月、12月~2月	
1,2	07345	HIGO海外インターナショナル I	甲斐、8~9月、12月~3月	
1,2	07320	HIGO英語講座 I	佐々木、9/19、20(1~4時限目)	時間割時間とは異なる

教室	講義室名
1	第1講義室
2	第2講義室
3	第3講義室
4	第4講義室
5	第5講義室
タ	多目的ホール
コ	宮本記念館コンベンションホール
カ	宮本記念館カンファレンスルーム
研	番瀬館研修室
発・カ	発生研 1階カンファレンスルーム

後期

時間	1時限(9:40~10:10)					2時限(10:20~11:50)				
曜日	時間割コード	年次	科目名	教員	教室	時間割コード	年次	科目名	教員	教室
月	07005	1	HIGO有機化学特論	中島 誠	4					
火	07025	1	HIGO生体機能学特論		カ	07015	1	HIGO医薬品学特論	甲斐 広文	コ
水	07020	1	HIGO薬物動態学特論	今井 輝子	カ					
木	07060	1	HIGO天然物化学特論	塚本佐知子	2	07010	1	HIGO物性化学特論	山越 ゆり子	コ
金	07070	1	HIGO眼器形成学特論	山村 研一	コ	07065	1	HIGO病態遺伝子解析学特論	中村 輝	カ

時間	3時限(12:50~14:20)				4時限(14:30~16:00)				5時限(16:10~17:40)			
曜日	時間割コード	科目名	教員	教室	時間割コード	科目名	教員	教室	時間割コード	科目名	教員	教室
月	HIGO最先端研究プロジェクト I HIGO行政セミナー I HIGO企業セミナー											
火												
水												
木												
金												

集中、その他科目				
年次	時間割コード	科目名	教員	備考
1	07040	HIGO先端医療学特論	斎藤 秀之、城野 博史	集中、6時限目、コ
1	07330	HIGO特別実習 I	各分野教員	
1	07315	HIGO中国語講座	佐々木、10/8、11/12、12/10、1/14(3・4時限目)	

教室	講義室名
1	第1講義室
2	第2講義室
3	第3講義室
4	第4講義室
5	第5講義室
タ	多目的ホール
コ	宮本記念館コンベンションホール
カ	宮本記念館カンファレンスルーム
研	善法館研修室

平成25年度 博士後期課程時間割一覧

○平成25年度授業開始日:前期4月8日(月)、後期10月1日(火)

課程	コース等	科目名	単位数	必修	担当教員	曜日時限	時間割コード	場所	
博士後期課程	全コース共通	特許演習	2	必修	甲斐広文	後期集中	05000	後日通知	
		起業・大学教員演習	2	必修	山村研一・荒木喜美	後期集中	05005	後日通知	
		市場調査演習	2	必修	甲斐広文	集中	05010	後日通知	
		臨床開発演習	2	必修	有馬 英俊	集中	05015	後日通知	
		特別実験II	6	必修	※各分野長	その他	05100	-	
		研究型インターンシップ	2	選択	※各分野長	その他	05200	-	
		ドラッグデリバリーコース	ドラッグデリバリー課題実習	2	必修	今井輝子・三隅将吾	集中	05500	後日通知
		バイオフィーマコース	バイオフィーマ課題実習	2	必修	杉本幸彦・首藤剛	集中	05400	後日通知
		メディシナルケミストリーコース	メディシナルケミストリー課題実習	2	必修	大塚雅巳・杉浦正晴	集中	05300	後日通知
		ライフサイエンスコース	ライフサイエンス課題実習	2	必修	佐々木洋・大杉剛生	集中	05600	後日通知

※平成23年度以前入学者については、時間割コードが異なります。別途、薬学事務チーム教務担当までお尋ねください。

博士後期課程における履修方法

必修・選択	授業科目等	単位数
必修	全コース共通から	14単位
	所属するコースから	2単位

(出典:薬学教育部教授会資料)

## ・医療薬学専攻 博士課程の履修モデル

学生は2コースの中のいずれか一つのコースを必ず選択し、各コースの授業科目（計12単位以上）に加え、共通科目の中の必修科目である生命倫理学特論、医療薬学論文研究、医療総合演習、医療実践演習、医療特別実験（計18単位）、およびその他の選択科目のうちから、次の履修モデルに従って計32単位以上を修得する。

コース	人材育成目標	区分	授業科目（単位数）	合計単位数
臨床薬学	専門薬剤師・認定薬剤師の養成支援	共通科目	生命倫理学特論（2）、医療薬学論文研究（2）、医療総合演習（2）、医療実践演習（2）、医療特別実験（10）、副作用被害・医療訴訟特論（2）、薬剤疫学特論（2）	38単位
		コース科目1	専門薬剤師実習（8）	
		コース科目2	地域医療連携特論（2）、医療経営学特論（2）、専門薬剤師特論（2）、TDM演習（2）	
	医療全般に渡る指導的薬剤師	共通科目	生命倫理学特論（2）、医療薬学論文研究（2）、医療総合演習（2）、医療実践演習（2）、医療特別実験（10）、臨床開発演習（2）、治験コーディネート演習（2）	38単位
		コース科目1	実践臨床薬学実習（8）	
		コース科目2	地域医療連携特論（2）、医療経営学特論（2）、プライマリケア実習（2）、医薬品治験開発特論（2）	
医療薬科学	製薬企業の研究・開発者	共通科目	生命倫理学特論（2）、医療薬学論文研究（2）、医療総合演習（2）、医療実践演習（2）、医療特別実験（10）、副作用被害・医療訴訟特論（2）、臨床開発演習（2）、薬剤疫学特論（2）	34単位
		コース科目	医療薬科学特論（2）、医療薬科学課題実習（2）、再生医療特論（2）、医薬品製造・臨床調剤実習（2）、実践インターンシップ講座（2）	
	CRO、SMO、CMO、治験コーディネート従事者	共通科目	生命倫理学特論（2）、医療薬学論文研究（2）、医療総合演習（2）、医療実践演習（2）、医療特別実験（10）、治験コーディネート演習（2）、臨床開発演習（2）	34単位
		コース科目	医療薬科学特論（2）、医療薬科学課題実習（2）、実践インターンシップ講座（2）、医薬品製造・臨床調剤実習（2）、医療ICT演習（2）	
	大学・研究機関での教育・研究者	共通科目	生命倫理学特論（2）、医療薬学論文研究（2）、医療総合演習（2）、医療実践演習（2）、医療特別実験（10）、副作用被害・医療訴訟特論（2）、臨床開発演習（2）、薬剤疫学特論（2）	34単位
		コース科目	医療薬科学特論（2）、医療薬科学課題実習（2）、再生医療特論（2）、トランスレーショナル基礎講座（2）、医療ICT演習（2）	

## ・創薬・生命薬科学専攻 博士前期課程の履修モデル

学生は4コースの中のいずれか一つのコースを必ず選択しなければならないことから、各コースの授業科目（計12単位）に加えて、共通科目の中の必修科目である薬学実践演習、薬学総合演習、特別実験I（計14単位）およびその他の選択科目から下記の履修モデルに従って、計22単位以上を修得する。なお、下記の（ ）内の数字は単位数を表す。

コース	区分	授業科目（単位数）	単位数
バイオフィーマ コース	共通 科目	特別実験Ⅰ（６）、薬学実践演習（４）、薬学総合演習（２）、生命環境倫理学特論（２）、ケーススタディ演習（２）、科学英語プレゼン演習（２）、医薬品安全学特論（２）、生体機能学特論（２）、医薬品スクリーニング学特論（２）	22 単位以上
	コース別 授業科目	ゲノム創薬学特論（２）、遺伝子特論（２）、分子生物学特論（２）、生化学特論（２）、生体機能分子学実習（２）、薬効解析学実習（２）	12 単位
メディシナル ケミストリー コース	共通 科目	特別実験Ⅰ（６）、薬学実践演習（４）、薬学総合演習（２）、生命環境倫理学特論（２）、ケーススタディ演習（２）、科学英語プレゼン演習（２）、有機化学特論（２）、物性化学特論（２）、医薬品情報学特論（２）	22 単位以上
	コース別 授業科目	有機合成学特論（２）、天然物化学特論（２）、NMR 生命創薬学特論（２）、X線結晶構造解析学特論（２）、先端有機化学実習（２）、先端物理化学実習（２）	12 単位
ドラッグ デリバリー コース	共通 科目	特別実験Ⅰ（６）、薬学実践演習（４）、薬学総合演習（２）、生命環境倫理学特論（２）、ケーススタディ演習（２）、科学英語プレゼン演習（２）、臨床医学特論（２）、薬物動態学特論（２）	22 単位以上
	コース別 授業科目	薬物送達学特論、DDS マテリアル特論、先端医療学特論、医療薬学特論、薬物体内動態実習（２）、ドラッグデリバリー実習（２）	12 単位
ライフサイエ ンスコース	共通 科目	特別実験Ⅰ（６）、薬学実践演習（４）、薬学総合演習（２）、生命環境倫理学特論（２）、科学英語プレゼン演習（２）、動物実験学特論（２）、ケーススタディ演習（２）、医薬品スクリーニング学特論（２）	22 単位以上
	コース別 授業科目	病態遺伝子解析学特論（２）、生殖発生学特論（２）、臓器形成学特論（２）、病態遺伝学特論（２）、発生学実習（２）、生命資源学実習（２）	12 単位

・創薬・生命薬科学専攻 博士後期課程の履修モデル

学生は各コースの課題実習（２単位）に加え、共通科目の中の必修科目（計 14 単位）を含む計 16 単位以上を修得する。

人材育成目標	区分	授業科目（単位数）	合計単位数
創薬科学・生命科 学研究者・教育者	共通 科目	特許演習（２）、起業・大学教員演習（２）、市場調査演習（２）、臨床開発演習（２）、特別実験Ⅱ（６）	16 単位
	コー ス科 目	課題実習（２）	

医療薬学専攻 博士課程

[http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/iryo\\_yakugaku/p10.html](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/iryo_yakugaku/p10.html)

創薬・生命薬科学専攻 博士前期課程

[http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku\\_seimei\\_j/p10.html](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku_seimei_j/p10.html)

創薬・生命薬科学専攻 博士後期課程

[http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku\\_seimei\\_s/p10.html](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/soyaku_seimei_s/p10.html)

HIGOプログラム

<http://higoprogram.org/curriculum/duration.html>

（出典：薬学教育部学生便覧）

## 2 社会のニーズに対応した教育課程の編成・実施上の工夫

優れた研究能力と臨床薬剤師としての職能を併せ持つ人材の育成が社会的に期待されている。医療薬学専攻博士課程では、幅広い知識と技能、臨床現場での実践的能力を身につけた先導的薬剤師の養成を目指す「臨床薬学コース」、ならびに、薬剤師業務を理解できる基礎研究者、開発研究者、治験コーディネーター（CRC）、教育者の養成を目指す「医療薬学コース」の2つの教育課程が編成されている（前掲資料A1-2-1-3）。さらに、社会的、および、職業的自立を図るために必要な能力を培うための配慮として、医療提供施設との緊密な連携を図りながら教育・研究が実施されている（資料A1-2-2-1）。

創薬・生命薬科学専攻では、独創的な発想力、探究心、創薬マインドを育みながら、自らの専門領域において卓越した研究能力を発揮でき、先端的創薬科学・生命科学研究や医薬品開発の場において指導能力を発揮できる人材の育成に対応した教育課程の編成・実施上の工夫を行っている（前掲資料 A1-2-1-3）。創薬・生命薬科学専攻在学中に薬剤師国家試験受験資格を得るために必要な単位を取得する際には、熊本大学大学院薬学教育部規則（第7条）ならびに熊本大学大学院薬学教育部長期履修細則に従い申請することで、長期履修学生として認められる（資料 A1-2-2-2）。また、熊本大学大学院学則に従って、広く研究生、特別研究学生を受入れている（資料 A1-2-2-3）。（中期計画番号：K21）

資料A1-2-2-1 教育課程の編成又は授業科目の内容において、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うための配慮

・医療提供施設との連携体制	
相手方分野名	代謝内科学
研究題目	2型糖尿病の新規治療法の開発
相手方分野名	臨床検査学
研究題目	家族性アミロイドポリニューロパチーの新規治療法の開発
相手方分野名	皮膚病態治療再建学分野
研究題目	強皮症治療薬の設計と合成に関する研究
相手方分野名	脳神経外科学分野
研究題目	脳卒中治療薬の設計と合成に関する研究
相手方分野名	病態情報解析学
研究題目	家族性アミロイドポリニューロパチー治療薬の設計と合成に関する研究
相手方分野名	細胞病理学分野
研究題目	マクロファージの泡沫化を予防・改善する天然薬物ならびにマクロファージの分化誘導物質の探索研究
相手方分野名	病態情報解析学（臨床検査医学）
研究題目	家族性アミロイドポリニューロパチーのプロダクト診断
相手方分野名	病態情報解析学
研究題目	トランスサイレチンのアミロイド形成過程に与える HSA の影響
相手方分野名	消化器内科
研究題目	アルブミン酸化度を指標とした肝炎患者の酸化ストレス評価
相手方分野名	病態情報解析学
研究題目	トランスサイレチンのアミロイド線維形成におよぼすシクロデキストリンおよびそのデンドリマー結合体の抑制効果
相手方分野名	病態情報解析学
研究題目	家族性アミロイドポリニューロパチーの遺伝子治療におけるラクトシル化デンドリマー/シクロデキストリン結合体の有効利用
相手方分野名	医学部附属病院薬剤部，腎臓内科学分野，代謝内科学分野，医学部附属病院先端医療支援センター
研究題目	個別化医療をリードする育薬フロンティアセンター研究拠点形成
相手方分野名	消化器内科
研究題目	アルブミン酸化度を指標とした肝炎患者の酸化ストレス評価
相手方分野名	医学部分子遺伝学分野
研究題目	薬剤性肝障害の発症における小胞体ストレス関連因子の機能解明
相手方分野名	泌尿器病態学
研究題目	薬物の透析性に関する検討ドリペネムの透析患者の薬物動態，透析性について
相手方分野名	腎臓内科学

研究題目	塩酸セベラマーによる便秘に対する下剤の適正使用に向けた検討 ～ 3. 血液透析患者を対象とした塩酸セベラマーと下剤の併用における便秘改善効果の検討～
http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/iryo_yakugaku/p11.html	

(出典:熊本大学ウェブサイト)

## 資料A1-2-2-2 長期履修適用者数

	平成24年度	平成25年度
医療薬学専攻	1名	0名
創薬・生命薬科学専攻	2名	3名
計	3名	3名

(出典:薬学部教務関係資料)

## 資料A1-2-2-3 研究生、特別研究学生等の受入状況

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
研究生	4名	4名	3名
特別研究学生	0名	3名	2名

(出典:薬学部教務関係資料)

## 3 国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫

HIGOプログラムでは、アジアからの留学生の受入れ、海外医療行政・アジア諸国の健康産業のニーズなどを知る実践的な機会として、海外インターンシップ等を行っている。平成25年度HIGOプログラムにおける薬学教育部コース生は12名(日本人9名、外国人3名)、薬学教育部準コース生は6名(日本人5名、外国人1名)である。

また、国際学会への参加を支援する制度(熊本大学国際奨学事業、平成22～24年度JSPS組織的な若手研究者等海外派遣プログラム等)を活用し、多くの大学院生を海外に派遣している(資料A1-2-3-1、資料A1-2-3-2)。(中期計画番号:K03、K20)

## 資料A1-2-3-1 学生海外派遣数

(1) 熊本大学国際奨学事業	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	7名	14名	3名	2名	1名
(2) 国際学会・会議 発表数	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
博士課程	-	-	-	0名	2名
博士後期課程	20名	37名	24名	10名	8名
博士前期課程	14名	23名	27名	11名	15名
渡航国	アメリカ、オーストラリア、韓国、等	アメリカ、オーストラリア、等	アメリカ、オーストラリア、マレーシア、等	中国、ネパール、等	アメリカ、インド、等

(出典:薬学部教務関係資料)

## 資料 A1-2-3-2 留学生の受入数

博士前期課程			
	4月入学	10月入学	計
平成21年度	1	1	2名
平成22年度	0	0	0名
平成23年度	1	1	2名
平成24年度	0	0	0名
平成25年度	1	3	4名

博士後期課程			
	4月入学	10月入学	計
平成21年度	0	1	1名
平成22年度	2	0	2名
平成23年度	1	0	1名
平成24年度	1	1	2名
平成25年度	2	2	4名

(出典:薬学部教務関係資料)

## 4 養成しようとする人材像に応じた効果的な教育方法の工夫

臨床薬学コースでは、社会が求める即戦力としての先導的薬剤師を養成するために、臨床現場における1年にわたる実践的・先端の実習を実施する。また、専門的授業の受講、国内外での学会発表および国際専門雑誌への論文投稿等を推進する。さらに、国際化に対応できる即戦力としての人材養成目標にきめ細かく対応している。一方、医療薬科学コースでは、研究能力ならびに薬剤師としての職能の両者を育成するカリキュラムにより、臨床現場で学んだ知識や技能を活かした基礎研究者、開発研究者、CRCや大学等での教員や研究員を養成するのに必要な授業科目を設置している（前掲資料A1-2-1-6、前掲資料A1-2-2-1）。

創薬・生命薬科学専攻博士前期課程では、4コースの専門分野に特化した講義・演習・実習科目を履修する。また、博士後期課程では、自主的な問題設定・問題解決能力を身につけさせるため、博士論文に直結する実験に加えて、製薬企業あるいは大学・公的機関等における研究企画評価を想定した企画書・研究計画書の作成とプレゼンテーションならびに計画に即した研究の実行を課す「課題実習」を組み込んでいる。また、特許、市場調査、臨床開発に関する演習科目を設定し、医薬研究開発の全体像を理解させる。さらに、ベンチャー起業の方法と課題、大学教員に必要な心構えや効果的教育方法および大学経営について理解するための演習科目を設定し、課程修了後の進路の選択にも直結する内容を含むカリキュラムを編成している（前掲資料A1-2-1-6）。（中期計画番号：K07）

## 5 学生の主体的な学習を促すための取組

学年歴および年間スケジュールは、薬学教育部ウェブサイトの中の「教育」に掲載されている（資料A1-2-5-1）。7月に行われる「九州薬科学研究教育連合大学院生合宿研修」は九州の薬学系国立三大学の院生が合宿し競い合うもので、主体的な学習へのモチベーションを高める取り組みである。また、学内LANは完備されており、無線LANも使用できる。履修指導は、毎年4月初めにガイダンスにより行われている。



## 資料A1-2-5-1 学年歴、年間スケジュール等

月	行 事
4 月	前学期開始 入学式、入部式 オリエンテーション 前学期授業開始 学生定期健康診断
7 月	大学院薬推薦入試 HIGOプログラム選抜試験 九州薬科学研究教育連合大学院生合宿研修
8 月	夏季休業 カリフォルニア大学ロスアンゼルス校研修 HIGOプログラム海外インターンシップ 大学院一般入試
10 月	後学期開始
11 月	開学記念日
12 月	学位論文提出 冬季休業
1 月	国際的活動支援奨学事業選考会
2 月	学位審査
2 月末～3 月	大学院発表会
3 月	大学院薬学教育部博士後期課程、博士課程入学者選考 卒業式

(出典:薬学教育部長作成資料)

## 6 その他

留学生のための各種情報は、熊本大学国際化推進センターの英文ウェブサイトに掲載されている(資料 A1-2-6-1)。社会人学生に対する情報提供は、熊本大学ウェブサイト「社会人受入れ」から得ることができる(資料 A1-2-6-2)。課外活動として、全学のサークルに加えて、薬学部独自の公認サークルも存在する。薬学部のサークルに対しては、学生委員会が予算面も含めて対応している。サークルの詳細情報は熊本大学および薬学教育部のウェブサイトから得ることができる(資料 A1-2-6-3)。生活支援制度、ハラスメントや健康に関する相談窓口、授業料免除や奨学金制度に関する経済的支援制度などについては、熊本大学ウェブサイトの「大学生活」から得ることができる(資料 A1-2-6-4)。

資料A1-2-6-1 留学生に対する外国語による情報提供

国際化推進センター英文ウェブサイト

The screenshot shows the website for the Kumamoto University Center for Globalization. The main navigation bar includes 'Home', 'Prospective Students', 'Current Students', 'Researchers', 'International Engagement', and 'Japanese Language'. The 'Current Students' section is active, displaying a list of links: Accommodation, Visas and permits, Fees and scholarships, Student life and support services, and Life in Kumamoto. A large banner image of a modern building is also visible.

<http://ewww.kumamoto-u.ac.jp/international/current/>

(出典：熊本大学ウェブサイト)

資料A1-2-6-2 社会人に対する情報提供

The screenshot shows a page titled '社会人受け入れ' (Social Person Admission). It features a sidebar with navigation links such as '学部入試情報', '受験生への大学案内', and '社会人受け入れ'. The main content area includes a section '熊本大学で学びませんか' and '社会人受入制度のご案内'. The text explains the university's commitment to providing learning opportunities for social persons and lists two admission categories: '正規課程の学生として受け入れる制度 (社会人入学)' and '正規課程の学生以外として受け入れる制度 (研究生・科目等履修生)'. Contact information for the '学生支援部 入試ユニット' is provided at the bottom right.

(出典：熊本大学ウェブサイト)

資料A1-2-6-3 課外活動団体等

## 薬学部公認サークル

- ▶ [準硬式野球部>>](#)
- ▶ [硬式テニス部>>](#)
- ▶ [バスケットボール部>>](#)
- ▶ [バレーボール部>>](#)
- ▶ [サッカー部>>](#)
- ▶ [バドミントン部>>](#)
- ▶ [合唱部>>](#)

本内容に関して詳しく記載されているウェブサイトの URL を以下に示す。

課外活動 : [http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/campus/school/yakugaku\\_club.html](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/campus/school/yakugaku_club.html)

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakuseikatsu/kagaikatudou>

(出典：熊本大学ウェブサイト)

## 資料 A1-2-6-4 大学生生活

**大学生生活**

- 教務情報
- 課外活動
- 相談窓口
- 生活支援・福利厚生
- 入学科・授業料・奨学金等



**大学生生活**

熊本大学の課外活動、入学金・授業料・奨学金など大学生生活に関する情報です。

- ▶ **教務情報**
  - [行事予定](#)
  - [気象情報等による授業の取り扱い](#)
  - [年間の授業計画（シラバス）](#)
  - [学生案内・学生便覧](#) [在学生・教職員専用]
  - [各種行事](#)
  - [各種証明書の申請方法](#)
  - [年次別カリキュラム](#)
  - [TAの役割と心得](#)
- ▶ **課外活動**
  - [サークル活動](#)
  - [学生表彰](#)
  - [ボランティア活動](#)
- ▶ **相談窓口**
  - [学生何でも相談室](#)
  - [メンタルヘルスケア](#)
  - [健康相談](#)
  - [ハラスメント相談](#)
- ▶ **生活支援・福利厚生**
  - [福利厚生施設](#)
  - [学生のための保険](#)
  - [学生会館](#)
  - [アルバイトについて](#)
  - [その他の学生支援](#)
  - [拾得物・遺失物について](#)
  - [寄宿舍・下宿・アパート](#)
  - [体育施設](#)
  - [障がい者に対する支援](#)
  - [休息環境・自習環境等](#)
- ▶ **入学科・授業料・奨学金等**
  - [入学科・授業料](#)
  - [入学科免除・徴収猶予](#)
  - [奨学金制度](#)
  - [教材購入費等](#)
  - [授業料の納入について](#)
  - [授業料免除](#)
  - [国民年金の学生納付特例制度](#)
  - [施設利用料等の費用](#)

本内容に関して詳しく記載されているウェブサイトの URL を以下に示す。

大学生生活 : <http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakuseikatsu>

(出典：熊本大学ウェブサイト)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

体系的なカリキュラム、国際通用性のあるカリキュラムならびに社会のニーズに対応したカリキュラム等は効率的に編成されており、それらの実施上の工夫、さらには養成しようとする人材像に応じた効果的な教育方法、学生の主体的な学修を促すための取組等も認められる。また、各種のウェブサイトからこれらの必要な情報を容易に得ることができる。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### 観点 学業の成果

(観点に係る状況)

#### 1 履修・修了状況から判断される学習成果の状況

成績評価基準や成績評価方法は、各科目のシラバスに明記されている(資料 A2-1-1-1)。成績評価に係る異議申し立ての手続きについては、学部と同様、学生便覧に明記されている(資料 A2-1-1-2)。修了認定基準に関しては、学生便覧中に専攻毎に修了要件が明示されている(資料 A2-1-1-3)。学位論文に係る審査・評価基準に関しては、博士、修士ともに、課程の目的に即した学位授与の方針が具体的に定められ、学習成果を的確に把握する体制が整っている(資料 A2-1-1-4)。また、評価基準ならびに審査手続きを学生に周知するため、「学位申請の手引き」中に当該事項が明示されている(資料 A2-1-1-5)。さらに学位論文の審査体制、審査委員の選抜方法については、薬学教育部の「学位申請に関する申し合わせ事項」に明示され、各論文の専門性に鑑みて適切な審査委員の選出および公正な審査が行われていることを担保している(資料 A2-1-1-6)。大学院進学後の学生の修学状況、学位授与件数、外国人留学生への学位授与件数および修了者の修業年数別人数について表に示した(資料 A2-1-1-7、資料 A2-1-1-8、資料 A2-1-1-9、資料 A2-1-1-10)。(中期計画番号:k14)

#### 資料 A2-1-1-1 成績評価基準や成績評価方法が確認できる資料

熊本大学シラバス			
<a href="#">戻る</a>			
基本情報			
授業科目名	(日)	特別実験I(薬学生化学)	
	(英)	Masters Degree Research I	
時間割コード	04313	開講年次	1年
学期	通年	曜日・時限	他
講義題目			
担当教官	杉本幸彦、三隅将吾、高宗暢暁、川原浩一、土屋創健		
科目コード	6921100150	科目分類	
選択/必修	必修	単位数	6
<a href="#">担当教官一覧へ</a>			

詳細情報	
授業形態	研究活動全般
授業の目標	<p>生化学・分子生物学的な研究を通して、研究者に必要な以下のような素養を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実験計画デザインを長/短期にわたり立てることを学ぶ。</li> <li>2) 文献調査の仕方を修得する。</li> <li>3) 実験結果のプレゼンテーション能力を身につける。(どのようなグラフにすれば問題点が判りやすいか、どのような順序で説明すれば理解してもらえるか)</li> <li>4) 論文を英語で書く能力を養う。</li> <li>5) 複数者間でのディスカッション能力を身につける。</li> </ol>
授業の内容	<p>次のいずれかに属する研究テーマを主体的に進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) プロスタグランジン受容体による生体調節の研究</li> <li>2) HIV複製機構の解明とワクチン・抗HIV剤開発研究</li> </ol>
キーワード	ジーンターゲットング、マイクロアレイ、プロテオミクス、ゲノム創薬学、免疫学、神経科学、生理学、内分泌学、内科学、ウイルス学
テキスト	なし
参考文献	
評価方法・基準	各目標に対する達成度を総合的に評価する。
履修上の指導	最新の知見や技術を積極的に吸収し、日々研鑽を積んでほしい。また積極的な討論を心懸け、独自の創造性、問題解決能力を養うこと。研究室の規則を守り、共同生活をする上での協調性や自律性、チームワークやコミュニケーション能力を身につけ、信頼関係を構築してほしい。

熊本大学シラバス			
<a href="#">戻る</a>			
基本情報			
授業科目名	(日)	生化学特論	
	(英)		
時間割コード	04620	開講年次	1年
学期	前期	曜日・時限	金 2限
講義題目			
担当教官	杉本幸彦、三隅将吾		
科目コード	6921120040	科目分類	
選択/必修	必修	単位数	2
<a href="#">担当教官一覧へ</a>			
詳細情報			
授業形態	講義とセミナー、課題学習		
授業の目標	<p>生体や細胞がさまざまな生理機能を発揮する分子機構、またその破綻としての病態の発症・進展、さらにはこういった観点からの創薬・治療への試みに関する最近の研究成果を通して、生化学・分子生物学的な実験手法や考え方を修得する。</p>		

授業の内容	恒常性と代謝の調節、生体防御の制御、がんや中枢疾患、AIDSや感染症などに関する最近の研究成果を講義形式で紹介し、生化学・分子生物学的な実験手法や考え方を学び、討論を行う。また、各講義に因んだ発展的な課題に取り組む。
キーワード	ゲノム創薬学、免疫学、神経科学、生理学、内分泌学、内科学、ウイルス学
テキスト	とくにありません。
参考文献	適宜紹介します。
評価方法・基準	1) 講義への出席ならびに討論への参加 2) 講義中に示す課題に対するレポート提出とその内容 上記を総合的に評価する。
履修上の指導	社会人や語学の問題で講義への出席・理解が困難な学生には配慮しますので、申し出てください。

(出典：シラバス)

資料 A2-1-1-2 成績評価に係る異議申立て手続きに関する資料

**28 成績評価に係る異議申立てについて**

本学では、成績評価を厳格に行う活動に取り組んでいます。

授業担当教員から成績発表の後、成績評価について異議がある学生は、「告示」により示した質問及び疑問の受付期間終了後、一定期間内に受付係等に成績評価に係る異議申立書（別紙1）を提出してください。

なお、【質問及び疑問の受付期間】及び【異議申立て受付期間】は、各学部等により異なりますので、掲示板の「告示」で確認してください。

（受付係等）

- 1 専門教育の授業科目については、薬学部の教務担当へ提出してください。
- 2 教養教育の授業科目及び専門基礎科目Ⅰについては、学務ユニット教養教育担当へ提出してください。

(出典：薬学部・薬学教育部学生便覧)

## 資料 A2-1-1-3 各専攻の修了認定基準

## 創薬・生命薬科学専攻・博士前期課程における修了要件

必修・選択別	授業科目等	単位数
必修	全コース共通から（指導分野の特別実験 I を含む）	14 単位
	所属するコースから	12 単位
選択	全コース共通から	8 単位以上

## 創薬・生命薬科学専攻・博士後期課程における修了要件

必修・選択別	授業科目等	単位数
必修	全コース共通から（指導分野の特別実験 I を含む）	14 単位
	所属するコースから	2 単位

## 医療薬学専攻・博士課程における修了要件

コース	授業科目等	単位数	
		必修	選択必修
臨床薬学コース	共通科目から	18 単位	2 単位以上
	コース科目 1 から		8 単位
	コース科目 2 から	2 単位	2 単位以上
医療薬科学コース	共通科目から	18 単位	6 単位以上
	コース科目から	4 単位	4 単位以上

(出典 薬学部・薬学教育部平成 25 年度学生便覧)

## 資料 A2-1-1-4 学位論文に係る審査・評価基準

## 【博士後期課程】

熊本大学大学院薬学教育部（研究科）博士後期課程における学位「課程博士（甲）」の審査及び最終試験の評価基準

本教育部（研究科）博士課程において博士論文を提出し、博士の学位を受けようとする場合を課程博士（甲）といい、その審査及び最終試験に関する評価基準に関して必要な事項を定める。

## （学位申請）

学位申請には、博士論文と、本人が筆頭著者（equal contribution も含む）になっている英語で書かれた公表論文（審査委員を置く学術雑誌に掲載済みまたは投稿中）1 報以上の提出を必要とする。なお、投稿中である場合、受付を証明する書類と投稿論文 1 部を申請書類に添付すること。

## （博士論文の審査基準）

- 単なる関連論文の写しや邦訳ではなく、研究の基礎となった文献的事実を含む研究の背景、明確な研究の目的と基本的なストラテジー、詳細な実験方法、実験結果とその解釈、文献的考察を含む深い論考、適切な論文等の引用、研究の意義・独創性・新規性・進歩性等に関する総括等について十分な論述がなされていること。
- 学位論文の作成要領に従って作成されていること。

## （公表論文（学術論文））

- 少なくとも 1 報は、下記の薬学教育部における学位申請のための学術雑誌の基準を満たした雑誌に掲載された欧文論文または投稿中の欧文論文原稿であること。
- 論文原稿（学位論文、Thesis）に直接関わる内容を含み、その一部を構成すること。
- 少なくとも 1 報は、学位申請者が筆頭著者であること。申請者と他研究者との equal

contribution による共著論文にあつては、論文中にそのことが明記されていれば共に第一著者とみなす。ただし、他の著者が当該論文を学位論文の関連論文にしている場合は、これを学位論文とすることができない。

(薬学教育部における学位申請のための学術雑誌の基準)

- 1) 国外欧文雑誌については、ピアレビュー制度を採用し、編集委員が公表されていること。
- 2) 国内欧文雑誌については、欧文で作成された論文を投稿することが定められており、ピアレビュー制度を採用し、編集委員が公表されていること。
- 3) 国内和文雑誌については、ピアレビュー制度を採用し、編集委員が公表されていること。

(最終試験の評価基準)

学位申請者は、教育部教授会が指定した日に論文内容について口頭発表(20分以内)、質疑応答(20分以内)を行い、以下の基準により評価する。

- 1) 研究内容の独創性・目的等について十分に理解し、論理的かつ明瞭に説明できること。
- 2) 研究内容に関して提起される論点についての的確かつ論理的に考察できること。
- 3) 研究の将来的な展望について論述できること。
- 4) 当該研究分野に関する最先端の知識を有すること。
- 5) 関連する研究分野に関する基礎的な知識を有すること。
- 6) 発表態度が適切であり、発表時間を順守すること。

#### 【博士前期課程】

熊本大学大学院薬学教育部(研究科)博士前期課程における学位の審査及び最終試験の評価基準

本教育部(研究科)博士前期課程において修士論文を提出し、修士の学位を受けようとする場合の審査及び最終試験に関する評価基準に関して必要な事項を定める。

(学位申請)

学位申請には、修士論文を必要とする。

(修士論文の審査基準)

- 1) 単なる関連論文の写しや邦訳ではなく、研究の基礎となった研究の背景、明確な研究の目的、適切な実験方法、実験結果とその解釈、文献的考察を含む論考、研究の意義等に関する総括等について論述がなされていること。
- 2) 学位論文の作成要領に従って作成されていること。

(最終試験の評価基準)

学位申請者は、教育部教授会が指定した日に論文内容について口頭発表(8分以内)、質疑応答(6分以内)を行い、以下の基準により評価する。

- 1) 研究内容の独創性・目的等について理解し、論理的かつ明瞭に説明できること。
- 2) 研究内容に関して提起される論点についての的確かつ論理的に考察できること。
- 3) 当該研究分野に関する最先端の知識を有すること。
- 4) 関連する研究分野に関する基礎的な知識を有すること。
- 5) 発表態度が適切であり、発表時間を順守すること。

(出典：薬学教育部「博士後期課程・博士前期課程における学位の審査及び最終試験の評価基準」)



資料 A2-1-1-5 学位論文に係る評価基準、審査手続き等を学生に周知していることを示すものとして、配布資料等の該当箇所

(5) 公表論文

- 1) 少なくとも1報は、薬学教育部における学位申請のための学術雑誌の基準を満たした雑誌に掲載された欧文論文または投稿中の欧文論文原稿であること。
- 2) 論文原稿(学位論文、Thesis)に直接関わる内容を含み、その一部を構成すること。
- 3) 少なくとも1報は、学位申請者が筆頭著者であること。申請者と他研究者との equal contribution による共著論文にあつては、論文中にそのことが明記されていれば共に第一著者とみなす。ただし、他の著者が当該論文を学位論文の関連論文にしている場合は、これを学位論文とすることができない。

(薬学教育部における学位申請のための学術雑誌の基準)

- 1) 国外欧文雑誌については、ピアレビュー制度を採用し、編集委員が公表されていること。
- 2) 国内欧文雑誌については、欧文で作成された論文を投稿することが定められており、ピアレビュー制度を採用し、編集委員が公表されていること。
- 3) 国内和文雑誌については、ピアレビュー制度を採用し、編集委員が公表されていること。

**4. 最終試験(論文発表会)**

★学位申請者は、教育部教授が指定した日に、論文発表を行う。

論文発表会は、審査委員長が司会を行い、発表時間は20分以内、質問時間は20分以内とする。なお、発表会の進行(ライト、計時、マイク、プロジェクター等)は当該分野で行うこととし、配布用の論文要旨のコピーを当該分野の責任で予め用意すること。

(最終試験の評価基準)

学位申請者は、教育部教授会が指定した日に論文内容について、以下の基準により評価する。

- 1) 研究内容の独創性・目的等について十分に理解し、論理的かつ明瞭に説明できること。
- 2) 研究内容に関して提起される論点についての的確かつ論理的に考察できること。
- 3) 研究の将来的な展望について論述できること。
- 4) 当該研究分野に関する最先端の知識を有すること。
- 5) 関連する研究分野に関する基礎的な知識を有すること。
- 6) 発表態度が適切であり、発表時間を順守すること。

(出典：薬学教育部「学位(課程博士)申請のための手引き」より公表論文及び最終試験の評価基準の抜粋)

資料 A2-1-1-6 学位論文の審査体制、審査員の選抜方法が確認できる資料

学位「課程博士(甲)」申請等に関する申合せ事項

本教育部(研究科)博士課程において博士論文(以下「論文」という。)を提出し、博士の学位を受けようとする場合を課程博士(甲)といい、その申請書に関して必要な事項を定める。

(学位申請)

- 1 学位申請者は、次に掲げる書類を教育部長に提出しなければならない。
  - (1) 学位申請書(所定様式) 2部
  - (2) 論文原稿 3部  
 ※英文要約(目次の前に論文タイトル、氏名、Summaryから成るもので、A4判~2枚程度)添付のこと。
  - (3) 論文要旨(A4判2枚程度のもの) 3部

(4) 論文目録 (所定様式)	3部
(5) 履歴書 (所定様式)	1部
(6) 同意承諾書 (共著論文を含む場合)	1部
(7) 公表論文等	1部

## (提出書類の調査)

2 提出された書類について、大学院教育委員会は不備がないか調査し、教育部長に報告する。

## (審査委員会)

3 教育部教授会は速やかに審査委員長を含む審査委員3名以上を選定して審査委員会を組織する。なお、審査委員長は薬学教育部において指導する教授または准教授とする。

## (審査)

4 審査委員会は論文原稿について、1か月以内に内容を検討し、合議の上、学位論文審査報告書を作成して教育部長に提出し、また、その結果を学位申請者に連絡しなければならない。なお、学位論文審査報告書の作成に当たっては、内容に訂正あるいは追加を要すると判断した場合は、学位申請書にその旨を指示し、新しく書き改められた論文については、審査委員長が調査の上、他の審査委員の了解を得るものとする。

## (最終審査)

5 学位申請者は、教育部教授会が指定した日に論文内容について口頭発表(20分以内)、質疑応答(20分以内)を行い、教育部教授会で最終審査を受けるものとする。

6 論文発表会の準備、進行は関係研究室で行う。

## (公表論文)

7 課程博士の論文は、本人が筆頭著者(equal contributionも含む)になっている英語論文(審査委員を置く学術雑誌に掲載済みまたは投稿中)1報以上を含むものとする。なお、投稿中である場合、受付を証明する書類と投稿論文一部を申請書類に添付するとともにその審査結果を最終合否判定を行う教育部教授会の場にて報告する。

## (その他の留意事項)

- 8 論文の規格及び様式については、A4判の用紙を用い横書きで左綴じとし、装丁は本製本を原則とする。なお、その提出締切は論文発表会の当日までとする。
- 9 本教育部博士課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた学生が、止むを得ぬ理由で退学し、在学中に学位申請が行われ、かつ1年以内に合格の判定を受けた場合は、さかのぼって課程修了を認めるものとする。この場合、学位授与の日付はさかのぼって修了式(卒業式)の日とし、学籍簿上も博士課程修了と訂正処理する。
- 10 論文発表の合否判定において否となった者が、その後1年以内の博士論文(甲または乙)の論文発表会で、再度発表し、合となった場合は、博士課程修了とし、9項と同様に取扱うものとする。
- 11 審査に当たり問題等が生じた場合は、大学院教育委員会で検討し、教育部教授会に諮るものとする。

(出典:薬学教育部「学位申請に関する申し合わせ事項」)

資料 A2-1-1-7 留年・休学・退学の状況

博士前期課程					
	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
留年	2	2	1	4	2
休学	5	9	3	2	4
退学・除籍	9	11	3	1	2
博士後期課程・博士課程					
	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
留年	1	3	0	3	2
休学	5	3	5	1	0
退学・除籍	3	3	3	3	0
単位修得退学	1	0	1	1	1

(出典:薬学部教務関係資料)

資料 A2-1-1-8 学位授与件数

入学	課程	学位	4月入学				
			平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
4月	博士前期	修士(旧カリキュラム)	79	85	2	-	-
		修士(新カリキュラム)	-	-	30	28	29
		修士(HIGOプログラム生)	-	-	-	-	3
	博士後期	博士(薬/生命科学)	13	17	13	13	13
10月	博士前期	修士(旧カリキュラム)	0	3	1	-	-
		修士(新カリキュラム)	-	-	0	0	1
		修士(HIGOプログラム生)	-	-	-	-	0
	博士後期	博士(薬/生命科学)	1	2	3	2	0

(出典:薬学部教務関係資料)

資料 A2-1-1-9 外国人留学生への授与件数

課程	学位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
博士前期	修士	1	2	1	1	1
博士後期	博士(薬/生命科学)	2	1	0	3	1

(出典:薬学部教務関係資料)

資料 A2-1-1-10 修了者の修業年数別人数および標準修業年限内の修了率及び標準修業年限 1.5 年内修了率

博士前期課程							
入学年度	4月入学					10月入学	
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成19年度	平成20-23年度計
入学者数	89	92	40	31	32	1	6
修業年限[2年]以内修了者数	79	79	30	27	31	0	4
修了年限1.5[3年]以内修了者数	81	81	31	28	31	1	0
標準修業年限内修了率	0.89	0.86	0.75	0.87	0.97	0	0.67
標準修業年限1.5以内修了率	0.91	0.88	0.78	0.9	0.97	1	0.67
博士後期課程							
入学年度	4月入学					10月入学	
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成19年度	平成20-23年度計
入学者数	11	21	15	16	14	4	7
修業年限[3年]以内修了者数	10	16	11	11	13	0	4
修了年限1.5[5年]以内修了者数	10	20	12	12	13	2	5
標準修業年限内修了率	0.91	0.76	0.73	0.69	0.93	0	0.57
標準修業年限1.5以内修了率	0.91	0.95	0.8	0.75	0.93	0.5	0.71

(出典:薬学部教務関係資料)

## 2 資格取得状況、学外試験等の結果、学生の受賞状況から判断される学習成果の状況

学生の査読論文掲載状況および学会発表状況、受賞状況、日本学術振興会特別研究員採用状況は、平成23年度が最も活発であるが、過去5年間、ほぼ一定の水準を維持している(資料 A2-1-2-1)。

資料 A2-1-2-1 学生の欧文査読論文掲載状況、学会発表状況、受賞状況および日本学術振興会特別研究員採用状況

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
欧文査読論文数	60	71	118	92	61
うち筆頭の論文数	(データなし)	27	70	47	28
国際学会発表数(筆頭のみ)	34	41	49	10	22
国内学会発表数(筆頭のみ)	165	180	166	176	93
各種学会賞等の受賞者数	5	10	7	22	8
日本学術振興会特別研究員(DC1/DC2)採用者数	6	12	11	9	8

(出典:薬学部教務関係資料)

## 3 学業の成果の達成度や満足度に関するアンケート等の調査結果とその分析結果

博士前期課程の開講科目のうち10名以上が履修者する科目について、2年に一度、授業

改善のための学生アンケートを実施し、教員へフィードバックしている。

本アンケートの実施要領を定め（資料 A2-1-3-1）、アンケート調査結果（抜粋）及び学生からの意見聴取、対応コメントについては、公表している（資料 A2-1-3-2、資料 2-1-3-3）。（中期計画番号：K16）

資料 A2-1-3-1 学生による授業改善のためのアンケート実施要領

（別紙）

### 授業改善のためのアンケート 実施要領

平成16年11月29日		教育委員会
平成17年6月6日	一部修正	教育委員会
平成18年2月15日	一部修正	教育委員会
平成18年12月4日	一部修正	教育委員会
平成19年1月23日	一部修正	教育委員会
平成19年6月1日	一部修正	副学長裁定
平成22年3月8日	一部修正	教育会議

#### 1. 全体の方針

本学の「中期計画」I-1-(1)-6-②「授業方法の改善を推進するため、学生による授業改善のためのアンケート方法を見直すとともに、アンケート結果を踏まえた教員のFD活動を充実する」と掲げられていることから、16年度後期から行っている授業改善のためのアンケートを以下の要領で実施する。

目的：学生の視点からの個々の授業改善に資するとともに、組織としてFD活動に活用すること。

対象：教養教育、各学部専門教育、各研究科・教育部（修士課程又は博士前期課程）教育  
ただし、①対象となる授業科目、②実施の頻度に関して、下記の最低実施基準を設ける。各部局等においては、最低実施基準以上の実施基準を定めて、アンケートを実施するものとする。

最低実施基準：①各部局等の履修登録者数20名以上の全授業科目

②3年間で1回の実施

大学院にあっては、学部の基準を原則とし、履修登録者数が10名以上の授業科目のみ実施する。

実施形態：

- ・原則として各学期の最終回の授業で実施することとする。
- なお、実施に際しては、学生に対し事前に趣旨説明を行うこととする。

#### 2. アンケート票の質問項目

- ・アンケートの全学共通の質問については、別紙のとおり8項目とする。
- ・各学部等で独自の質問項目がある場合は、著しく多くなならない範囲で追加するものとする。

#### 3. 配布・実施・回収

- ・マークシート方式、無記名とする。
- ・教員は10分前に授業を終了して、アンケート票を配布し、回収させる。
- 学生を指名してから退出する。その後にアンケート調査を実施する。回答終了後、教員が指名した学生にアンケート票を回収させ、その場で封緘させて、各学部の教務担当、学生支援部学務ユニット（教養教育担当）に設置された回収箱に提出する。
- なお、教員が指名する学生の人数は、受講者数に応じて教員が決めるものとする。

#### 4. 集計・分析

- ・マークシートの集計及び学生の意見のデータ化については、学生支援部学務ユニット（教育評価担当）及び運営基盤管理部情報企画ユニットにおいて行う。

#### 5. 公表・活用

授業評価結果の活用を教員の個人任せにしないような手立てを講じ、各部局等の評価結果の分析を基にして全学的な状況把握を行う。

## (1) 教員

・授業担当教員には、

- ① 自由記述以外のすべての回答について、回答者別（行方向）・質問項目別（列方向）の数値データの一覧表
- ② 各質問項目の回答率・平均・標準偏差
- ③ 自由記述全体の内容

を電子ファイルとしてフィードバックする。

・それぞれの教育単位で、授業についての情報を共有する。ただし、教育単位は、授業改善を可能な限り促進できるように、柔軟に組織するものとする。教育単位内では、個々の授業に対する各質問項目の回答率・平均・標準偏差、自由記述の内容についての授業評価結果の情報を共有するものとする。

教育単位の例：① 教養教育機構の教科集団中の授業担当教員集団

② 学科

③ 一定の教育プログラムの担当教員集団

④ 複数開講されている同一名称科目の担当教員集団

・各部局等は、授業評価結果を分析したものを整理して、学内で公表するものとする。

## (2) 学生

・受講学生に対して、授業評価の集計結果および授業担当教員のコメントを、「授業改善のためのアンケート結果公開システム」上に示すものとする。

## (3) その他

・各部局等の判断で、授業評価結果の情報を HP などで公表することができるものとする。

## 6. 授業改善の方策の検討

・授業担当教員は、授業実施報告書を各部局等に提出する。

この授業実施報告書には、教員の氏名、開講部局等の名称、授業科目名、履修者数を明記したうえで、

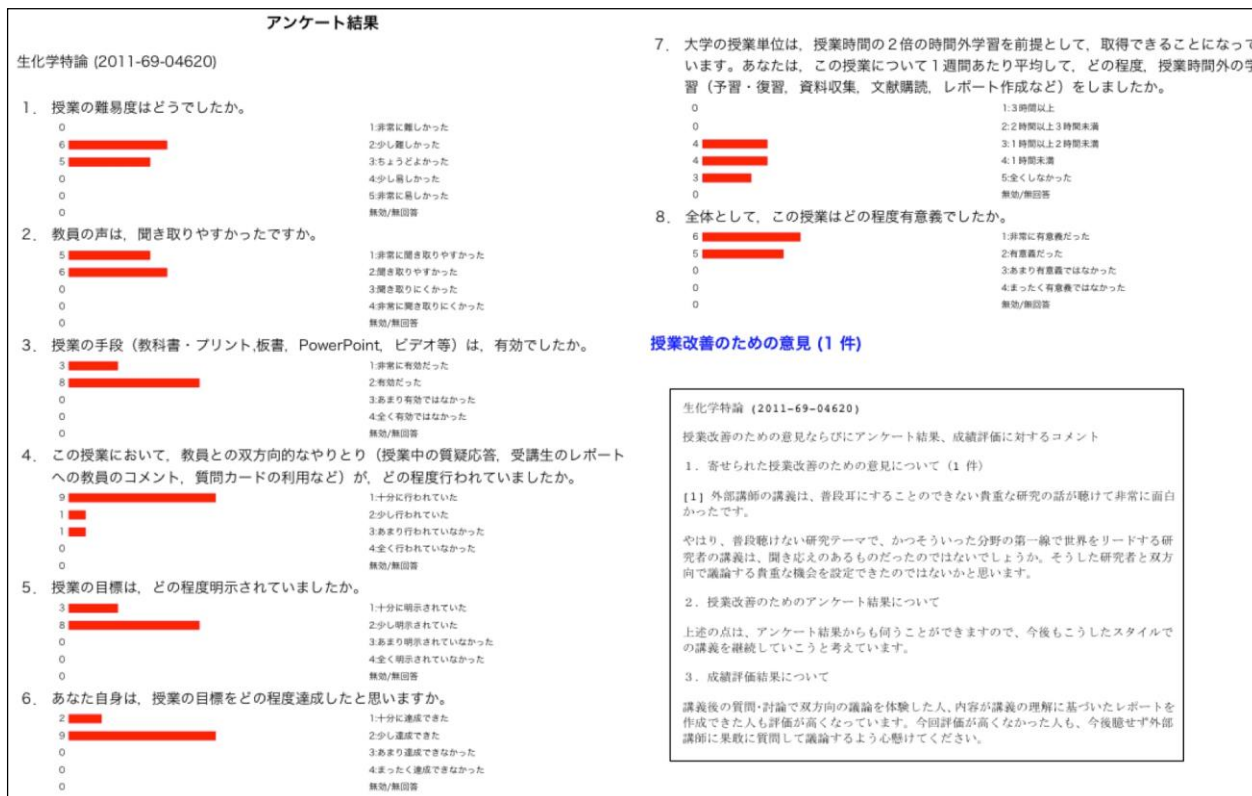
- ① 学生の授業に対する学期途中の意見
- ② 「学生による授業評価」結果に対するコメント
- ③ 成績評価の結果に対するコメント
- ④ 当該授業及び次年度以降の授業改善の方策
- ⑤ 教員個人の教育の成果についての検証

を記入するものとする。

・そのうえで、教育単位で、共有情報と授業実施報告書に基づいて検討するなどして、授業改善を目的とした FD 活動を行う。

(出典：授業改善のためのアンケート実施要領)

資料 A2-1-3-2 アンケート調査結果の例及び学生からの意見聴取、対応コメントの例



(出典：授業改善のためのアンケート調査結果 2011 抜粋)

資料 A2-1-3-3 「授業改善のための学生アンケート」結果の概要及びコメントの抜粋

アンケート結果の推移：「授業改善のための学生アンケート」平成 22 年前期と平成 23 年前期、平成 24 年前・後期の結果データからの抜粋を以下に示す。なお、平成 21 年度はアンケートの質問内容が異なるためここには示していない。また、平成 25 年度のアンケート結果は未集計であるため記していない。

主なアンケート項目の平均値	H22 前	H23 前	H24 前	H24 後
質問 1. 難易度 (2. 少し難しい、3. 適切 の中間)	2. 12	2. 28	2. 64	2. 82
質問 3. 授業の手段は有効か (1. 非常に有効、2 有効 の中間)	1. 81	1. 62	1. 55	1. 73
質問 4. 教員との双方向やりとり (1. 十分に実践、2. 少し実践 の間)	1. 73	1. 60	2. 36	1. 14
質問 5. 授業目標の明示 (1. 十分に明示、2. 少し明示 の間)	1. 89	1. 57	1. 36	1. 46
質問 6. 授業目標の達成度 (1. 十分に達成、2. 少し達成 の間)	2. 12	1. 90	1. 80	1. 64
質問 7. 授業外の学習時間 (2. 2~3 時間、3. 1~2 時間 の間)	2. 81	3. 08	2. 55	3. 64
質問 8. 有意義か否か (1. 非常に有意義、2. 少し有意義 の中間)	1. 69	1. 57	1. 55	1. 50

代表的なコメント【特論】

- ・講義だけでなく、演習形式の予習・復習が課せられていたので、授業の理解の助けとなったのでよかった。
- ・外部講師の講義は、普段耳にすることのできない貴重な研究の話が聴けて非常に面白かったです。
- ・外部講師の先生はどの講義もイントロが分かり易く作っており、とても興味が持てました。質問時間をもっとあれば良かったと思います。

(出典：授業改善のためのアンケート結果公開システムより抜粋)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

成績評価基準や成績評価方法は、各科目のシラバスに明記され、到達目標と共に評価基準を学生が容易に知ることができる。各科目の目標や評価法の明示は、アンケート結果からもほぼ徹底されている。修了認定基準に関しては、学生便覧中に専攻毎に、創薬・生命薬科学専攻では、さらに博士前期・後期毎に修了要件を明示されている。両専攻とも履修・修了状況に問題はない。学生アンケート結果を分析する限り、大学院開講科目はいずれも学生にとって好評であり、どの項目を見ても教育の成果や効果が見て取れ、これは新制度の大学院となっても変わることはない。また、学生の査読論文掲載数は一定の水準を保っており、平成 23 年度には学生筆頭だけでも 70 報超の論文が受理されていることは特筆に値する。学生の各種学会賞の受賞者数は、毎年 10 件程度の高い水準を維持している。さらに日本学術振興会特別研究員 (DC1/DC2) の採用状況についても、毎年 8 名以上の採用者を保っていることは、質の高い大学院教育が実践できていることを裏づけるものと考えられる。

観点 進路・就職の状況
-------------

(観点に係る状況)

### 1 就職率 (就職者/就職希望者)

大学院博士前期課程は平成 24 年の博士前期課程に 1 名の未就職者がいたのみで、この年のみが就職率 96.4%であり、その他の 4 年間はすべて就職率 100%であった。大学院博士後期課程は平成 21~25 年間、一貫して就職率 100%であった (資料 A2-2-1-1)。(中期計画番号: K30)

### 2 就職・進路状況・進学率

大学院博士前期課程では、平成 23~25 年度の卒業生 94 名中 59.6%の 56 名が企業に就職し、26.6%の 25 名が博士後期課程に進学している。

大学院博士後期課程では、平成 21~25 年度で 75 名中、企業就職者が 31.7%の 23 名、ポスドクが 24%の 18 名、薬剤師職に就いた 11 名で、病院 10 名、薬局 1 名であった。このほかに教職員 9 名、社会人大学院への編入が 7 名、その他 (公務員試験準備、留学など) が 7 名であった (資料 A2-2-1-1)。



資料 A2-2-1-1 薬学教育部の就職・進路状況 (H21～H25)

	平成21年度卒業生				平成22年度卒業生				平成23年度卒業生				平成24年度卒業生				平成25年度卒業生				合計
	大学院		大学院		大学院		大学院		大学院		大学院		大学院		大学院		大学院				
	博士前期課程		博士後期課程		博士前期課程		博士後期課程		博士前期課程		博士後期課程		博士前期課程		博士後期課程		博士前期課程		博士後期課程		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
病院・薬局	12	19	1	0	20	15	3	0	0	1	2	1	0	1	1	0	0	1	3	0	80
製薬・医薬品関連・繊維・化学	11	4	2	0	9	8	4	1	6	7	5	0	9	7	5	0	15	4	5	1	103
食品・化粧品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3
CRO/SMO	1	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	8
学校教育	2	0	1	0	1	1	0	1	0	0	2	0	0	0	1	1	1	0	0	0	11
公務員	5	2	0	0	6	6	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	22
ポストク	0	0	5	1	0	0	4	2	0	0	2	0	0	0	3	0	0	0	3	1	21
その他就職	4	5	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	16
未就職者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
進学																					
本学大学院進学	12	2	0	0	11	1	0	0	10	1	0	0	5	3	0	0	4	1	0	0	50
他大学院進学	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	0	0	0	0	1	0	1	0	3	1	2	3	0	0	2	2	0	2	0	0	17
卒業・修了者数	47	32	9	1	50	35	13	5	20	13	14	4	16	12	3	21	12	12	2	2	333
就職率(就職者/就職希望者)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	91%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	99%
就職率(就職者/卒業・修了生数)	74%	94%	100%	100%	74%	97%	92%	100%	35%	85%	86%	25%	63%	75%	83%	33%	81%	75%	100%	100%	79%
進学率	26%	6%	0%	0%	24%	3%	0%	0%	50%	8%	0%	0%	31%	25%	0%	0%	19%	8%	0%	0%	15%

※小数第1位を繰り上げ  
 その他…留学、海外ボランティア、他大学編入、社会人大学院生、公務員試験準備 等

(出典:薬学部教務関係資料)

3 主な就職先・進学先

博士前期課程のほとんどの学生が、博士後期課程に進学している。また、就職先は、製薬、医薬品関係、病院及び薬局が多い状況である(資料 A2-2-1-2)。

資料 A2-2-1-2 薬学教育部の主な就職先・進学先 (H21～H25)

<p><b>博士前期課程</b></p> <p><b>主な進学先</b> 熊本大学大学院 (51)</p> <p><b>主な就職先</b> 【企業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般財団法人 化学及血清療法研究所 (14)</li> <li>株式会社 新日本科学 (7)</li> <li>小野薬品工業株式会社 (4)</li> <li>久光製薬株式会社 (4)</li> <li>大正製薬株式会社 (3)</li> <li>ライオン株式会社 (3)</li> <li>中外製薬株式会社 (2)</li> <li>日本たばこ産業株式会社 (2)</li> <li>日本製薬株式会社 (2)</li> <li>株式会社メディサイエンス・プランニング (2)</li> <li>帝人株式会社 (2)</li> <li>大鵬薬品工業株式会社 (2)</li> <li>独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 (2)</li> <li>旭化成株式会社 (1)</li> <li>アステラス製薬株式会社 (1)</li> <li>アストラゼネカ株式会社 (1)</li> <li>株式会社 アールテック・ウエノ (1)</li> <li>クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン株式会社 (1)</li> <li>クラシエ製薬株式会社 (1)</li> <li>ゼリア新薬工業株式会社 (1)</li> <li>第一三共株式会社 (1)</li> <li>ダイヤ製薬株式会社 (1)</li> <li>東和薬品株式会社 (1)</li> <li>富田薬品株式会社 (1)</li> <li>バイエル薬品株式会社 (1)</li> <li>持田製薬株式会社 (1)</li> <li>和光純薬工業株式会社 (1)</li> <li>花王株式会社 (1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>佐藤製薬株式会社 (1)</li> <li>株式会社再春館製薬所 (1)</li> <li>株式会社三和化学研究所 (1)</li> <li>千寿製薬株式会社 (1)</li> <li>大塚製薬株式会社 (1)</li> <li>沢井製薬株式会社 (1)</li> <li>鶴原製薬株式会社 (1)</li> <li>日産化学工業株式会社 (1)</li> <li>日本臓器製薬株式会社 (1)</li> <li>北里第一三共ワクチン株式会社 (1)</li> <li>祐徳薬品工業株式会社 (1)</li> <li>株式会社 フォレストホールディングス (1)</li> <li>富士フィルム株式会社 (1)</li> <li>三菱化学メディエンス株式会社 (1)</li> <li>興人フィルム&amp;ケミカルズ株式会社 (1)</li> <li>住友化学株式会社 (1)</li> <li>ナカヤマ精密株式会社 (1)</li> <li>ピアス株式会社 (1)</li> <li>味の素冷凍食品株式会社 (1)</li> <li>南日本ハム株式会社 (1)</li> <li>株式会社アイロム (1)</li> <li>東京CRO株式会社 (1)</li> <li>株式会社 中外臨床研究センター (1)</li> <li>イービーエス株式会社 (1)</li> <li>株式会社ACRONET (1)</li> <li>サイトサポート・インスティテュート株式会社 (1)</li> <li>株式会社イービーメント (1)</li> <li>シミック株式会社 (1)</li> <li>株式会社こうゆう (1)</li> <li>四谷大塚提携塾 英進館 (1)</li> <li>日本生命保険相互会社 (1)</li> </ul>
---	--

## 【病院】

社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院 (5)  
 熊本赤十字病院 (4)  
 独立行政法人 国立病院機構 九州ブロック (3)  
 熊本大学医学部附属病院薬剤部 (3)  
 鹿児島大学医学部附属病院 (3)  
 国家公務員共済組合連合会 熊本中央病院 (2)  
 荒尾市民病院 (1)  
 高邦会 高木病院 (1)  
 独立行政法人 国立病院機構 (1)  
 佐賀大学附属病院薬剤部 (1)  
 産業医科大学 (1)  
 慈愛会 今村病院 (1)  
 杉村病院 (1)  
 倉敷中央病院 (1)  
 大分市医師会アルメイダ病院 (1)  
 大分大学医学部附属病院 (1)  
 地方独立行政法人 大牟田市立病院 (1)  
 大雄会病院 (1)  
 医療法人 徳洲会 福岡徳洲会病院 (1)  
 篠栗病院 (1)  
 阿久根市民病院 (1)  
 医師会病院 (1)  
 医療法人愛仁会植村病院 (1)  
 医療法人相生会九州臨床薬理クリニック (1)  
 九州大学病院 (1)  
 熊本セントラル病院 (1)  
 熊本リウマチ内科 (1)  
 朝日野総合病院 (1)  
 独立行政法人国立がん研究センター中央病院 (1)  
 日本赤十字社和歌山医療センター (1)  
 福岡県立精神医療センター太宰府病院 (1)  
 福岡市立病院機構 (1)  
 悠紀会病院 (1)

## 【薬局】

日本調剤株式会社 (7)  
 総合メディカル株式会社 (4)  
 アップル調剤 (1)  
 クオール株式会社 (1)  
 シモカワ薬局 (1)  
 スギ薬局 (1)  
 株式会社 ファーマダイワ (1)  
 佐賀北薬局 (1)  
 出町薬局 (1)  
 同仁堂 (1)  
 福永薬局 (1)  
 有限会社大村調剤薬局 (1)

## 【学校教育】

熊本大学(技術職員) (2)  
 熊本大学(教員) (1)  
 熊本県立湧心館高等学校 (1)  
 東海大学医学部 (1)

## 【公務員】

熊本県職員 (6)  
 熊本市職員 (4)  
 厚生労働省九州厚生局麻薬取締部 (3)  
 宮崎県職員 (2)  
 警視庁 (1)  
 佐賀県庁 (1)  
 鹿児島県職員 (1)  
 福岡県職員 (1)  
 芥北町職員 (1)  
 ガーナ共和国保健省職員 (1)

## 博士後期課程

## 主な就職先

## 【企業】

小野薬品工業株式会社 (3)  
 久光製薬株式会社 (2)  
 旭化成ファーマ株式会社 (1)  
 アステラス製薬株式会社 (1)  
 株式会社新日本科学 (1)  
 株式会社再春館製薬所 (1)  
 クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン株式会社 (1)  
 サノフィ・アベンティス株式会社 (1)  
 スギ生物科学研究所株式会社 (1)  
 大正薬品工業株式会社 (1)  
 富士製薬工業株式会社 (1)  
 吉田製薬株式会社 (1)  
 三洋貿易株式会社 (1)  
 大正製薬株式会社 (1)  
 中外製薬株式会社 (1)  
 日本たばこ産業株式会社 (1)  
 武田薬品工業株式会社 (1)  
 北里第一三共ワクチン株式会社 (1)  
 KYONGBO Pharmaceutical (1)  
 シスメックス株式会社 (1)  
 公益財団法人名古屋まちづくり公社 (1)

## 【病院】

熊本赤十字病院 (4)  
 江南病院 (1)  
 社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院 (1)  
 大分市医師会アルメイダ病院 (1)  
 岡山大学病院 (1)  
 大分大学医学部附属病院 (1)  
 獨協医科大学附属病院 (1)

## 【薬局】

阿蘇りんどう薬局 (1)

<p><b>【学校教育】</b>                      東京医科歯科大学 特任助教 (1)                      エジプト国立タンタ大学薬学部 (1)                      北里大学薬学部 助教 (1)                      金沢大学薬学部 助教 (1)                      山口大学総合科学実験センター (1)                      岐阜薬科大学 (1)</p> <p><b>【公務員】</b>                      大分県職員 (1)</p>	<p><b>【博士研究員】</b>                      熊本大学(博士研究員) (11)                      中部大学(博士研究員) (1)                      微生物化学研究所(博士研究員) (1)                      和歌山県立医科大学(博士研究員) (1)                      九州大学(博士研究員) (1)                      慶應大学(博士研究員) (1)                      日本原子力研究開発機構(博士研究員) (1)                      日本公定書協会(博士研究員) (1)                      福岡大学(博士研究員) (1)                      米国ロチェスター大学(博士研究員) (1)</p>
--	---

(出典:薬学部教務関係資料)

(水準)

期待される水準を大きく上回る。

(判断理由)

平成 21 年度から 25 年度まで、就職率は 100%を維持しており、企業、病院、薬局、公務員、大学と多彩な職種に就職している。

#### 4. 質の向上度の分析及び判定

##### (1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

(記述及び理由)

高い質を維持している。

##### 【教育実施体制】

多彩な専門性と背景を有する専任教員が大学院設置基準を大きく超える数で配置され、協力講座、附属センター、外部講師等による大学院教育の支援体制が整えられている。リーディング大学院教育プログラム（HIGOプログラム）により教育活動を展開している。国立がん研究所との連携講座の設置および国内外大学との部局間協定の締結により、高度職業人の養成およびレギュラトリーサイエンスプログラムの充実を図っている。

##### 【教育内容・方法】

体系的なカリキュラム、国際通用性のあるカリキュラムならびに社会のニーズに対応したカリキュラムを編成している。海外での研究活動、九州薬科学研究教育連合大学院生合宿研修、各種インターンシップなどを通して、自主性、国際性、労わりの心、視野の拡大が図られている。

以上の理由から、本学部の教育活動の状況は、「高い質を維持している」と判断できる。

##### (2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

(記述及び理由)

高い質を維持している。

##### 【学業の成果】

学生アンケート結果から、大学院開講科目はいずれも学生にとって好評であり、どの項目を見ても教育の成果や効果が判断できる。日本学術振興会特別研究員の採択数、学会における学生の優秀発表・ポスター賞の受賞者数から、大学院生の教育・研究レベルの向上が認められる。

##### 【進路・就職の状況】

就職率は、毎年 100% で良好であり、多彩な職種に就職している。

以上の理由から、本学部の教育成果の状況は、「高い質を維持している」と判断した。

### Ⅲ 社会貢献の領域に関する自己評価書

## 1. 社会貢献の目的と特徴

大学院薬学教育部を担当する教員組織は、原則として教授、准教授（講師）、助教の3名の教員からなる29分野で構成されており、3寄附講座、2連携講座および1協力分野が含まれている。

大学院生命科学研究部および薬学部にも所属し薬学部を担当する教員は全員、大学院薬学教育部を担当している。従って、薬学部自己評価書の「社会貢献」の章の記載内容は全て、大学院薬学教育部の「社会貢献」でもある。ここでは、薬学部自己評価書に記載した内容を重複して記載することは避け、薬学部には該当せず大学院薬学教育部に該当する内容のみを記載する。

大学院薬学教育部では、以下の取り組みを通して、社会・地域に開かれた大学としての役割を果たすことを目的とする。

1. 社会連携のために、研究活動を通して産学連携、産業振興への取組を行う。
2. 地域連携のために、地域社会の課題解決への取組を行う。また、大学院レベルでの生涯学習機能の強化のための取組を行う。

### [想定する関係者とその期待]

関係者として、地方自治体、医療機関、企業の関係者、地域の一般市民を想定している。地方自治体、医療機関、企業の関係者からは、薬学に関する高度の専門性を高めるために必要な知識・技術の提供や技術開発が求められている。また、地域の課題解決への貢献が期待されている。一般市民からは大学における知の創造に基づいた情報発信を期待されている。

## 2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

### 【優れた点】

社会貢献においては、産学連携を目的としているが、多くの共同研究プロジェクトが行われ、国立がん研究センターとの大学院連携講座の締結に結びついている。

地域貢献においては、家族性アミロイドポリニューロパチーという熊本に患者の多い遺伝病の治療法を開発するという地域の医療難題によく取り組み、研究成果をあげている。また大学院レベルでの専門性の高い生涯教育を発足させ、活発に展開している。

### 【改善を要する点】

産学連携の実をあげるためには、大学院薬学教育部を構成する教員が全員で一つのテーマに取り組むことが必要であり、そのための組織体制づくりが必要である。

## 3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 大学の目的に照らして、社会貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 社会貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

### （観点到に係る状況）

大学院薬学教育部では社会連携のために、研究活動を通して産学連携、産業振興への取組を行うことを社会貢献活動の目的としている。この目的は、薬学部附属創薬研究の目的と共通である。この目的は創薬研究センターのトップページ（資料 C1-1-1）、「センター長挨拶」（資料 C1-1-2）、「共同研究のお問い合わせ」（資料 C1-1-3）にて公表・周知されている。

資料 C1-1-1 創薬研究センターのトップページにおける相談窓口等へのリンク



（出典：創薬研究センターウェブサイト）

## 資料 C1-1-2 創薬研究センターのウェブサイトにおける社会貢献の目的・計画の周知

## センター長挨拶 | Greeting

創薬研究センター長 甲斐 広文

平成18年4月、熊本大学薬学部に創薬研究センター(国立大学の薬学部では我が国発)が新設されて以来、水島 徹 前センター長を中心としたプロジェクトが、本センターを活用して展開され、いくつかの研究成果を上げ、社会貢献をしてきました。平成23年4月からは、新研究センター長(甲斐広文)の下、生命資源研究・支援センター所属であった機器分析施設を創薬研究センター所属として、熊本大学薬学部の研究支援、成果発信としての機能だけでなく、医学部、附属病院をはじめとする熊本大学全学部、さらには、熊本県内の大学、県関連の研究センター、県内外の企業と密に連携し、様々な形で研究支援する新たな体制がスタートしました。元来、創薬研究センターは、画期的な新薬の研究・開発を行うと共に、一流の創薬研究者を育てることを究極の目的としていましたが、実際には、地域の中小企業の様々な商品開発を科学的な視点でバックアップしてほしいという要望がかなり多く、地域貢献、社会貢献という大きな使命があることも分かってきました。

今一度、地域にももっと目を向けた、開かれたセンターをも目指すべきであると考えています。

創薬研究センターとしては、以下の3つを使命として活動している。

- 1) 大学における新たな創薬ターゲット分子の発見あるいは新たな創薬リード化合物の発見をハードの面から全面的に支援していくこと、
- 2) 学内外の創薬、知財、食品開発、代替農薬開発などに関する相談(支援)窓口として機能すること、
- 3) 薬学部は薬剤師の養成だけでなく、未来の薬の開発において大きな貢献をしていることを、マスコミ等を通して発信し、次世代の創薬研究者(創薬生命薬科学科希望の高校生)のリクルートを行なうこと

21世紀の現代でも、多くの貴重な命が病気で失われており、人の命を救う新薬を開発することは薬学部の社会的使命です。この創薬研究センターの発展のため、皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

(出典：創薬研究センターウェブサイト)

## 資料 C1-1-3 創薬研究センターの共同研究に関する相談窓口



熊本大学薬学部附属創薬研究センターでは、企業・研究者の皆様からの共同研究に関するお問い合わせを受け付けております。以下のお問合せ先までお気軽にご相談ください。

〒862-0973 熊本県熊本市中央区大江本町5-1  
 熊本大学薬学部E棟3階  
 熊本大学薬学部附属創薬研究センター  
 TEL (096)371-4405

(出典：創薬研究センターウェブサイト)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

研究活動を通して産学連携、産業振興への取組を行うという社会貢献活動の目的・計画は、ウェブサイトにおいて適切に周知されていることから、期待される水準にあると判断できる。



観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

大学院薬学教育部を担当する教員により、外部のニーズに応じた研究プロジェクトによる社会貢献活動が実施されている(資料 C1-2-1)。

資料 C1-2-1 大学院薬学教育部を担当する教員による研究プロジェクト

## プロジェクト一覧 | Project

### 甲斐教授らのプロジェクト

[細胞生物学的なアプローチによる新たな治療概念を確立し応用した](#)

### 杉本教授らのプロジェクト

[EP2欠損マウスが示す不妊症病態モデルのメカニズムを探り、ケモカインが新たな避妊薬の標的となることを発見した](#)  
[プロスタグランジン受容体の機能性抗体の医薬応用](#)

### 三隅准教授らのプロジェクト

[HIV粒子のプロテオーム解析を突破口として、新たな創薬標的分子Pin1を発見した](#)

### 水島教授らのプロジェクト

[HSP誘導性生薬を配合した化粧品を上市](#)

### 高濱教授らのプロジェクト

[GIRKチャンネル阻害薬\(鎮咳薬\)の抗うつ薬としての適応拡大](#)

### 塚本教授らのプロジェクト

[海洋生物からの創薬をめざして](#)

[サンゴ礁海域に棲息する生物からの医薬シーズの探索](#)

### 中島教授らのプロジェクト

[環境にやさしい有機合成化学反応の開発をめざして](#)

### 入江教授らのプロジェクト

[高性能マウス精子凍結保存液および体外受精培地「FERTIUP™」シリーズの開発](#)

### 有馬教授らのプロジェクト

[世界で一番小さな分子カプセル ～シクロデキストリン～](#)

### 香月教授らのプロジェクト

[脳の神経細胞を守る](#)

### 森岡教授らのプロジェクト

["新たな抗体分子をつくり医療につなげよう ～新薬を創る・病気の状態を調べる・治療法を開発する～](#)

### 大塚教授らのプロジェクト

[イノシトールと創薬](#)

### 石塚教授らのプロジェクト

[分子の形から生命の起源を探る](#)

### 山縣教授らのプロジェクト

[数10ピコメートルの世界を覗く ～タンパク質のX線結晶構造解析～](#)

(出典：熊本大学薬学部附属創薬研究センターウェブサイト)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

大学院薬学教育部を担当する教員により多くの共同研究プロジェクトが実際に実施されているため。

観点 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して活動の成果が上がっているか。

(観点に係る状況)

大学院薬学教育部において活発に学外組織との交流に取り組んだ効果として、平成 25 年度に国立がんセンターとの大学院連携講座「腫瘍治療・トランスレーショナルリサーチ学」が締結された(資料 C1-3-1)。これは、国内で臨床試験を行い、アカデミア創薬を目指すものである。

資料 C1-3-1 国立がんセンターとの連携大学院

名称	腫瘍治療・トランスレーショナルリサーチ学分野
対象	大学院薬学教育部創薬・生命薬科学専攻博士前期課程及び後期課程
概要	腫瘍に対する治療方法の開発ならびに診断方法開発のためのトランスレーショナルリサーチを推進する、先端的な大学院教育と研究を新たな連携によって効率良く実現する。 1) 腫瘍病態解明のための基礎的・臨床的研究に深く精通した人材の育成。2) 新医薬品の開発、臨床研究及び治験に精通した人材の育成、3) これらのプロジェクトの推進を支援する優秀な人材の育成。
教員	国立がん研究センターの職員を定員外教員の非常勤講師として任用
授業科目	特別実験Ⅰ(腫瘍治療・トランスレーショナルリサーチ学分野)(6単位) 特別実験Ⅱ(腫瘍治療・トランスレーショナルリサーチ学分野)(6単位)

(出典：薬学部教育委員会資料)

(水準)

改善、向上している。

(判断理由)

研究を通しての社会連携際に取り組んだ結果、国立がん研究センターとの大学院連携講座の設置に至ったため。

観点 改善のための取組が行われているか。

(観点に係る状況)

大学院薬学教育部における創薬を通じた産学連携をより一層推進するため、独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)との大学院連携講座「レギュラトリーサイエンス学」の締結の運びとなった。

## 資料 C1-4-1 独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）との連携大学院

<b>名称</b>	レギュラトリーサイエンス学
<b>対象</b>	大学院薬学教育部博士課程医療薬学専攻、博士後期課程創薬・生命薬科学専攻
<b>概要</b>	レギュラトリーサイエンスとは、『科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づいた確かな予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整するための科学』である。本学における医薬品および医療機器の開発、臨床研究並びに臨床治験を推進するために、大学院教育により以下のような人材を育成する。 1) 基礎研究のシーズを、臨床応用に橋渡しすることに強い情熱を有する人材。 2) 新医薬品の開発、臨床研究および治験における、レギュラトリーサイエンスに精通した人材。 3) 医薬品および医療機器の開発推進を支援できる優秀な人材。
<b>教員</b>	PMDAの職員を定員外教員の非常勤講師として任用
<b>授業科目</b>	薬学教育部博士課程医療薬学専攻 ・トランスレーショナル基礎講座(2単位) ・医療特別実験(10単位) 薬学教育部博士後期課程創薬・生命薬科学専攻 ・臨床開発演習(2単位) ・特別実験Ⅱ(6単位)

(出典：薬学部教育委員会資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

国立がん研究センターとの大学院連携講座に加えて、PMDA との間にも大学院連携講座が締結され、創薬を通しての社会貢献のための基盤が磐石なものとなったため。

分析項目Ⅱ 大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

(観点到係る状況)

本学では地域貢献のための計画や具体的方針を「地域社会との組織的な連携の強化」、「地域社会の課題解決への貢献」、「大学の生涯学習機能の強化」、および「産学連携・産業振興への貢献」の4項目にまとめ、具体例とともに「熊本大学の地域社会との連携に係る基本方針」としてウェブサイトに掲載している。(資料 C2-1-1) 大学院薬学教育部では、地域連携のために、地域社会の課題解決への取組を行うこと、また、大学院レベルでの生涯学習機能の強化のための取組を行うことを目的とし、これに関連する「次世代創薬研究者養成塾」などの情報をウェブサイトに掲載している(資料 C2-1-2)。

平成24年度に「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO (HIGO プログラム)」が文部科学省の「博士課程教育リーディングプログラム[複合領域型(生命健康)]」に採択された。これは、九州・アジアの社会的ニーズを理解し、地域と世界を結びつけて、諸課題の解決に挑戦できるグローバル(グローバル+ローカル)な健康生命科学パイオニアとしてのリーダーを養成するプログラムで、国際交流とともに熊本県、熊本市、天草市と連携した地域貢献活動を行っている。HIGO プログラムのウェブサイトにも目的と計画を掲載している(資料 C2-1-3、資料 C2-1-4)。

## 熊本大学の地域社会との連携に係る基本方針

平成25年1月17日

学長裁定

熊本大学は、地域社会からの要請を的確に把握し、研究成果の公開、人的交流、諸施設の開放等を通して、産業創成、地域経済振興、教育及び文化の向上、医療・福祉の増進等に積極的に貢献するとともに、教育面における社会サービスの充実を図り、地域に開かれた大学としての役割を果たす。

大学から地域社会への教育研究成果の還元という一方向だけでなく、地域社会との積極的な連携を通して双方向の活動を推進し、地域再生の核となる大学づくりのため、地域社会との連携に係る基本方針を次のとおり定める。

## 1 地域社会との組織的な連携の強化

自治体、団体、企業等と連携することにより、本学とこれらの機関が有する資源を活用し、地域社会の発展に貢献する。

## 【具体例】

- ・くまもと都市戦略会議への積極的な参画
- ・高等教育コンソーシアム熊本の活動への積極的な協力・支援
- ・地域医療の高度化と充実発展の推進
- ・国や自治体等との連携の推進

## 2 地域社会の課題解決への貢献

地域社会が抱える課題を解決するため、自治体等の審議会・委員会への参画、課題解決に関する調査研究及びその成果に基づく政策提言、本学の教育研究成果の還元を行うことにより、地域活性化を推進する。

## 【具体例】

- ・教職員や学生による地域の子供達への支援
- ・地域の学校教育への貢献（高大連携事業の推進、学校教育への支援等）
- ・商店街等活性化の活動
- ・超高齢社会に対応した地域づくりや学び、交流の場の提供
- ・地域医療に関する支援、調査研究、指導啓発
- ・自治体等の審議会・委員会への参画

## 3 大学の生涯学習機能の強化

地域の教育及び文化の向上・発展や多様な分野における人材育成などに寄与するため、本学の生涯学習機能を強化し、地域社会の発展に貢献する。

## 【具体例】

- ・職業人（特に専門職業人）向け公開講座の実施
- ・学生以外の者への公開講座、授業開放、講演会の充実・拡大
- ・社会人に対する学び直しの場の提供
- ・インターネットを介した講義・講演の一般公開
- ・地域の行政や産業界と連携した研修等の提供
- ・地域医療従事者に対する研修等の提供

- ・ 地域との科学技術対話の活発化
- ・ 他の機関と連携した生涯学習事業の推進

#### 4 産学連携・産業振興への貢献

地域再生・地域活性化のために、自治体や企業等と連携し、イノベーションの創出及び社会の変革を担い、グローバルに活躍できる人材の育成等を推進する。

#### 【具体例】

- ・ 地域における新産業創造の推進
- ・ 地域に対する研究開発技術の提供
- ・ 地域企業による学生向け情報提供の支援
- ・ 地域に対する研究成果の発信と還元
- ・ 中小企業向けトライアル支援事業の実施
- ・ 企業の技術者・研究者等に対する高度技術者研修の実施
- ・ 学生の柔軟な発想を活用した地域企業との連携によるインターンシップやプロジェクトの実施
- ・ 熊本発グローバルイノベーションを目指した「研究交流サロン」の開催

(出典：H25.1.17 学長裁定)

資料 C2-1-2 大学院薬学教育部ウェブサイトに掲載されている大学院レベルでの生涯学習の案内

熊本大学薬学部／大学院薬学教育部  
Kumamoto University School of Pharmacy / Graduate school of Pharmaceutical Sciences



受験生の方へ Prospective  
学部・大学院 Outline  
教育 Education  
研究 Research  
教員紹介 Staff  
キャンパス Campus

薬学部 School of Pharmacy 大学院薬学教育部 Graduate school of Pharmaceutical Sciences

**お知らせ** News&Topics

**第3回次世代創薬研究者養成塾のご案内**  
イベント 2013.11.25  
第3回次世代創薬研究者養成塾講演会  
日時:平成25年12月5日(木)16:00-18:30  
場所:薬学部 宮本記念館コンベンションホール  
演題:1.「製薬企業における創薬活動の現状と課題」第一三共 佐藤俊之博士  
2.「創薬研究の成功事例と失敗事例の紹介」第一三共 須田幸治博士  
[詳細はこちらをご覧ください](#)

(出典：大学院薬学教育部ウェブサイト)


 プログラム責任者からのメッセージ
 

熊本大学大学院医学教育部長 竹屋 元裕




HIGOプログラムは「グローバル（グローバル+ローカル）な健康生命科学パイオニアとしてのリーダー」を養成する大学院教育プログラムで、文部科学省の平成24年度博士課程教育リーディングプログラム[複合領域型(生命健康)]に採択されました。

「博士課程教育リーディングプログラム」は、平成23年度からスタートした文部科学省の事業の一つで、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進することを目的としています。

HIGOプログラムでは、この目的に沿って、「九州・アジアの社会的ニーズを理解し、地域と世界を結びつけて、諸課題の解決に挑戦できるグローバル（グローバル+ローカル）な健康生命科学パイオニアとしてのリーダー」を養成するため、大学院医学教育部・大学院薬学教育部が主体となり、大学院社会文化科学研究科及び政策創造研究教育センターとの連携のもと、大学院教育を行います。さらに、熊本県知事や熊本市長をはじめとした地域の行政ならびに産業界のリーダーの参画を得て、グローバルな次世代リーダー育成に取り組みます。

本プログラムのカリキュラムの特徴として、1. 大学・行政・産業界が連携した大学院教育プログラム 2. 本学のアジア戦略を活用した海外インターンシップの展開 3. 社会文化科学に精通した文理融合型人材育成 が挙げられ、博士課程の修了者には、博士（健康生命科学）、博士（医学）、博士（薬学）あるいは博士（生命科学）のいずれかが授与されます。

(出典：HIGO プログラムウェブサイト)


 コーディネーターからのメッセージ

熊本大学発生医学研究所 教授 桑 昭苑



九州・熊本は日本のアジアへの玄関口に位置し、多くの日本企業がアジアに進出しています。社会が求める人材として、企業のアジア進出を推進できるリーダー、あるいは専門的知識を生かして地域医療行政を担うことができる若手が挙げられます。しかしながら、これまでの生命科学系大学院では、高度の専門的知識と欧米志向の国際化を中心に若手を育成してきました。

HIGOプログラムでは、高度の専門的知識をもち、アジア志向の国際化の展開により、アジアと地域社会の仕組みと産業界のニーズを理解できる人材の育成を目指し、下記の目標を中心に展開していきます。

- ・九州・アジアへとグローバルに展開します。  
アジアは健康生命科学およびヘルスケアの領域において今後の市場性が高いと考えられます。地域社会とアジアのニーズを捉える能力を身につけるためには、アジア諸国の歴史・文化・言語を理解する必要があります。
- ・行政・産業界と連携して育成します。  
本学谷口学長の主導で立ち上げた「くまもと都市戦略会議」のメンバーである、蒲島知事、幸山市長、熊本の産業界と経済会のトップメンバーとの連携体制の下で、熊本県・熊本市と一体で推進します。
- ・熊本大学のアジア戦略を活用して海外インターンシップを展開します。  
海外医療行政・アジア諸国の健康産業のニーズなどを知る実践的な機会です。
- ・社会文化科学にも精通する理系人材を養成します。  
アジア諸国の人々と協力して仕事をするため、日本とアジア諸国の社会制度・価値観・歴史・文化の相違を理解し、異文化コミュニケーション力を備えた理系人材を養成します。

そして、HIGOプログラムで育成される人材像として、下記を想定しています：

- ・将来保健行政・医療行政・薬事行政に携わるリーダー
- ・アジアに展開する健康生命関連企業で活躍するリーダー
- ・国際的（グローバル）に活躍する健康生命科学分野の教育研究リーダー

HIGOプログラムの下で、産学官連携体制でこれらの特徴的な大学院教育に取り組みます。グローバルのニーズが分かる理系人材の輩出、新たなキャリアパスを開拓し、グローバル社会の活性化を目指します。HIGOプログラムを展開することにより、新たな教育システムを学内に導入し、大学改革を先導します。

(出典：HIGO プログラムウェブサイト)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

「熊本大学の地域社会との連携に係る基本方針」に沿った「次世代創薬研究者養成塾」などの取り組みを大学院薬学教育部ウェブサイトに掲載している。文部科学省の「博士課程教育リーディングプログラム」に採択された「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO (HIGO プログラム)」の目的、計画をウェブサイトに掲載している。以上より、期待される水準にあると判断した。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。
---------------------------

(観点に係る状況)

大学院薬学教育部では、地域社会の問題解決、および大学院レベルでの生涯学習機能の強化のため、以下のような活動を実施している。

(1) 地域社会の課題解決への貢献

トランスサイレチンという蛋白質から生成するアミロイドが全身に沈着し神経障害を引き起こす家族性アミロイドポリニューロパチーは、我が国では熊本と長野に患者フォーカスが見られる遺伝病で、根治させる治療法や薬剤が存在しないため、熊本地域で解決すべき大きな医療課題となっている。大学院薬学教育部では、本疾患につき、大学院医学研究部と積極的に共同研究を行い、家族性アミロイドポリニューロパチーという熊本地域社会の難課題を解決すべく活動を展開している(資料 C2-2-1)。

資料C2-2-1 家族性アミロイドポリニューロパチーの大学院薬学教育部と大学院医学教育部の共同研究

相手方分野名 研究題目	臨床検査学 家族性アミロイドポリニューロパチーの新規治療法の開発
相手方分野名 研究題目	病態情報解析学 家族性アミロイドポリニューロパチー治療薬の設計と合成に関する研究
相手方分野名 研究題目	病態情報解析学(臨床検査医学) 家族性アミロイドポリニューロパチーのプロダクト診断
相手方分野名 研究題目	病態情報解析学 トランスサイレチンのアミロイド形成過程に与える HSA の影響
相手方分野名 研究題目	病態情報解析学 トランスサイレチンのアミロイド線維形成におよぼすシクロデキストリンおよびそのデンドリマー結合体の抑制効果
相手方分野名 研究題目	病態情報解析学 家族性アミロイドポリニューロパチーの遺伝子治療におけるラクトシル化デンドリマー/シクロデキストリン結合体の有効利用

[http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/iryo\\_yakugaku/p11.html](http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/outline/graduate/iryo_yakugaku/p11.html)

(出典：熊本大学ウェブサイト)

(2) 大学の生涯学習機能の強化

大学院薬学教育部では、若手研究者が主体となって運営する大学院レベルの生涯学習「次世代創薬研究者養成塾」を定期的で開催し、研究教育環境の充実等を通して、次世代人材の育成を推進している。(再掲資料 I-6)

(3) HIGOプログラムによる地域社会貢献への取組

平成24年、25年に、熊本大学大学院 HIGO プログラム運営委員会では、天草郡市薬剤師会と連携して「天草医療インターンシップ研修会」を開催した(資料 C2-2-3)。



## 天草医療インターンシップ研修会 第1回天草地域医療を考える集い実施概要

- ・日時 2013年8月23, 24, 25日(金、土、日)
- ・目的 天草の医療施設を見学、現地の医療者、住民の話を聞き天草の地域医療を知り、将来の地域医療を担う医療人としての心構え、ビジョンを持つようにする。
- ・内容 現地施設見学、講演、グループディスカッション

### スケジュール

8月23日(金) バス移動(熊本→天草)施設見学(病院、薬局、保健所など)  
夜 情報交換会1

8月24日(土) ワークショップ形式の研修会(場所:五和コミュニティセンター) 前日に見学・インタビューを行った内容の学生同士での情報共有。天草の医療についての前向きな討論・発表・全体討論。  
夜:情報交換会2

8月25日(日)

午前:2日間のまとめ

(医師、薬剤師による語り部:天草の医療に対する思い。医療人としての生き方、経験談を語る)...(案)

バス移動(天草→熊本)

- ・会場 五和コミュニティセンター
- ・主催 天草郡市薬剤師会、熊本大学薬学部リーディング大学院
- ・協力 崇城大学薬学部、天草市在住医師、看護師(詳細が決まり次第記入)
- ・後援 天草市
- ・対象 薬学生(4,5,6年)、大学院生
- ・参加費 3000円(宿泊費、懇親会費込)
- ・定員 10名
- ・申し込み 氏名、ふりがな、学年、連絡先、Mailアドレスを記入の上、FAXまたはE-mailにて下記へE-mail、FAXにて申込ください。
- ・締め切り 6月末 定員になり次第、締め切らせて頂きます。
- ・連絡先 熊本県天草市〇〇町 〇〇調剤薬局 〇〇まで  
FAX 0969- Email.

-----切り取り-----

氏名:

学年:

連絡先 電話番号:

E-mail:

住所:

(出典:熊本大学大学院 HIGO プログラム運営委員会資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

熊本地域の大きな医療課題である家族性アミロイドニューロパチーの治療法開発のために積極的に研究に取り組んでいる。また大学院レベルの生涯学習として「次世代創薬研究者養成塾」を連続的に開催している。HIGOプログラムの一環として「天草医療インターンシップ研修会」を開催した。よって期待される水準にあると判定される。

観点 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して活動の成果が上がっているか。

(観点に係る状況)

大学院薬学教育部の教員により、家族性アミロイドポリニューロパチーの原因となる変異トランスサイレチンがアミロイドを形成するメカニズムが解明された。さらに、これを防ぐための方法が開発され、期待されている(資料 C2-3-1)。次世代創薬研究者養成塾は始まって2年目であるが、毎回、意欲的なテーマに取り組み、成果をあげている。HIGOプログラムによる「天草医療インターンシップ」は地元新聞で報道され、地域社会の関心を集めた(資料 C2-3-2)。

資料 C2-3-1 家族性アミロイドポリニューロパチーの原因解明と治療法

## 研究室案内

■ 拡大 - 遺伝子機能応用学分野

Department of Molecular Medicine
研究室Webサイトはこちら

**Amyloidogenic TTR**

**Inhibition of intracellular tetramerization**

家族性アミロイドーシスポリニューロパチーの原因蛋白質である変異TTRの細胞内4量体形成を抑制することにより、変異TTR特異的に細胞外分泌を抑制することができた。

(出典：熊本大学ウェブサイト)

## 地域医療の課題探る

### 学生、留学生ら意見交換 上天草市

「天草の地域医療を  
考える集い」が22、24  
日、上天草市の離島・  
湯島であった。医学部  
や薬学部で学ぶ県内の  
大学生や留学生らが住  
居する地域医療の課題を語り合  
った。

熊本大HiGOプロ  
グラムや天草郡市薬剤  
師会、上天草市医師会、  
同歯科医師会が企画。  
同大と崇城大の学生、  
留学生ら18人が参加し  
た。

24日はグループをつ  
くり討論。高齢化の進  
行や医療従事者の減  
少、検診の受診率の低  
下など、地域医療が抱  
える問題について意見  
を交わした。

熊本大大学院薬学教  
育部の[ ]さん  
(24)は「学んだ薬学の  
知識を、地域医療に反  
映させていくきっか  
けにしたい」と話し  
た。(小野宏明)



地域医療について話し合う学生ら  
=上天草市大矢野町の湯島

(出典：2014年8月26日熊本日日新聞朝刊)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

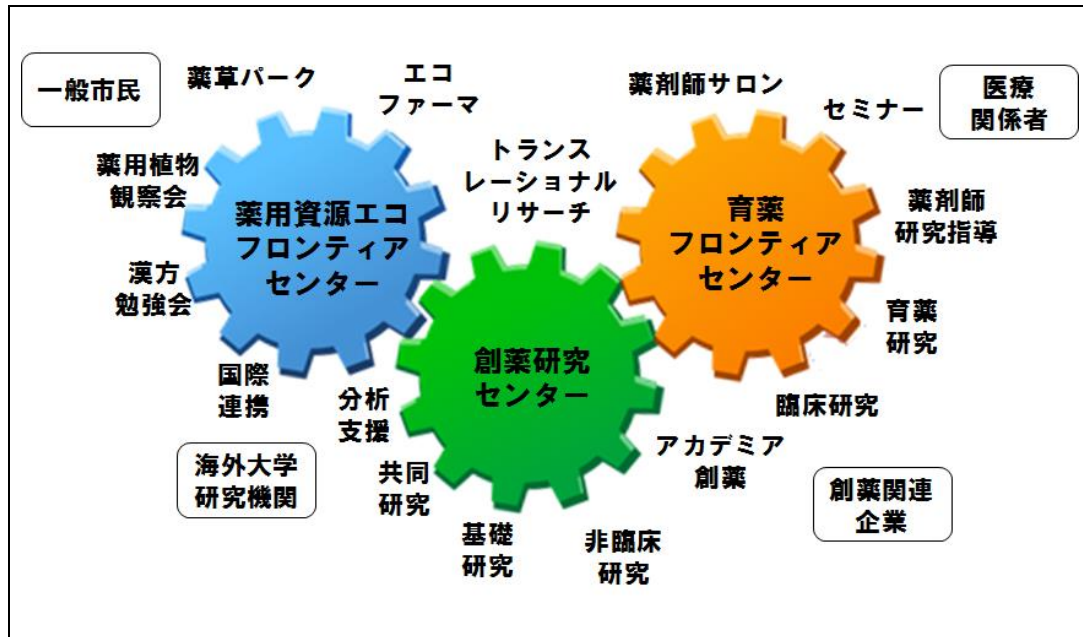
家族性アミロイドポリニューロパチーは原因解明と治療法の両面からの研究に成果が得られ、次世代創薬研究者養成塾は参加者の研究意欲向上につながっており、HiGOプログラムの天草インターンシップは地域社会の関心を集めたことから、期待される水準にあると判断できる。

観点 改善のための取組が行われているか。

(観点に係る状況)

家族性アミロイドポリニューロパチーの治療薬を開発することは産学連携につながる。その実をあげるためには、大学院薬学教育部を構成する教員が全員で一つのテーマに取り組むことが必要であり、そのための組織体制づくりが必要である。これを実現するため、創薬研究センター、育薬フロンティアセンター、薬用資源エコフロンティアセンターの3センターの連携統合を検討している(資料 C2-4-1)。

資料 C2-4-1 薬学部附属3センターの統合構想



(出典：3センター検討WG資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

3センター統合に向けてワーキンググループが立ち上がっており、これにより創薬、育薬、薬用資源が噛み合った地域貢献、社会貢献に向けた新体制が期待される。

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目Ⅰ 大学の目的に照らして、社会貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

「質の重要な変化あり。」

(記述及び理由)

改善、向上している

産学連携をめざした共同研究が活発に行われた結果、国立がん研究センターとの大学院連携講座の設置につながった。

(2) 分析項目Ⅱ 大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

「質の重要な変化あり。」

(記述及び理由)

改善、向上している

家族性アミロイドポリニューロパチーは原因解明と治療法の両面からの研究成果があがっている。大学院レベルの生涯学習である次世代創薬研究者養成塾は参加者の研究意欲向上につながっている。

#### IV 国際化の領域に関する自己評価書

## 1. 国際化の目的と特徴

熊本大学では、地方に立地する国際的に開かれた国立総合大学としての使命を果たすため、本邦での国際化と最先端を行く大学として、広く世界に認められるような国際的存在感のあるグローバルなアカデミックハブを目指している。具体的には、1) 国際的に通用する人材の育成、2) 世界に開かれた知の拠点形成、3) 世界に開かれた文化拠点の形成を基本ポリシーとしている。この方針に基づき、大学院薬学教育部でも、グローバル化する知識社会の中で薬学を牽引できる創造的人材や国境を越えて活動・活躍する大学院生、教員を育成・支援することを目的している。

### [想定する関係者とその期待]

関係者として、大学院生、教員、外国からの留学生、外国の研究者が該当する。外国大学との協定・連携の強化、教員や学生の海外派遣の増加、外国留学生、研究者の受け入れ増加、海外への情報発信の推進が期待されている。

## 2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

### 【優れた点】

国際交流協定締結校を中心に、ポカラ大学（ネパール）、スラバヤ工科大学（インドネシア）、スーダン国立薬用植物・有用植物研究所（スーダン）、ラオス保健科学大学薬学部（ラオス）、カリフォルニア大学サンフランシスコ校（米国）、ジョージア州立大学（米国）、マギル大学（カナダ）と交流を行っている。

日本学術振興会「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」により大学院生を外国の大学に派遣し、研究交流の実をあげている。

文部科学省「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO (HIGO プログラム)」により外国人大学院生が増加し、また上海とワシントン DC にて海外インターンシップを行い、成果があがっている。

### 【改善を要する点】

以前に比べて、国際的な教育研究環境は整備されているが、さらに世界水準以上の国際交流を展開していくためには、大学間あるいは学部間交流協定数の増加、人的交流の量的・質的向上、国際的ネットワークへの参画といった従来から行ってきた国際的な教育研究環境の整備に加えて、新たな取組を模索していく必要がある。

## 3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 国際化の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

### （観点到る状況）

本学の国際化の目的と計画については国際化推進センターのウェブサイト公表され、大学院薬学教育部もこれに則り国際交流を行っている（資料 D1-1-1）。

Kumamoto University  
Center for Globalization

← Kumamoto University Home Contact Us 中文 한글 日本語

Division of International Exchange Support Division of International Language Studies

Home Prospective Students Current Students Researchers International Engagement Japanese Language

**Aiming to become a Global Academic Hub**

Kumamoto University is an international university with a worldwide reputation for excellence in teaching and research. We have a long history of welcoming international students and researchers, and our strengths have reflected a strong commitment to engage with the world. The mix of people, nationalities and cultures on campus greatly enriches our learning and teaching environment, ensuring that our students, academic staff and partners across the world benefit from the experience that Kumamoto University has to offer.

Whether you are hoping to come and study at Kumamoto, are a current student or a member of an overseas institution we are sure that you will find all the information you need in these pages. Also, our staff are pleased to help with any inquiries from potential, new, current students including immigration and visa advice, pre-departure information, and lots more!

News [More News](#)

Key Links

- Prospective International Students
- Japanese Language
- Life in Kumamoto

→ Kumamoto University Reserchers Search by Read

Kumamoto University  
2-39-1 Kurokami  
Chuo-ku  
Kumamoto  
860-8555  
JAPAN

(出典：熊本大学ウェブサイト)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

国際化の目的をと計画は本学のウェブサイトに掲載されており、大学院薬学教育部においてもこれに則った国際交流を行っていることから、期待される水準にあると判断した。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

グローバル化する知識社会の中で薬学を牽引できる創造的人材や国境を越えて活動・活躍する学生、教員を育成・支援するための具体的方針として、海外との大学間・部局間交流協定を締結し、その結果、海外との人的交流が増加している（資料 D1-2-1、資料 D1-2-2）。大学院薬学教育部と国際交流ネットワークを構築している機関としては、国際交流協定締結校を中心に、ポカラ大学（ネパール）、スラバヤ工科大学（インドネシア）、スーダン国立薬用植物・有用植物研究所（スーダン）、ラオス保健科学大学薬学部（ラオス）、カリフォルニア大学サンフランシスコ校（米国）、ジョージア州立大学（米国）、マギル大学（カナダ）がある。



日本学術振興会「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」に採択されている「慢性炎症の発症機構の分子メカニズムの解明と新たな創薬戦略の構築」を活用して、大学院生の海外派遣を支援している（資料 D1-2-3）。

本学では大学院生、学部学生の海外での国際学会への参加等を支援する「国際的活動支援奨学事業」を行っている（資料 D1-2-4）。資金が減額されているため対象学生数は若干低下する傾向があるものの、アメリカ、オーストラリア、ポルトガル、韓国、中国、マレーシア、スーダン、タイなどで開催された国際学会に大学院生、学部学生が参加している。

## 資料 D1-2-1 薬学教育部との交流実績のある大学間交流締結校

国名	大学名
インドネシア	スラバヤ工科大学 (Institut Teknologi Sepuluh Nopember)
ネパール	ポカラ大学 (Pokhara University)
韓国	亜洲大学校 (Ajou University)
トルコ	エーゲ大学 (Ege University)

(出典：薬学教育部事務関係資料)

## 資料 D1-2-2 部局間交流協定締結校

国名	大学名
中国	哈爾濱医科大学 (Harbin Medical University)
中国	広西医科大学 (Guangxi Medical University)
中国	温州医科大学 (Wenzhou Medical College)
ラオス	ラオス保健科学大学薬学部 (University of Health Science, Lao PDR, Faculty of Pharmacy)
スーダン	国立薬用植物・有用植物研究所 (Medicinal and Aromatic Plants Research Institute)
アメリカ合衆国	セント・ジョーンズ大学薬学大学院 (College of Pharmacy and Allied Health Professions, St. John's University)
アメリカ合衆国	ジョージア州立大学炎症・免疫・感染研究センター (Georgia State University Center for Inflammation, Immunity & Infection)

(出典：薬学教育部事務関係資料)

## 資料 D1-2-3 頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラムによる海外派遣計画

年度	2013年度	2014年度	2015年度	合計
派遣人数	3人	4人(3人)	4人(2人)	6人

( )内は前年度から継続して派遣されている人数(内数)

(出典：日本学術振興会ウェブサイト)

資料 D1-2-4 薬学部・大学院薬学教育部学生に対する国際的活動支援奨学事業

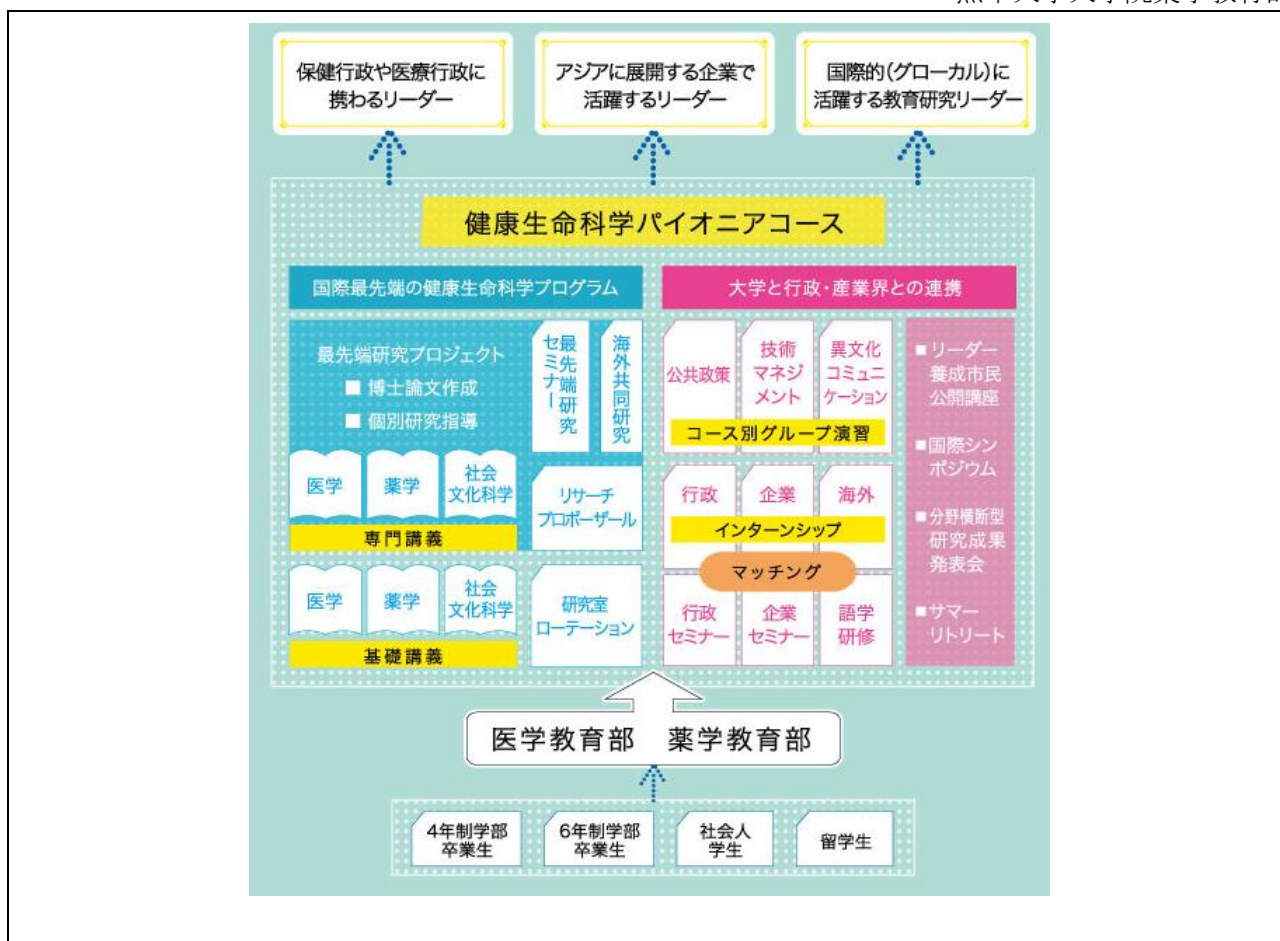
目的	熊本大学薬学部・大学院薬学教育部学生の国際的な研究・学習活動への参加機会を広く提供し、参加を支援することによって、参加者の国際的な視野と研究・学習能力および研究意欲を高める。
応募資格	薬学部・大学院薬学教育部博士前期課程及び後期課程学生、博士課程学生
奨学事業の対象となる国際活動	<p>(1) 海外で行われる国際学会において第一著者として発表</p> <p>(2) 国際的な調査活動</p> <p>(3) 国際インターンシップ</p> <p>(4) その他、国際的な研究・学習活動</p> <p>海外における国際学会で第一著者として発表することを優先するが、国際的な調査活動、国際インターンシップ及びその他、国際的な学習・研究活動を行う場合も対象とする。</p>

(出典：薬学部・大学院薬学教育部学生に対する国際的活動支援奨学事業実施要領)

また、平成 24 年度からは、文部科学省の「博士課程教育リーディングプログラム[複合領域型(生命健康)]」に採択された「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO (HIGO プログラム)」がスタートした。これは、九州・アジアの社会的ニーズを理解し、地域と世界を結びつけて、諸課題の解決に挑戦できるグローバル(グローバル+ローカル)な健康生命科学パイオニアとしてのリーダーを養成するプログラムである(資料 D1-2-5)。

資料 D1-2-5 HIGO プログラムの特色

<p>HIGO プログラムの特色</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) <b>健康生命科学を担う次世代リーダーの育成</b> 医学と薬学の2つの大学院に跨る教育プログラムによって、最先端の健康生命科学を幅広く修得する。</li> <li>2) <b>九州・アジアのグローバル社会で活躍する人材育成</b> 日本とアジア諸国の歴史・文化・言語などを理解し、国内外の健康増進のためのニーズを捉える能力を向上させる。</li> <li>3) <b>大学・行政・産業界が連携した大学院教育プログラム</b> 地域の大学・行政・産業界のトップメンバーの教育プログラム参画(熊本知識者円卓会議『熊本版ダボス会議』などへの参加)。</li> <li>4) <b>アジア戦略を活用した海外インターンシップの展開</b> 熊本大学と熊本県/市の共同による海外オフィス、アジア諸国の医療行政・健康産業のニーズを知る実践的な研修を行う。</li> <li>5) <b>社会文化科学に精通した文理融合型人材の育成</b> 日本とアジア諸国の社会制度・価値観・方向性の相異を理解し、異文化コミュニケーション力を養成する。</li> <li>6) <b>HIGO プログラムによる大学改革とグローバル社会貢献</b> 学長及び全学的な支援のもと、これからの大学改革モデル、さらにはグローバル社会への貢献の原動力にする。</li> </ol>
---



(出典：HIGO プログラムウェブサイト)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

多くの海外機関と協力協定を締結した。日本学術振興会「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」に採択され、大学院生による外国大学との研究交流が開始した。文部科学省の「博士課程教育リーディングプログラム[複合領域型(生命健康)]」に採択された「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO (HIGO プログラム)」がスタートした。以上から、期待される水準にあると判断した。

観点 活動の実績及び学生・研究者の満足度から判断して活動の成果があがっているか。

(観点に係る状況)

海外からの大学院薬学教育部への留学生は平成 21 年度 7 名、22 年度 5 名、23 年度 5 名、24 年度 3 名、25 年度 9 名と活発であり、国籍もフィリピン、中国、トルコ、ネパール、エジプトと多岐にわたっている (資料 D1-3-1)。

大学院薬学教育部からの学生海外派遣、国際会議での発表も活発である (再掲資料 A1-2-3-1)。

資料 D1-3-1 薬学教育部留学生入学者数

入学年度	所属		奨学金種類	性別	国籍	小計(人)	合計(人)
	学科・課程	専攻					
21年度	研究生(修士)		国費	男	フィリピン	2	7
			私費	女	中国		
	研究生(博士)		国費	男	フィリピン	2	
			国費	女	トルコ		
	博士前期課程	分子機能薬学専攻	私費	男	中国	2	
分子機能薬学専攻		国費	男	フィリピン			
博士後期課程	分子機能薬学専攻	国費	男	フィリピン	1		
22年度	研究生(修士)		私費	男	中国	2	5
			私費	男	中国		
	研究生(博士)		国費	女	フィリピン	1	
	博士後期課程	生命薬科学専攻	国費	女	トルコ	2	
分子機能薬学専攻		国費	男	ネパール			
23年度	研究生(修士)		国費	女	フィリピン	1	5
	研究生(博士)		国費	男	ネパール	1	
	博士前期課程	分子機能薬学専攻	私費	男	中国	2	
		創薬・生命薬科学専攻	国費	女	フィリピン		
博士後期課程	分子機能薬学専攻	国費	女	フィリピン	1		
24年度	研究生(博士)	創薬・生命薬科学専攻	国費	男	トルコ	1	3
	博士後期課程	創薬・生命薬科学専攻	国費	男	ネパール	2	
			国費	男	エジプト		
25年度	研究生(博士)		国費	男	エジプト	1	9
	博士前期課程	創薬・生命薬科学専攻	私費	女	中国	4	
			私費	男	ネパール		
			私費	男	フィリピン		
			私費	男	フィリピン		
	博士後期課程	創薬・生命薬科学専攻	国費	男	エジプト	4	
			外国政府	女	エジプト		
			国費	男	トルコ		
外国政府			女	中国			

(出典：薬学教育部教務関係資料)

「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」に採択された「慢性炎症の発症機構の分子メカニズムの解明と新たな創薬戦略の構築」では、3名の大学院生が米国、カナダの大学にそれぞれ300日以上滞在し、研究実績をあげている(資料D1-3-2)。




資料 D1-3-2 頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラムによる海外派遣

派遣者の身分	派遣先	派遣日数			合計
		2013年度	2014年度	2015年度	
博士後期課程2年	米国ジョージア州立大	66日	240日	0日	306日
博士後期課程2年	カナダ、McGill大	16日	15日	270日	301日
博士後期課程3年	米国カリフォルニア大 SF	63日	240日	0日	303日

(出典：日本学術振興会ウェブサイト)

HIGOプログラムの開始にともない、大学院への留学生数がそれ以前（5名）に比べて倍増（10名）した。同様に、本プログラムにより、大学院生の海外研修（平成22,23年度：4件、24,25年度：9件）や海外での国際学会への参加回数（平成22,23年度：27件、24,25年度：35件）も増加した。平成25年8月と9月に上海およびワシントンDCにて海外インターンシップが行われ、それぞれ充実した日程で成果に結びつき、参加者の満足度も高いものであった（資料D1-3-3、資料D1-3-4）。

資料 D1-3-3 HIGOプログラム上海インターンシップ

<p>上海インターンシップ（2013.8.4-8.11）</p> <p> 参加者</p> <p>HIGOプログラム(学生10名、教職員8名) 社会文化科学研究科(学生6名、教職員2名)</p> <p> 目的</p> <p>社会をより深く理解すると同時に、アジア地域のニーズや課題を自ら発見・解決するための素養を養い、世界で通用する国際感覚を身につける。</p> <p> 活動内容/日程</p> <p>8月4日(日): 移動日(熊大→福岡空港→上海浦東空港) 8月5日(月): 上海交通大学医学院訪問・院生研究交流会 龍華街道健康促進ボランティアリーダー育成プログラム10周年記念事業への参加 8月6日(火): 浦東新区人民政府訪問/彭浦新村コミュニティ高齢者介護施設訪問 8月7日(水): 上海市環境監測センター訪問/上海交通大学国際及び公共事務学の院生と意見交換会/熊本上海事務所にて日中青年実業家との交流会 8月8日(木): 上海中医薬大学訪問・院生研究交流会/上海市第六人民病院視察 8月9日(金): ワールドフィナンシャルセンター、上海都市歴史発展陳列館視察 上海浦南病院への施設見学、同病院スタッフとの意見交換会 8月10日(土): 蘇州工業団地・青山自動車緊固件への施設見学・熊大OBとの意見交換会/留園・ 虎丘視察 8月11日(日): 日本へ帰国</p>
--

(出典：HIGOプログラムウェブサイト)

## 米国ワシントン DC インターンシップ (2013.9.29- 10.5)

 参加者

HIGO プログラム: 11 名 (学生 9 名、プログラム委員 1 名、特任准教授 1 名)、  
International Institute of Global Resilience (IIGR): 深見真希博士はじめ 10 名以上の方々

 目的

実務場面で直面する問題解決のため、状況に即応した意思決定、行動、管理能力を習得し、具体的に実践できる能力を身につける。

(実務場面とは、健康生命関連実務(行政、企業、教育研究など)として、幅広く想定)

 内容**1日目 FEMA training**

アメリカ合衆国連邦緊急事態管理庁 (Federal Emergency Management Agency of the United States、略称:FEMA) 公認のトレーナーであり、メリーランド大学教授の Kathleen Henning 氏により FEMA、ICS (Incident Command System) の概要および各セクションの機能、関連性に関するレクチャーと、緊急時を想定したシミュレーション訓練プログラムを受けました。

**2日目 FEMA training**

引き続き、Kathleen Henning 氏による、より複雑な状況を想定した、FEMA シミュレーション訓練プログラムを受けました。グループで討論、プレゼンテーションし、参加者全員でディスカッションしました。その後、Joseph Barbera 博士、Leo Bosner 氏、Takeshi Nagata 博士から ICS を用いた実際例や具体例についてのレクチャーを受けました。この 2 日間のシミュレーション訓練プログラムにより、ICS を用いた問題解決、意思決定、マネジメント、リーダーシップに関する知識とそれらを取り扱うスキルを学ぶことが出来ました。

**3日目 Business management**

この日から、健康生命に関するビジネス・起業に関するプログラムです。まず、Sachiko Kuno 博士からは起業精神について、キャリアアップを成功させていく秘訣について、Ryuji Ueno 博士からはプロトン(プロスタグランジン代謝物)の概要と、その発見を如何にして起業に結び付けたのかについて、レクチャーを受けました。その後世界銀行にて、Naoko Ohno 博士より、世界銀行の役割と実際にどのような活動を行っているのかについてレクチャーを受けました。その後研修施設へ移動し、Shinichi Nozaki 氏 から、日米での医療制度に関するレクチャーを受けました。

**4日目 Medical/Health Business**

モンゴメリー州立イノベーションセンターにて、センター長の John A. Korpela 氏からモンゴメリー州がどのようにして起業・イノベーションをサポートしているのかについて、さらに同施設にて実際に起業した Wataru Akahata 博士からワクチン開発に関する研究内容と、それを基にしたイノベーションセンターでの活動についてのレクチャーを受けました。また

午後からは研修施設に移動し、Devang Thakor 博士からアメリカ特許システムについて、また起業精神についてのレクチャーを受けました。この 2 日間のプログラムにより、健康生命分野におけるビジネスの現状や起業、さらにリーダーシップに関する知識・精神を学ぶことが出来ました。

**最終日 Field work**

より俯瞰的な視野を広げるために、ワシントン DC およびその周辺の公共・文化・歴史・芸術・政治に関する施設を見学するフィールドワークを予定していました。しかし、17 年ぶりにアメリカ連邦議会の混

乱から、政府所管の施設がほぼ全て閉鎖されてしまいました。そこで、研修施設の近郊で唯一訪問可能であったマウントバーノン(アメリカ合衆国バージニア州アレクサンドリア近くに位置し、アメリカ合衆国初代大統領ジョージ・ワシントンのプランテーションがあった所)を訪問し、アメリカ建国の歴史・精神について学びました。

### インターンシップを終えて・・・

今回のプログラムでは、多彩なテーマのトレーニング、レクチャーが行われました(下記参照)

行政: FEMA training, Ohno博士@世界銀行、  
 行政&ビジネス: Korpela氏(イノベーションセンター長)レクチャー  
 ビジネス: Kuno博士、Devang博士レクチャー  
 ビジネス&研究: Akahata博士、Ueno博士レクチャー

それらはいずれも HIGO プログラムが目指すリーダーに関連するものです。ワシントン DC という世界の政治、経済、研究の中心地で活躍する方々から直接レクチャーやトレーニングを受けたり、数多くの日本人が活躍する姿を間近に見たり、更にその方々と交流を持てたことは、参加者の中に明確なキャリアモデルや entrepreneurship、今後の自身の活動に対する思いなどを強くイメージで来た1週間であったと思います。また、アメリカ議会の予算審議が頓挫したことにより、ワシントン DC の政府系施設のみならず、地下鉄の本数、官庁街周りの店舗などいたるところに影響が出ました。それらを含めて、アメリカの政治、経済、文化、歴史、そしてコミュニティを肌で感じる事が出来たことは非常に大きな経験になったと思います。この DC プログラムを通じて彼らを感じたものを今後も継続し、さらなる高みを目指して日々の活動に生かして欲しいと感じています。

日頃なじみのないテーマに関するトレーニングやレクチャーが英語で行われることから、学生がどれだけプログラム内容についていけるのか、更に受け身にならずそれを踏まえてプレゼンテーションやディスカッションにまで至ることが出来るのかという一抹の不安はありました。しかし、これまでの HIGO での講義、セミナーやインターンシップ、さらには日常の活動の積み重ねによる参加者の能力の向上、そしてこの DC プログラムに対する学生たちの高いモチベーションもあって、積極的に質問する姿やレベルの高いプレゼンテーションが随所に見られ、これまでの HIGO の活動が生かされた非常に評価できるプログラムだったと思います。

最後に、このプログラムの成功は IIGR の深見真希博士、佐伯加奈子氏、S&R Foundation Sachiko Kuno 博士、Scumpo 社 Ryuji Ueno 博士をはじめとした多くの方々のご尽力に因るものです。この場を借りて、改めて心から感謝申し上げたいと思います。

文責 久恒昭哲

### 参加した学生の声

・このインターンシップが開催されたのが、世界のリーダー的存在であるアメリカであり、世界で活躍するリーダーを多数輩出しているアメリカの雰囲気や空気に触れることができた。ネイティブスピーカーと交流し、本物の英語の講義を受けることで、自分の英語力(英語でのディスカッション力)、対話力、コミュニケーション能力を計り知ることができた。これにより、今後、自分の英語のみならず社交性に関しての課題が見えたと思う。また、場所は英語圏だが、会話は日本語ということに陥りがちだが、授業はもちろん、普段の会話も英語(留学生の存在や、講師の先生との会話や質疑応答、発表など)だったので、実際に英語を話す機会が多く与えられ、全体の英語力がわずかだがアップしたのではないかと

思う。

・現在の仕事を頑張る事が将来の仕事に繋がるという一見当たり前の結論ですが、非常に具体的なアドバイスを下さって、vision が明確になりました。

・将来のビジョンの一つを与えて下さったことを本当に幸運に思い、感謝している。

・私も来年から博士課程を公衆衛生分野で研究をするため、これからこの世界銀行で働きたいという目標を日々忘れないよう、研究に励みたい。

・自分の基礎的研究を最終的に実際の患者さんの治療に応用することができるということはとても素晴らしいことだと感じました。また、自分で医薬品にすることも重要なことと感じました。

・レポートに書かせていただけていない部分や、講義以外の面を含めて、今回のワシントンインターンシップは自分にとってこれまでで一番有意義な経験になったのではないかと感じます。

・実際に日本とは異なる文化を持っているので何らかの違いはあるのだろうと漠然と認識していたが、思っていた以上に行政・企業の連携システム(FEMA を通じて) やコミュニケーション方法(Business innovation network を通じて) に違いがあることに驚いた。では、私自身はどちらのシステムの中で研究者を続けていくかという答えはまだ出ていない。しかし、Business innovation network や上野先生の話聞いてアメリカで自分の力を伸ばしたい、試したいという気持ちが出てきたのは確かである。また、今回のインターンシップを踏まえ、次のインターンシップに期待することはやはり他の世界のアカデミアの雰囲気を経験してみたかったということである。

・異国の地で成功し、そして成功し続ける先生方から様々な形で勉強させて頂いた。先生方の成功をアメリカンドリームという形で実際に目の当たりにし、全身が震えた。また起業だけでなく、ICS や世界銀行、アメリカの医療制度などについても、日本では決してお会いして、勉強させて頂くことのない方々に様々なことをご教授頂き、大変実りの多いインターンシップとなった。

・The internship was really effective, enjoyable, motivational, educational and important to us. We learned about research, business, innovations, health and hazards, emergency mitigation, cultures, heritage, different geographic region, and world fraternity. Thanks to HIGO program Kumamoto University, organizers, learned professors for arranging such essential and fruitful internship.

(出典：HIGO プログラムウェブサイト)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

外国から大学院薬学教育部に受け入れた留学生数は一定水準を維持している。日本学術振興会の頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラムによる海外派遣では目的に応じた研究交流の実績をあげている。HIGO プログラム海外インターンシップでは研修効果、参加者の満足度、充実度が高かった。よって期待される水準にあると判断される。



観点 改善のための取り組みが行われているか。
------------------------

(観点に係る状況)

以前に比べて、国際的な教育研究環境は整備されているが、さらに世界水準以上の国際交流を展開していくためには、大学間あるいは学部間交流協定数の増加、人的交流の量的・質的向上、国際的ネットワークへの参画といった従来から行ってきた国際的な教育研究環境の整備に加えて、新たな取組を模索していく必要がある。

新たな取組として、外国人教員の雇用を模索している。HIGOプログラムの予算でネパールの特任助教を雇用した。ネパールのポカラ大学と薬用資源に関する国際交流を活発に行っている。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

海外との交流協定数の増加、海外留学及び研修学生数や留学生数の増加を促すための従来からの取組に加えて、外国人教員の雇用による国際交流推進の新たな取組を模索していることから、期待される水準にあると判断した。

#### 4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目 I 目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

(記述及び理由)

改善、向上している。

国際交流協定締結校を中心に、ポカラ大学（ネパール）、スラバヤ工科大学（インドネシア）、スーダン国立薬用植物・有用植物研究所（スーダン）、ラオス保健科学大学薬学部（ラオス）、カリフォルニア大学サンフランシスコ校（米国）、ジョージア州立大学（米国）、マギル大学（カナダ）と交流を行っている。

日本学術振興会「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」により大学院生を外国の大学に派遣し、研究交流の実をあげている。

文部科学省「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO (HIGO プログラム)」により外国人大学院生が増加し、また上海とワシントン DC にて海外インターンシップを行い、成果があがっている。

改善のための取組として、外国人教員の雇用による国際交流推進の新たな取組を模索し、成果に結びつきつつある。

以上より、国際化に向けた活動は、「改善、向上している」と判断できる。

V 男女共同参画に関する自己評価書

## 1. 男女共同参画の領域の目的と特徴

本学において平成 19 年 3 月に策定された国立大学法人熊本大学「男女共同参画推進基本計画」では以下の目標を掲げ、各部局はこれに基づいて具体的な取組みを計画的に推進している。

男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現を目指し、

- (1) 教育・研究及びそれを取り巻く就労・就学環境の整備
- (2) 男女が共に参画して社会を形成していくための原動力となり、社会で活躍できる人材の育成
- (3) 男女共同参画社会の形成のための教育・研究の充実の推進を図る。

その推進体制として、以下の 2 組織が柱となっている。

- (1) 男女共同参画推進委員会： 男女共同参画担当副学長や関連理事（研究担当ならびに学生担当）、各部局の代表者、学外委員（マスコミ関係）等から構成され、基本方針の検討を行う。生命科学研究部（薬学系）からは、これまで 3 名の女性教授が 2 年交代で委員を務めている。
- (2) 男女共同参画推進室会議： 副学長や学長特別補佐、コーディネーター全員、男女共同参画関連教員、各事務組織の幹部職員、男女共同参画担当職員等から構成され、具体的取組みの検討・実施を担当し、事業推進する。本会議の室員には、1 年交代で生命科学研究部 3 系のチームリーダーが参加している。

部局での具体化として、当初、生命科学研究部男女共同参画推進委員会が設置されたが、よりきめ細かな取組みをするために、平成 22 年度生命科学研究部（薬学系）男女共同参画推進委員会が設置され、現在 4 名が委員として、全学の男女共同参画推進に関わる活動と連携した薬学部・大学院薬学教育部の活動を担っている。

### [想定する関係者とその期待]

当部局に所属するすべての教職員、大学院生、学生が対象で、男女を問わず、すべての構成員にとって、働き、学びやすいことが期待されている。さらに出前講義や卒後研修・地域開放などを受講する高校生・薬学関係者・地域の方々にとっても、特に部局の構成員が、生き生き学び、働く姿は意義あると考える。

その中で、薬学部女子学生・大学院薬学教育部女子院生が研究職を希望することやライフイベント中の女性教職員への支援に関する取組みが基本である。ただ、薬学部・大学院薬学教育部ではライフイベント中の女性教職員の数は少ないが、同様の立場にある男性教職員は一定程度在職しているので、その支援も重要である。

## 2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

## 【優れた点】

女性研究者の積極的な採用について、他の国立大学の薬学部と比較して女性教授の割合が多い。これは教授人事が業績に基づき公正に行われていることを反映していると評価できる。

セミナーの開催について、毎年、生命科学研究部（薬学系）男女共同参画推進委員会共催で、特別講演会が開催され、頑張る女性研究者や大学・研究機関・企業の女性研究者の状況を紹介している。

毎年、薬学部・大学院薬学教育部の女子学生・女子院生、女性教員が、主に女子中高生理系進路選択支援プログラムに協力し、薬学部・大学院薬学教育部の紹介や研究の面白さの講演を行っている。

平成 26 年 3 月、本学薬学部長・大学院薬学教育部長が組織委員長となって熊本にて開催した日本薬学会第 134 年会において、本学の男女共同参画担当副学長（本学薬学部女性教授）がオーガナイザーを務め特別シンポジウム「薬学系女性の研究キャリア形成（2）～決断のときあなたは～」を開催し、日本薬学会における男女共同参画推進に対する意識改革に一定貢献した。

女性の参画の拡大について、平成 23-24 年度女性教員が副部局長、平成 25 年度女性教員が入試管理委員長を務めた。平成 25 年度より女性教員が男女共同参画担当副学長を務めている。

## 【改善を要する点】

女性教員の採用に関する目標を設定していない。これは小さい部局で人事が少ないことや女性教授が定期的に採用されてきたことによるが、目標設定が必要な時期に来ているのかもしれない。

男性教職員の育児・介護に関わる休暇の取得が少ない。

## 3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 目的に照らして、男女共同参画に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること

観点 目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

（観点到に係る状況）

生命科学研究部（薬学系）においては、国立大学法人熊本大学 男女共同参画推進基本計画（資料E1-1-1）を基に、（1）女性研究者の積極的な採用。（2）育児・介護休暇の支援。（3）セミナーの開催。（4）女性の参画の拡大等推進計画を定めている（資料E1-1-2）。

また、この目的と計画は、本学の男女共同参画推進室のウェブサイトで広く公表（資料E1-1-1、E1-1-2）されている。

資料E1-1-1 国立大学法人熊本大学 男女共同参画推進基本計画（抜粋）  
(<http://gender.kumamoto-u.ac.jp/about/kihonhoushin.pdf>)

# 国立大学法人熊本大学 男女共同参画推進基本計画

平成19年3月26日策定



男女共同参画社会基本法（平成11年制定）は、男女共同参画社会について、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」と定義し、その実現を「21世紀の我が国社会を決定する最重要課題」と位置付け、社会のあらゆる分野において、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の推進を図っていくことが重要である、としている。

熊本大学は、男女共同参画社会の実現のために大学が担うべき役割と責任の大きさを自覚し、ここに「熊本大学男女共同参画推進基本計画」を策定する。

本計画は、本学における男女共同参画推進の目標、方針、推進体制等について基本的事項を定めたものであり、今後、大学及び各部局はこれを基にして、全学一体となって具体的な取組みを計画的に推進していくことになる。

資料E1-1-2 各部局における男女共同参画推進進捗状況一覧

部 局 等 名	推 進 計 画	進 捗 状 況 等
<p>大学院生命科学研究部（薬学系）</p>	<p>1. 熊本大学大学院生命科学研究部における男女共同参画の推進に関する委員会規則（平成22年3月24日制定、平成22年4月1日施行）に基づき、薬学系男女共同参画推進委員会を設置した。</p> <p>2. 男女共同参画推進の具体的計画を策定する。                      (1)男女共同参画推進セミナーを年1回程度実施し、男性教職員5割以上の参加を目指し意識改革を行う。                      (2)育児休業支援                      現在育児休業中及び育児休業取得経験者から、休業を申し出た際の①困ったこと、②気兼ね、③良かったこと、④配偶者の協力、⑤大学への要望等の実態を調査・把握し、支援方法を検討する。                      (3)介護休業支援                      介護休業の実態を調査し、介護休業取得経験者から休暇を申し出た際の①困ったこと、②気兼ね、③良かったこと、④配偶者の協力、⑤大学への要望等支援方法の実態を調査・検討し、支援方法を検討する。</p> <p>3. 大学への要望                      (1)男女共同参画推進に対する、苦情申し立て窓口・担当者等を設置・整備し、教職員に周知するとともに、問題点等に対し迅速な対応、解決を行う。                      (2)女性教員を採用した場合、その部局の教育研究費の予算配分割合を増やす。                      (3)学長指名の副学長、学長特別補佐理事に女性を登用する。</p>	<p>1. 大学院生命科学研究部（薬学系）男女共同参画推進委員会の活動                      ◎日本薬学会第134年会において組織委員会提案の特別シンポジウム「薬学系女性の研究キャリア形成（2）～決断のときあなたは～」を開催した。                      ◎熊本大学男女共同参画推進室主催のフォーラムやシンポジウムへの参加を呼びかけ、毎回4～5名が参加した。                      ◎女子中高生理系進路選択支援プログラムの講師に女子院生を推薦し、女子中高生理系進路選択支援事業に協力した。                      ◎育児休業取得者に取得に関する意見の聞き取りを行った。</p> <p>2. その他の活動                      ◎熊本大学薬学部は、全国の国立大学の薬学部の中で最も女性教授の割合が高い。そのことに関する情報発信並びに広報活動について、熊本大学の男女共同参画に関する取り組みも含めて、学部説明会や高校訪問等で行われている。</p> <p>特記事項                      ・平成25年4月1日付けで女性教員が副学長に就任した。                      ・平成26年1月1日付けで女性助教を採用した。                      ・平成25年度、女性教員が入試管理・検討委員会委員長を務めた。</p>

(出典：男女共同参画進捗状況 (H26.4.1))

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

目的にあった計画が定められ、それがウェブサイトで広く公表されている。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。
---------------------------

(観点に係る状況)

計画である(1)女性研究者の積極的な採用。(2)育児・介護休暇の支援。(3)セミナーの開催。(4)女性の参画の拡大について以下の活動状況である。

(1)について、全国的に薬学部・薬学系大学院は女子学生の割合が他の理系学部・大学院と比較すると多いにもかかわらず、全国的に特に国立大学・大学院における女性教員の割合はそう多くないのが現状であるが、本学薬学部・大学院薬学教育部においては専任の女性教授の割合が22% (平成26年5月現在)と他大学(例えば、長崎大学や九州大学の薬学部には専任の女性教授はいない。岡山大学は1名(6%))と比較して高い。当部局の教員には、女性研究者を積極的に採用するという意識は比較的高く、国立大学薬学部の中で専任の女性教授の割合が最も高いという結果となっている(資料E1-2-1)。

(2)について、技術職員が長期の育児休業を取得した。その際、通常補充されない産休中の代替者の雇用が認められ、安心して休業ができた。

(3)について、生命科学研究部(薬学系)男女共同参画推進委員会共催で、特別講演会を平成22年度以降、計4件開催し、本年度も計画されている(資料E1-2-2)。参加者は一セミナー当たり平均約50名であった。また、先に述べたように、女子学生・院生の多い薬学系においても女性研究者・教員の割合は女子院生の割合と比較すると非常に少ないにも拘らず、日本薬学会において男女共同参画関連の事業はほとんどないのが現状であるが、本年3月、本学薬学部長・大学院薬学教育部長が組織委員長となって熊本にて開催した日本薬学会第134年会において、本学の男女共同参画担当副学長(本学薬学部女性教授)がオーガナイザーを務め特別シンポジウム「薬学系女性の研究キャリア形成(2)～決断のときあなたは～」を開催し、約70名の参加で好評を得た(資料E1-2-3)。

全学で開催された男女共同参画推進や女性研究者支援に関するフォーラムやシンポジウムへの参加者が、特に平成25年度に増加した(毎回4～5名の参加)。

女子中高生理系進路選択支援プログラムにおいて、薬学部女子学生・女子院生・女性教員が生き活きと学生生活や研究状況を発表した。

(4)について、すべての女性教員が薬学部・大学院薬学教育部の重要な委員会で活動している。女性教授が平成23-24年度副教育部長を務めた。平成26年度の全学委員会への参画率は8%である。薬学部・大学院薬学教育部女性教授が平成25年度より男女共同参画担当副学長を務めている。

その他、平成25年度女性研究者研究活動支援事業(拠点型)の事業である女性研究者研究力向上のための支援事業、熊本県内高等教育機関の女性研究者の共同研究に対する支援に1課題採択された。

資料 E1-2-1 薬学教育部の男女別教員数 (平成26年5月1日現在)

課程	学科・専攻等名	性別	職名						総合計
			教授	准教授	講師	助教	助手	合計	
博士前期	創薬・生命薬科学専攻	男	17	13	3	12	0	45	53
		女	5	1	0	2	0	8	
合計			22	14	3	14	0	53	53
博士・博士後期	創薬・生命薬科学専攻(博士後期)	男	9	7	1	7	0	24	31
		女	4	1	0	2	0	7	
	医療薬学専攻(博士)	男	8	6	2	5	0	21	22
		女	1	0	0	0	0	1	
合計			22	14	3	14	0	53	53

・専任教員に加えフルタイムの研究者と特任教員が3名在職しているが、全員女性である。



資料 E1-2-2 生命科学研究部（薬学系）男女共同参画推進委員会共催の講演会

<p style="text-align: center;">熊本大学拠点形成研究B 主催 生命科学研究部(薬系)男女共同参画推進委員会共催</p> <p style="text-align: center;"><b>特別講演会</b></p> <p style="text-align: center;"><b>創薬を取り巻く現状と 21世紀の創薬パラダイム</b></p> <p style="text-align: center;">三菱化学（株）開発研究所 杉尾成俊博士</p> <p style="text-align: center;">日時：2012年11月30日（金）16:00～17:30</p>	<p style="text-align: center;">熊本大学拠点形成研究B 主催 薬学系男女共同参画推進委員会 共催</p> <p style="text-align: center;"><b>特別講演会</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>演題：結晶構造解析から迫るヌクレオソーム 構造変換とエピジェネティクスの生物学</p> <p>講師：千田 俊哉 博士 (独)産業技術総合研究所 主任研究員</p> <p>日時：12月2日(金) 16:00 - 17:30</p> <p>場所：大江総合研究棟2F 多目的ホール</p> </div>
<p style="text-align: center;">熊本大学拠点形成研究B 主催 薬学系男女共同参画推進委員会 共催</p> <p style="text-align: center;"><b>特別講演会</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>演題：脳神経の発生を制御する膜受容体と 細胞外リガンドの構造生物学</p> <p>講師：禾 晃和 博士 横浜市立大学</p> <p>日時：11月18日(金) 16:00 - 17:30</p> <p>場所：宮本記念館コンベンションホール</p> </div>	<p style="text-align: center;">熊本大学拠点形成研究B 主催 生命科学研究部(薬系)男女共同参画推進委員会共催</p> <p style="text-align: center;"><b>特別講演会</b></p> <p style="text-align: center;"><b>低酸素誘導因子 HIF 活性を有する 細胞のイメージング・ターゲティング</b></p> <p style="text-align: center;">近藤科江教授（東工大・院・生命理工）</p> <p>日時：2011年1月21日（金）14:00～16:00</p> <p>場所：熊本大学薬学部宮本記念館コンベンションホール</p>

(出典：薬学部事務関係資料)

資料 E1-2-3 日本薬学会第134年会組織委員会企画シンポジウム

3月30日 9:00～11:00 熊本大学黒髪地区

薬学系女性の研究キャリア形成（2）～決断のときあなたは～

No.	講演時間	講演題目	講演者所属	講演者名
	9:00～9:03	オーガナイザー挨拶	熊本大院薬	
1	9:03～9:15	リレー講演 「私のキャリアー決断のとき」①	東大医科研	
2	9:15～9:27	リレー講演 「私のキャリアー決断のとき」②	東北大院薬	
3	9:27～9:39	リレー講演 「私のキャリアー決断のとき」③	金沢大院薬	
4	9:39～9:51	リレー講演 「私のキャリアー決断のとき」④	鳥居薬品	
5	9:51～10:03	リレー講演 「私のキャリアー決断のとき」⑤	岡山大院薬	
6	10:03～10:15	リレー講演 「私のキャリアー決断のとき」⑥	理研	
7	10:15～10:27	パートナーのキャリアー決断のとき	熊本大院薬	
	10:27～10:45	全体での質疑応答		
	10:45～11:00	まとめ	北大院農	

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

女性研究者の積極的採用、役職への採用・参加、育児・介護休暇の取得、男女共同参画を支援するセミナー・講演会の開催など、計画に基づいた活動が実施されている。

観点 活動の実績及び学生・研究者の満足度から判断して、活動の成果があがっているか。
---

(観点に係る状況)

薬学部・薬学教育部に女性教授が5名(平成26年5月現在、第1期中期目標終了時と比較すると1名(増加))いることは、女子学生、女子院生の割合がそれぞれ48%、33%と他の理系学部・大学院に比べて多く在学している学部学生・大学院生にとってロールモデルとしての役割を果たし、学生・院生の将来像の多様化に貢献していると思われる(全く女性教授がない他大学薬学部では、女性は教授になれないのだと思われても仕方がない)。

育児・介護支援についても、病児保育の支援が全学での事業として行われており、男女共同参画社会形成に貢献している。

大江キャンパス内で開催されるセミナーの一部を生命科学研究所(薬学系)男女共同参画推進委員会共催とすることにより、活躍する女性研究者をより身近に知ることができ、また、他の機関の女性研究者の状況を知ることができ、女性研究者養成に役立っていると思われる。

日本薬学会第134年会組織委員会企画シンポジウムで「薬学系女性の研究キャリア形成(2)～決断のときあなたは～」を企画実施(再掲資料E1-2-3)し、約70名の参加で、盛会・好評を得た(参加者からの聞き取り)ことは、日本薬学会における男女共同参画推進に対する意識改革に一定貢献したと考える。

女子中高生理系進路選択支援プログラムにおいて、薬学部女子学生・薬学教育部女子院生・女性教員が生き生きと学生生活や研究状況を紹介し、好評を得ていること(アンケートで90数%が有意義であったと回答)は、女子中高生に夢を与え、理系選択・薬学部選択に貢献している。(中期計画番号：K73)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

女性教授の増加、育児・介護支援、男女共同に関わるセミナー・シンポジウム等の開催等、活動の実績があることから、期待される水準にあると判断される。

観点 改善のための取組が行われているか。
----------------------

(観点に係る状況)

薬学教育部の女性教授は平成26年5月現在5名で、第1期中期目標終了時と比較すると1名増加している。

文部科学省の平成25年度科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(拠点型)」に本学の応募事業が採択され、大学コンソーシアム熊本に加盟する機関と連携して、これまで熊本大学で推進してきた女性研究者支援の取組みを熊本県内に普及する活動も開始した。

全学で開催された男女共同参画推進や女性研究者支援に関するフォーラムやシンポジ

ウムへの参加呼びかけを薬学部・大学院薬学教育部内でも行うことにより、黒髪地区での開催という地理的に不利な状況にありながら、参加者が、特に平成 25 年度に増加した（毎回 4～5 名の参加、これまでは 1～2 名）。

日本薬学会年会では 2 回目の男女共同参画に関わるシンポジウムを開催した（1 回目は大学としても男女共同参画の活動が活発な北海道大学での年会で開催）。これをきっかけに、女子学生・院生の多い薬学系においても女性研究者・教員の割合は女子院生の割合と比較すると非常に少ないにも拘らず、男女共同参画関連の事業はほとんどない日本薬学会が少し取組みを検討するようになることが期待できる。

本年度は、生命科学研究部（薬学系）男女共同参画推進委員会共催の講演会として、薬学部・大学院薬学教育部出身の頑張っている若手女性研究者を講師に計画しているので、より身近なロールモデルとして効果的だと考える。

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

女性教授の増加、「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」への採択、黒髪地区で開催される男女共同参画推進に関するフォーラム・シンポジウムへの大江地区教員の参加増、日本薬学会での男女共同参画に関わるシンポジウムのオーガナイズ等の取組から、期待される水準にあると判断される。

#### 4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目 I 目的に照らして、男女共同参画に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること

(記述及び理由)

改善、向上している

第1期中期目標終了時以前は、人事でいい人材であれば、男女関係なく採用するということが実施されてきた以外は、全学的な男女共同参画推進に関わる事業への参加も少なく、薬学部・大学院薬学教育部独自の取組みも少なかったが、特に平成24年度以降、目標・計画である(1)女性研究者の積極的な採用。(2)育児・介護休暇の支援。(3)セミナーの開催。(4)女性の参画の拡大について、それぞれ、全学的な男女共同参画推進に関わる事業への参加や薬学部・薬学教育部独自の取組みも着実に増えている。目に見える形での成果もセミナー参加者の増加、全学的事業に採択され支援される件数の増加に現れている。

今後は、女性教員の採用目標の設定や男性教職員のライフイベントへの積極的参加の出来やすい環境作りが課題となる。

VI 管理運営に関する自己評価書

## 1. 管理運営の目的と特徴

薬学教育部の管理運営の目的は、教育、研究、社会貢献、国際化、男女共同参画等に関する意思決定を戦略的かつ自律的に行い、保有する人材、施設・設備、資金を効果的に活用して決定したことを確実かつ迅速に執行することである。

薬学教育部では管理運営組織として運営会議及び薬学教育部教授会を設置し、教育部長のリーダーシップにより機動的、戦略的な教育部運営を推進する体制を整備している。

本教育部の管理運営の特徴は以下のとおりである。

- ・ 2年制の博士前期課程、3年制の博士後期課程、4年制の博士課程という、修業年限の異なる3課程の教育を並行して行い、かつ、博士後期課程で実務実習等の手配が必要となる場合がある等、教務面での配慮が必要であることが、管理運営の特徴である。
- ・ 長い歴史をもつ薬用植物園の維持管理を行うこと。
- ・ 学生の男女比がほぼ同数であり、男女共同参画が重要であること。

教育部の活動の総合的な状況に関する自己点検・評価については、平成19年度の組織評価で自己点検・評価（組織評価）を行い、その評価結果については広く社会に公表した。

平成21年度には、一般社団法人薬学教育評価機構による評価を実施し、評価結果を公表している。

今後も自己点検評価の結果をフィードバックさせ、改善に結びつけていくことが課題である。

### [想定する関係者とその期待]

受験生及び在学生からは、創薬・育薬を担う研究者養成に加えて、教員からは、研究及び教育に専念できる環境及び安定した管理運営経費の提供が期待されている。また、卒業生や学生の就職先企業からも、継続して、優秀な人材の輩出が期待されている。

地域社会に対しては、薬用資源エコフロンティアセンター（旧薬用植物園）及び熊薬ミュージアムを一般公開することにより、教育・研究の広報に努めている。

このような多くの関係者の期待に応え、教育・研究を推進させるために、日々、管理運営の充実に力を入れている。

## 2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

### 【優れた点】

- ・ 管理運営のための組織として薬学教育部教授会、運営会議、全学委員会、薬学教育部内委員会が組織されよく機能している。
- ・ 教職員からの意見要望等については、適切に対応されており、学生からの大学への意見要望等についても管理運営に反映されている。
- ・ ISO14001 が本学で初めて導入され、大江キャンパスの各部署において、環境マニュアルに則って、教職員と学生が研究・教育内容等の向上に取り組んでいる。
- ・ 講習、研修により教職員の管理運営に関する資質向上が図られている。
- ・ 本学のウェブサイトにおいて、教育研究活動等については周知しており、熊薬ものがたりやニュースレター等の刊行物の発信などにより、教育情報の公表を適切に行っている。
- ・ ICT 環境への配慮及び整備が十分になされている。

### 【改善を要する点】

- ・ 薬学系の事務組織が大江地区（薬学系事務）と本荘地区に分離しており、現在、会計業務を2地区で実施している。このことが、業務上不効率な面がある。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること

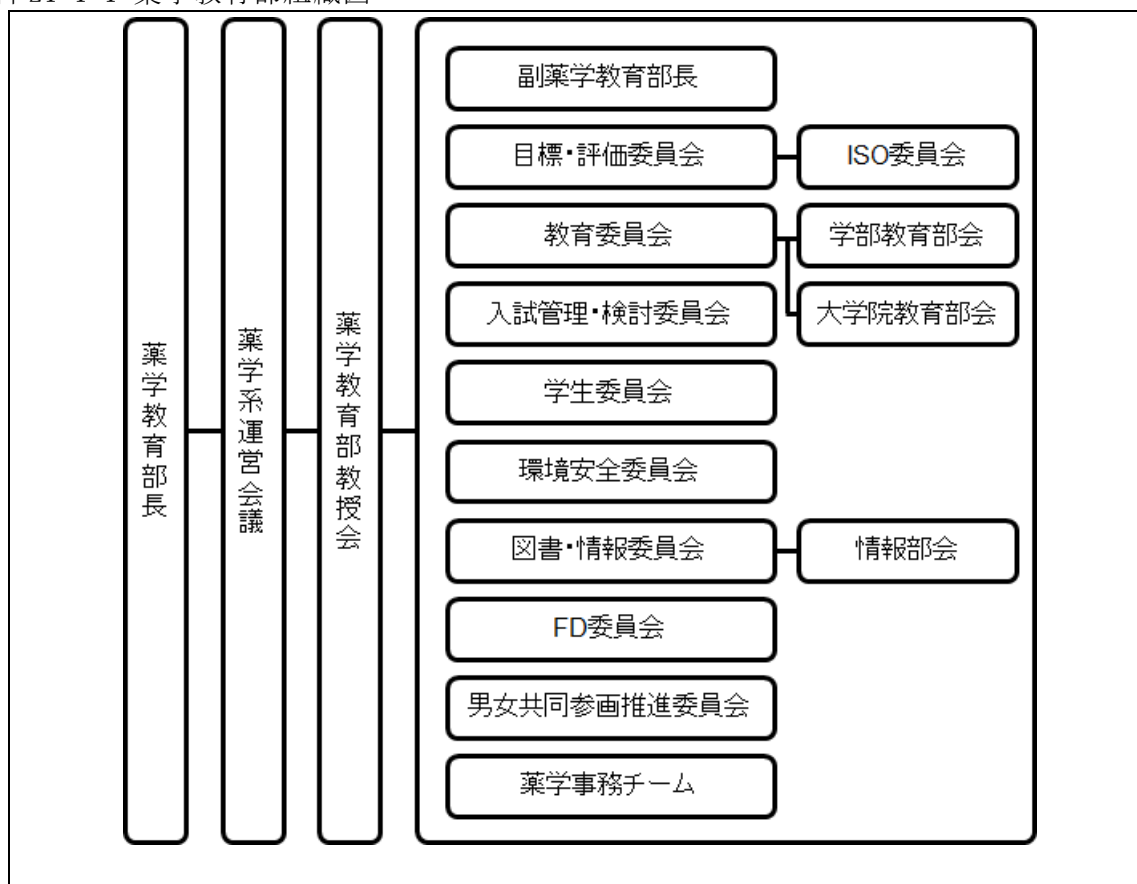
観点 管理運営のための組織及び事務組織が、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

(観点到に係る状況)

薬学教育部では教授会を組織し、管理運営のための重要事項の協議を行う。また、教育部長、副教育部長らと運営会議を組織し、薬学教育部の管理運営に関する事項を審議する。薬学部・薬学教育部の構成員は、全学委員会及び教育部内委員会を設置し、教育部の運営を支援する体制を整備している(資料 Z1-1-1)。なお、大江地区と本荘地区の団地が離れた2地区で会計業務を実施していることが、書類送付、調整業務等不効率な面がある(資料 Z1-1-2)。

また、衛生管理者による職場巡回を月1回実施しており、指摘を受けた改善事項については適正に改善を行い、安全衛生委員会に報告している。なお、危機管理に係る組織的対応として、研究費の不正防止については「国立大学法人熊本大学における競争的資金等の管理に関する規則」に基づき実施している。

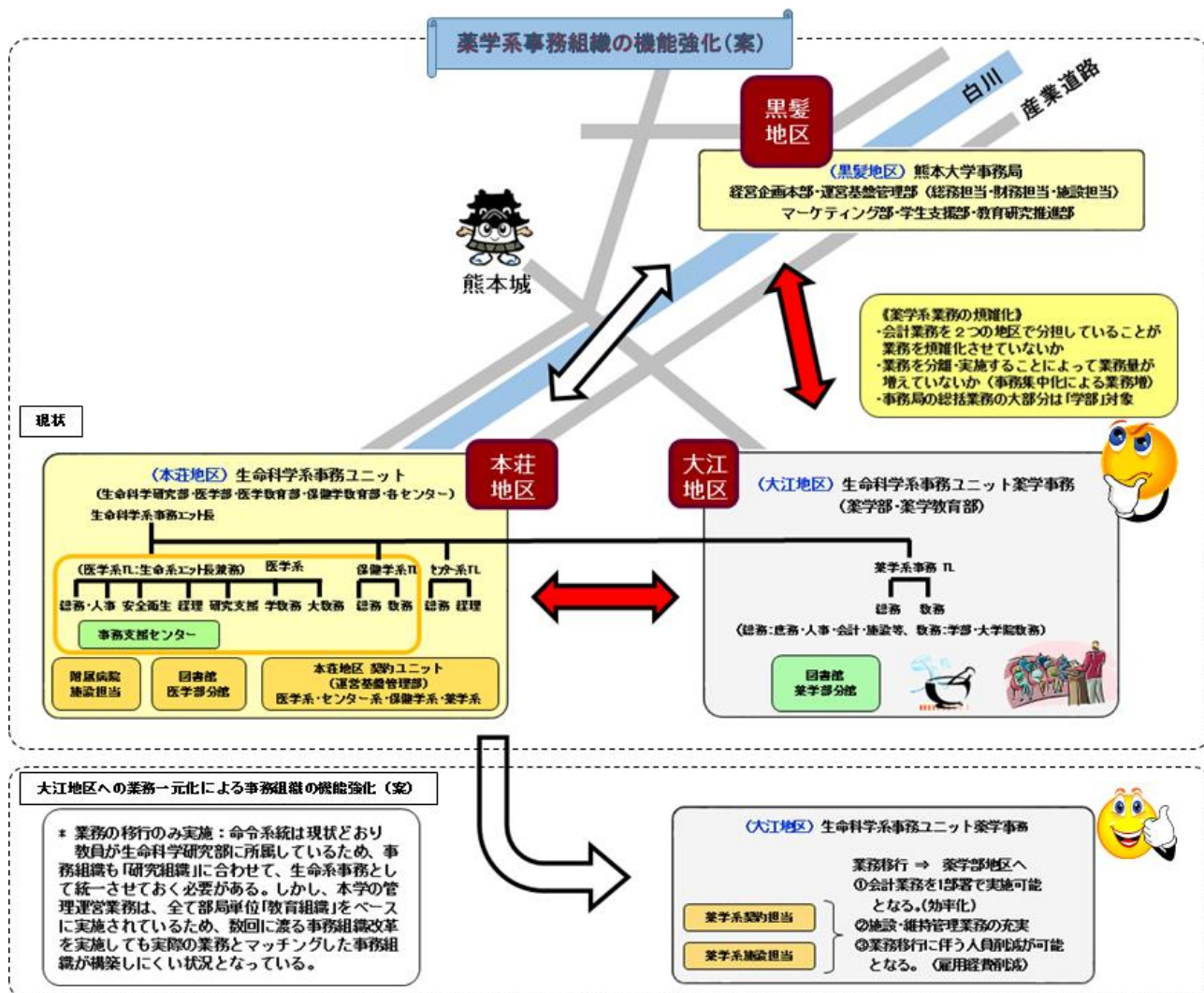
資料 Z1-1-1 薬学教育部組織図



(出典：ISO 部会資料、薬学教育部事務関係資料)



資料 Z1-1-2 薬学系事務組織、薬学部位置図（大江地区）

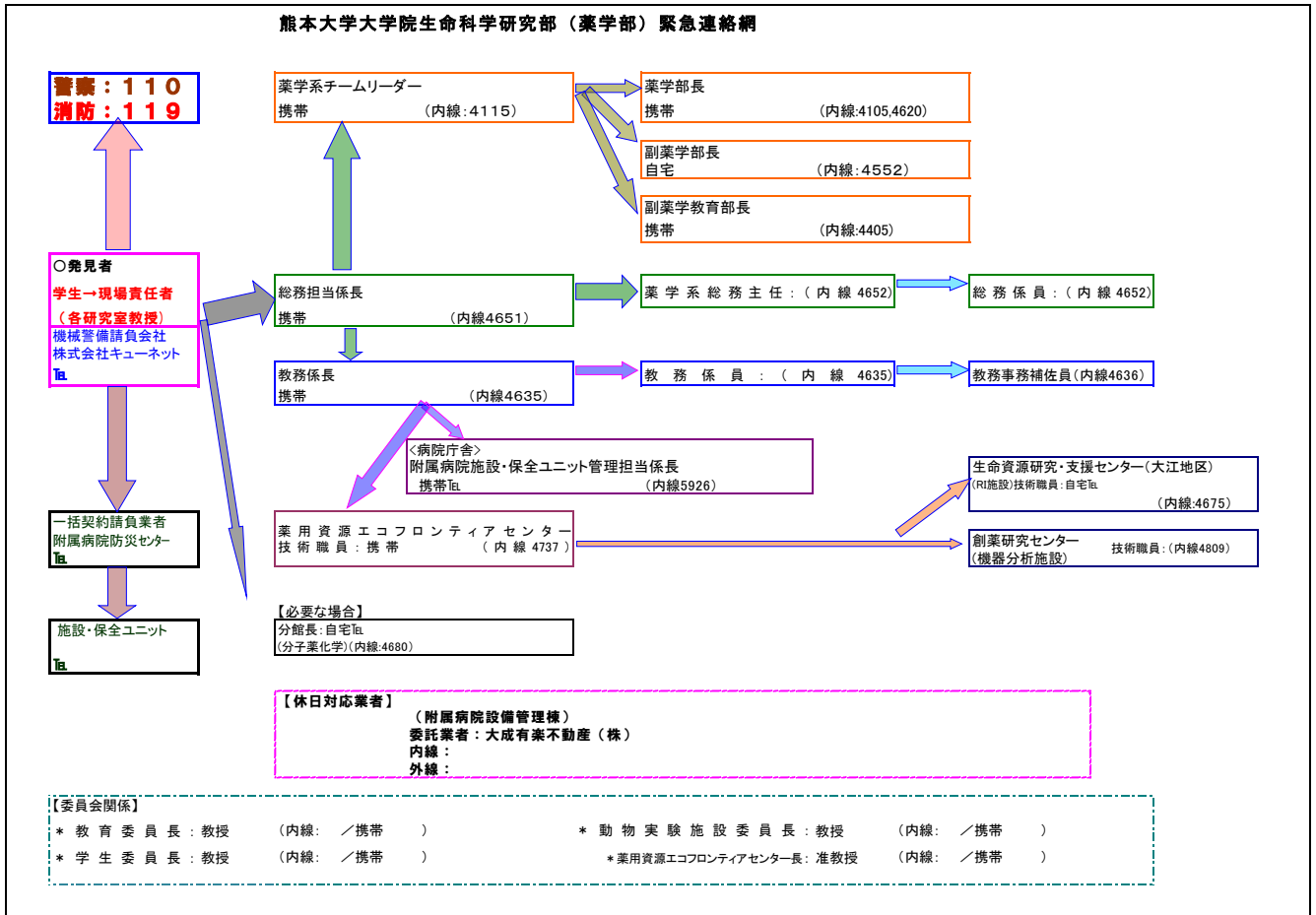


(出典：薬学部・薬学教育部運営会議資料)

薬学系の事務組織が薬学教育部の教授会の事務支援を行っている。

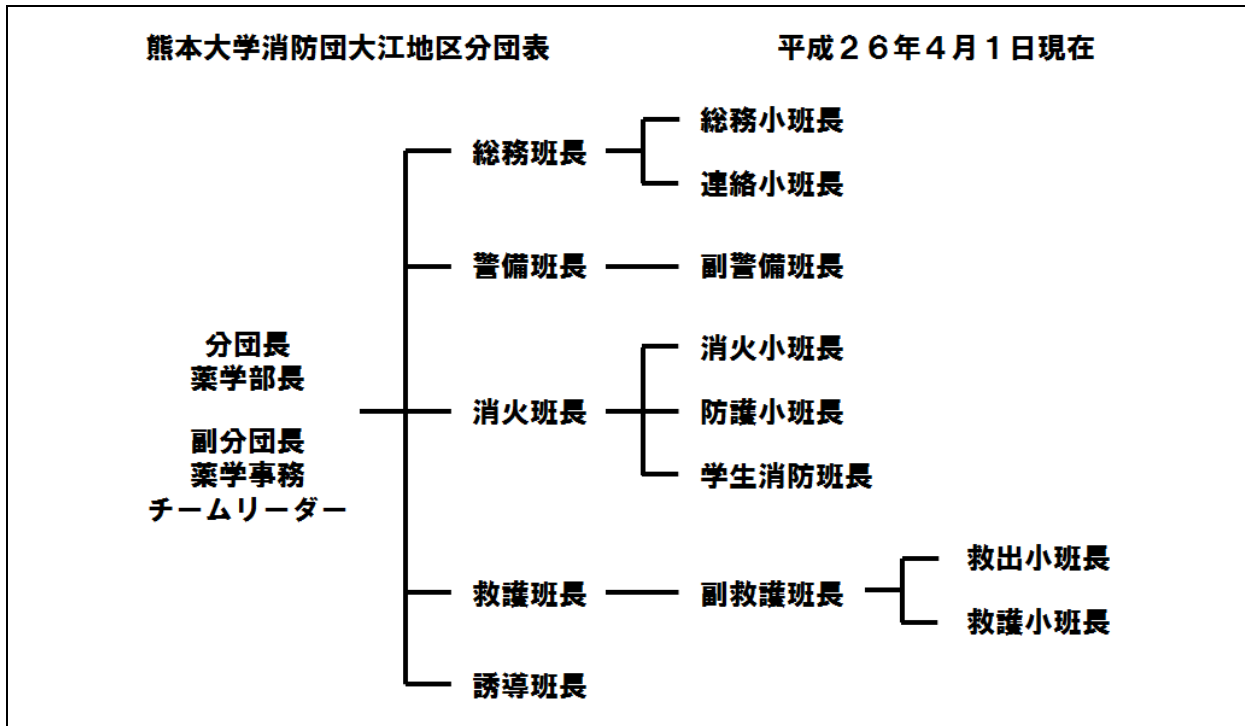
また、危機管理等に係る体制については、平日及び休日等の緊急連絡網（資料 Z1-1-3）を整備し、大江地区の消防団（資料 Z1-1-4）を組織しており、年に1回、消防署立会いの基に消防訓練を実施している。（中期計画番号 K92）

資料 Z1-1-3 災害発生時における緊急連絡網



(出典: ISO 部会資料、薬学教育部事務関係資料)

資料 Z1-1-4 熊本大学消防団大江地区分団表



(出典: ISO 部会資料、薬学教育部事務関係資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

薬学教育部では教授会、運営会議、全学委員会及び教育部内委員会を設置しており、機動的な教育部運営を推進する体制が整っている。事務組織も担当する委員会と連携し、管理運営及び教育研究等の支援を行っている。よって、管理運営のための組織は、教育部の目的の達成に向けて支援するという任務を果たす上で、適切な規模と機能を持っている。ただし、大江地区と本荘地区の2地区で会計業務を実施していることが不効率な面がある。

観点 構成員(教職員及び学生)、その他学外関係者の管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

月1回の教授会(定例)(講師以上)の他に、教授会終了後に教授懇談会、教員会議(助教も出席)を適宜開催することにより、構成員の管理運営に関する意見やニーズを把握し、適切な形で管理運営に反映させている。たとえば、薬学部の将来構想である附属3センターの見直しについて、教員会議でも説明を行っている。

また、学長と学生代表との懇談会が毎年開催され、薬学部学生も参加して意見交換を行うことにより学生の声を聴取し、管理運営に反映させている。意見・改善状況等については、ウェブサイトで公開し、学生生活の充実を図っている(資料 Z1-2-1)。

なお、学外については、薬学実務実習を実施いただいている調剤薬局や病院薬剤部の先生方と、年に1回実務実習成果発表会及び実務実習交流会を開催し、情報交換を行い、薬学部の教育改善や管理運営に適切に反映させている。

資料 Z1-2-1 学長と学生代表との懇談会での薬学部学生からの要望事項

年度	事項	要望の内容	改善状況(大学からの回答)	薬学部での対応状況
22	教養教育	教養試験の期間を見直して欲しい。	教養教育の試験は、学生の過重負担を避けること、教室の収容能力を超える教室不足を避けるために2週間の試験期間を設定しています。時間割設定に際しては、①通常の授業の曜日時限で行う、②必修外国語科目は第1週で行う、③受講者の多い科目は採点時間を考慮し第1週で行う、④前記以外の科目は第2週で行う。などのルールに基づき試験時間割が設定されています。全体的にバランスを考慮しているものですが、結果として、意見にあるような1週目だけの学生さんがいる状況に対しては、やむを得ないものと思います。ご理解願います。	
22	課外活動施設	部室、体育館及びグラウンドの整備をして欲しい。	それぞれの整備内容や整備理由を詳細に聞かせていただき、緊急性、必要性を勘案して対応します。	H26.7.1. 薬学部体育館改修工事完了(部室の充実)
22	屋内施設	薬学部保健センターを設置して欲しい。	要員の配置が必要なため、最近の財政事情では要望に応えることは厳しい状況であります。	H25.4.1. 週1回(半日)保健センターの看護師による「健康相談室」を開設 H26.5.1. 月2回臨床心理士による「心とからだの悩みなんでも相談室」を開設
23	屋内施設環境	保健室を設置してほしい。	本荘地区、大江・九品寺地区では、軽度のケガ等の処置や学生からの健康相談等に対応するため、健康相談室を保健学科1階に設置し、看護師1名を	

			配置しているので利用願います。なお、現在の場所で良いか、利用状況等により保健センター運営委員会で検討いたします。	
23	ATM	ATMを設置してほしい	学生・教職員利用者数及び近隣地域のATM設置状況（コンビニ等含む）更に、ATM機械・施設使用料・人件費・維持管理費等が必要となるため、ATM設置は難しい状況であります。	薬学部の近隣にコンビニ、銀行、郵便局があります。
23	キャンパス移動	黒髪キャンパスから離れているため移動の手段について検討してほしい（特に雨の日）	本荘・大江・九品寺キャンパスの学部は、キャンパス間の移動時間を考えて、時間割を設定しています。今後も、しっかり配慮するようにいたします。	定期的な学園バスが運行できないか。または、路線バスの開設が要望できないか検討の余地があります。
24	健康診断	健康診断に「歯の検診」項目も追加してほしい。	学生の健康診断は、学校保健安全法に基づき実施しています。新たに検診項目を追加した場合は、予算・人・時間の確保が必要であり、現在の所難しい状況にあります。	
24	福利厚生等	生協の価格をもう少し安くしてほしい（教科書等）	現在、熊本大学生生活協同組合では、教科書等については、10%の値引きを行っており、また、食堂についてもミールカード、ICポイント制カードを発行しサポートを行っているところです。	
24	バリアフリー	バリアフリーをもっと浸透させるべき	ユニバーサルデザインを目指し、スロープ設置、多目的トイレ、段差の解消を進めています。今後もユニバーサルデザインを推進していきます。	薬学部には古い建物が多いので、バリアフリー化は遅れている状況です。
24	駐輪場等	駐輪スペースが狭い	現在、黒髪キャンパス交通計画において、既存駐輪場や新たな駐輪場設置について全体的に見直しをしています。駐輪場屋根については、見直し後に優先度を勘案し設置していく予定です。	建物に近い駐輪場は満車であるが、離れている駐輪場は空いているので、調査する必要があります。
25	カリキュラム	他学部との共同実習・実験の開催	複数学部をまとめて開講する実習・実験科目は、実験室等の収容人員および担当教員の取り纏めおよび現在の科目との整合性の関係で共同での開催は、難しいのが現状です。	
25	グラウンド	薬学部グラウンドの整備および施設の充実〔部室、物置の設置〕	薬学部グラウンドの状況を見て、整備が必要な場合は予算要求を行い、整備を行います。また、部室等は、薬学部体育館の改修に伴い整備を予定しています。	グラウンドを薬学部単独で維持管理するには限界がある。医学部地区の学生も使用しているので、生命系全体で維持管理を考えたいと思います。
25	交流	他学部との交流の場を設けて欲しい。〔ソフト面〕	現行では、課外活動において、体育会幹事会主催（月例）で各種イベントが実施されていますが、これと同様に、他学部との交流の機会は学生さんの企画による実施をお願いしたいと思います。	薬学部地区は離れているので、現状では、課外活動での交流しかならないのではないのでしょうか。
25	図書館	薬学部図書分館の施設の充実（個別スペースの設置等）	図書館が手狭なことは否めませんが、既存の書籍や書架等の配置を工夫する等して、個人用閲覧機の増設について検討します。	個別閲覧機の増設を実施しました。

(出典：熊本大学ウェブサイト、薬学教育部事務関係資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

教員会議を適宜開催することにより、教職員からの意見要望等について適切に対応されており、学生からの大学への意見要望等についても管理運営に反映させている。

観点 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上のための取り組みが組織的に行われているか。

(観点到に係る状況)

大学において開催される各種講習会及び研修会等に、事務職員を参加させ資質の向上を図っている(資料 Z1-3-1)。なお、薬学部・薬学教育部では平成 13 年度に環境マネジメントシステム ISO14001 を本学で初めて導入(資料 Z1-3-2)し、以降、維持継続して環境に配慮したエコ・キャンパスの発展充実を目的とした学生の教育と教職員の資質向上のための取組を行っている。平成 25 年度から本教育部の内部質保証を推進することを、環境目的及び目標に盛り込み、この目的・目標を達成するために、大江キャンパスの各部署において、教職員と学生が一致して研究・教育内容及び研究・教育環境の向上に取り組んでいる(資料 Z1-3-3、Z1-3-4)。(中期計画番号 K72)

また、以下の研修以外では、情報セキュリティ研修、ハラスメント対応研修、科研費獲得研修及び人事評価者研修等に出席している。

資料 Z1-3-1 薬学事務職員が、平成 22 年度～25 年度に受講した主な研修等

年 度	研 修 内 容
	(定員内職員6名)
平成22年度	熊本大学メンタルヘルス研修会(管理職員対象)
平成22年度	学務関係職員研修会
平成23年度	共通スキル研修(業務改善研修)・(ロジカルシンキング)
平成23年度	情報システム統一研修(平成23年度第3/四半期)
平成23年度	国立大学附属病院職員若手勉強会参加
平成23年度	熊本大学研究事務研修(実践編)
平成23年度	業務遂行能力向上研修(クレーム対応)
平成23年度	メンタルヘルス研修
平成23年度	チームリーダー級研修
平成23年度	熊本大学会計実務研修
平成24年度	勤務時間に関する研修
平成24年度	熊本大学会計実務研修
平成24年度	熊本大学海外派遣研修(短期派遣コース/Los Angeles)
平成25年度	熊本大学共通スキル育成研修
平成25年度	熊本大学ユニット長・チームリーダー級職員研修
平成25年度	学務系職員研修会
平成25年度	職群固有スキル育成研修「学務系職員研修会」
平成25年度	熊本大学会計実務研修
平成25年度	国立大学法人熊本大学共通スキル育成研修「TOEICテスト対応総合英語」【C】1年受講コース
	* 第一種衛生管理者 4名

(出典：薬学教育部事務関係資料)

## ISO14001 の認証取得の概要

対象場所	熊本大学薬学部・大江キャンパス
認証取得日	2001年9月6日
認証機関	日本検査キューエイ（株）（JICQA）
「環境方針」	熊本大学薬学部環境方針
環境管理事務局	ISO事務局 TEL 096-371-4160

**活動の目的（環境目的）** 環境保全活動を実施できる人材の育成

**環境目標**

- （ヒトを含む）生態系の保全と持続可能社会の構築に関する教育・研究を実施する。
- 毒物・劇物を適切に取り扱う。
- 環境関連法規を遵守する。
- 在学生および卒業生に対し、薬学に関する最新の情報を提供する。
- 教育・研究に関する国内・国際交流を推進する。
- 研究成果および教育効果を積極的に公表する。
- 薬学部の内部質保証を推進する。

**備考** 国内大学としての同認証取得は、国立大学としては、信州大学工学部に続き2番目です。病院等でも認証取得が進んでおり、今後熊薬出身者が活躍する場が増えることが期待されます。

（出典：ISO 部会資料）

## 資料 Z1-3-3 IS014001 事務部環境目的、目標、環境マネジメントプログラム

(R434事務部) 環境目的、目標、環境マネジメントプログラム (EMP)						
部署名 : 生命科学系事務U (薬学事務T) 記入日 : 2014. 5. 21 承認者 : チームリーダー						
	環境目的	環境目標	手段	活動実績	責任者	担当者
1	環境保全活動を実施できる人材の育成	1. 学生に対し、環境保全に関する教育の補助	1. IS014001取得の周知 2. 消防訓練の実施 3. 環境保全に関するポスター等の掲示による周知	掲示板に掲示して周知 平成26年12月実施予定掲示板に掲示して周知	TL	TL 教務
		2. 省エネルギーを励行する	1. 省エネポスターの掲示による周知 2. 勤務時間開始までの消灯 3. 休憩時の消灯 4. コンピュータ関連機器の節電 5. エアコン温度の省エネ設定 6. 体育館、記念館等使用者へ利用時間厳守、節電の徹底を指導 7. 講義室等節電徹底 8. 電気、ガス、水道の使用量の集計、連絡 9. 長期休業日における電気機器のコンセント着脱	掲示板に掲示して周知  毎日、実施  毎日、昼休み時間に実施 省エネモード設定・長期離席時の電源OFF 全学省エネ温度の設定  利用者への指導の徹底  使用後の電源OFFの徹底 各分野へ比較表の送付  年末年始・GW・夏季休業期間に実施	総務	総務 教務
		3. 廃棄物を適切に分別・処理する	1. 資源ゴミのリサイクル 2. 不用物品の分別 3. ゴミの分別	ゴミの分別回収を実施 大型ゴミの回収の実施 11種類の分別ゴミ箱を数カ所に設置	総務	総務
		4. 毒物・劇物を適切に取り扱う	1. 管理(文書、システム入力)の周知 2. 安全管理の調査、安全のチェックの実施 3. 不用試薬等の集計、廃棄時の連絡	通知文書については、その都度全教職員へ周知 放射性物質を主に管理状況を調査 薬品管理システム(YAKUMO)による管理の徹底	総務	総務
		5. 構内清掃を適宜実施する	1. 清掃の実施  2. その他クリーンデーを設け、校内一斉清掃作業等の実施	分野別に構内清掃を実施 事務部は構内及び隣接の周辺域清掃を適宜実施 入部式前、オープンキャンパス前、キャンパスクリーンデーに教職員、学生による構内清掃の実施	総務	総務 教務
		6. 環境関連法規を遵守する	1. リサイクル法、廃掃法等環境関連法規の遵守	関連業務等の実施時に、関連法規を遵守	総務	総務
		7. 薬学部の内部質保証を推進する	1. 各分野から提出されたデータを保存する。	平成24年度分からの資料収集で進行中	総務	教務

(出典: ISO 部会資料)

資料 Z1-3-4 ISO14001 事務部 環境保全活動手順書

W446事務部011～016 環境保全活動手順書				
部署名 : 生命科学系事務U (薬学事務T) 記入日 : 2014. 5. 21 承認者 : チームリーダー				
順序	作業名	作業の方法	主要条件	監視・測定
1	学生に対し、環境保全に関する教育の補助	1. ISO14001を取得していることを掲示板で 学生へ周知 2. 消防訓練を実施し、意識の向上を図る 3. 環境保全に関する情報を学生へ周知	掲示による周知 12月予定 掲示による周知	常時 実施要領 常時
	省エネルギーを励行する	1. 省エネポスターの掲示による周知 2. 勤務時間開始までは消灯することにより、 節電を図る 3. 休憩時 (12:00～13:00) 消灯することにより節電を図る 4. コンピュータ関連機器について、省エネモード設定や長時間離席時に電源をOFFにし、節電を図る 5. エアコン温度を省エネ設定することを徹底 6. 体育館、記念館等使用者への利用時間厳守、節電を図るための掲示による徹底を行う 7. 講義室等の節電を図るための掲示による 徹底を行う 8. 電気、ガス、水道の使用量の集計、連絡 9. 長期休業期間に不必要なコンセントを抜くことで、節電等省エネを図る	掲示による周知 消灯、節電の徹底 意識の向上 機器の電源OFFの徹底 省エネ意識の向上 使用者への周知 周知の掲示 各分野へ省エネの啓蒙 年末年始・GW夏季休業期間	常時 最後に電源OFFの確認 毎日 常時 省エネ温度を設定 戸締り時の電源OFF確認 使用後の電源OFFの確認 月毎の使用量確認 省エネ効果の確認 長期休業期間
	廃棄物を適切に分別・処理する	1. 資源ゴミのリサイクルの徹底 2. 不要物品の適切な分類・処理を行う 3. ゴミの分別の徹底 ・ゴミ等の廃棄にあたっては、ボックスの分別や廃棄場所の分別を徹底	エコ教育GPと連携を図り意識の向上を図る	定期的に回収業者が収集
	毒物・劇物を適切に取り扱う	1. 管理 (文書、システム入力) の周知を徹底する (手引き書 学生へ配布。講義実施など) 2. 安全衛生管理員による安全管理の調査、安全のチェック 3. 不要試薬等の集計、廃棄時の連絡	取扱いの周知 システム入力 安全衛生管理員による点検 システム入力	文書等の周知 管理の徹底 システムによる管理
	構内清掃を適宜実施する	1. 分野別に構内清掃を実施。 事務部は、構内及び隣接の周辺域清掃を実施する 2. その他クリーンデーを設け、年3回の校内一斉清掃作業等を行う	環境美化意識の涵養 4、8、11月実施	作業実施の確認 全員参加による清掃
	環境関連法規を遵守する	1. リサイクル法、廃掃法等環境関連法規に基づき、適切な業務の遂行を行う	法令に基づく適正な業務処理	法令遵守

(出典 : ISO 部会資料)



(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

大学としては、管理運営に係る講習会や研修を実施し、教職員においては、それぞれに担当するこれらの講習会及び研修会に出席することにより、管理運営に関する資質の向上を図ることができ、その成果を実務に活かしている。また、ISO14001の認定を受けているので、環境マニュアルに従って、教職員と学生が一致して研究・教育内容及び研究・教育環境の向上に取り組んでいる。

分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

観点 活動の総合的な状況について、根拠となる資料・データ等に基づいて、自己点検・評価が行われているか。

(観点に係る状況)

全学には大学評価会議等が設置され、本教育部の教員も委員として参加している。現在、「熊本大学における教員の個人活動評価指針」及び「熊本大学における教員の個人活動評価実施要項」に基づき、資料データを収集し、学部等の活動の総合的な状況についての自己点検・評価（組織評価）を行っている。なお、自己点検・評価は全学統一的に実施されている。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

全学の大学評価会議等にも本教育部から委員を出し、客観的な評価が実施されるように体制の整備を行っている。また、本教育部では目標・評価委員会を設置し、自己点検のためのPDCAサイクルが実行される体制が構築されている。

観点 活動の状況について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による評価が行われているか。

(観点に係る状況)

本教育部では平成13年9月に環境ISO14001を認証取得し、環境教育及び環境に配慮した教育研究活動の推進に取り組んでおり、毎年1回外部者の評価（審査）が行われている（資料Z2-2-1）。（中期目標計画K82）

## 資料 Z2-2-1 ISO14001 審査計画書

申請受理番号: JE0342			
<b>EMS 審査計画書</b>		日本検査キューエイ株式会社 (JICQA)	
第 9 回 サーベイランス審査 □変更審査 □その他審査( )		適用規格	ISO 14001:2004/JIS Q 14001:2004
組織 / 事業所	熊本大学薬学部 (熊本県熊本市中央区大江本町5-1)	管理責任者	三隅 将吾
登録範囲に含まれる その他事業所	なし		
登録範囲	熊本大学薬学部大江キャンパスにおける教育・研究に係わる事業活動		
業務(製造)プロセス	教務委員会でカリキュラム案作成→教授会で審議→学部長決定→カリキュラム実行(各教授)		
審査日	審査チーム	A チーム(リーダー)	B チーム
	審査員氏名	市川 雄一 *	金子 恒久
7/3 (木)	サイト	大江キャンパス	
	09:00~09:30	開始会議	
	09:30~09:50	薬学部長者面談	生体機能分子合成学 機能分子構造解析学 分子薬化学 天然薬物学
	09:50~12:00	管理責任者/EMS 事務局/事務部	
	サイト	大江キャンパス	
	13:00~13:40	機器分析施設、創薬研究センター	薬物活性学
	13:40~14:10	サイトツアー(外周・廃棄物置場含む)	(サイトツアー/実験室等サンプリング含む)
	14:10~15:00	審査チーム日毎会議	
	15:00~15:30	終了会議	
	備考 1: 審査目的は、審査種類(初回、サーベイ、更新、変更)の目的に加え、以下の共通目的を含みます。 ・審査基準への適合の決定、マネジメントシステムの有効性の評価、及び改善の機会の特定 ・法令、規制及び契約上の要求事項を満たすための能力の評価		
備考 2: 審査基準は適用規格及び組織が規定した文書です。			
備考 3: 認証期間を通じての各審査対象プロセス/部署については、別添の「審査プログラム」に示します。			
備考 4: 氏名に*印を付した審査要員は、貴組織の認定範囲分類の専門性を有しています。 認定範囲分類(第 1 レベル文言・コード[専門性を確保すべき最下位レベルコード]): 教育 37			
備考 5: 本審査計画書の受領日から 7 日以内にご連絡がない場合、本計画はご了承いただいたものとして、審査準備を進めさせていただきます。それ以降に変更が必要となった場合は、本計画書の改訂版を発行することにより対応いたします。			
審査計画書の補足説明:			
1. 「開始会議」は審査の進め方を説明し、「終了会議」は審査の結論を伝える会議です。経営者及び/又は管理責任者、事務局並びに審査対象部門の代表者のご出席をお願いします。			
2. 「組織との日毎会議」は、審査チームと当日の審査対象部署の方々との会議です。			
3. 審査の状況により、スケジュールが変更になることがあります。			
4. 審査チームは、JICQA 審査登録規則に従って、貴組織の情報に関して機密を保持します。			
5. 審査報告書は現地審査終了日から 30 日以内を目安に貴組織に提出します。ただし、妥当な理由があり、貴組織のご了解が得られた場合は、これを延長できるものとします。			
作成日: 2014 年 06 月 02 日	作成者: 市川 雄一	承認者: 伊藤 茂雄	印
識別記号: 二			

(出典: ISO 部会資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

薬学教育部では目標・評価委員会を設置し、その委員会の内部に ISO 部会を設置しており、外部審査委員による評価を受け、自己点検のための PDCA サイクルが実行される体制が構築されている。

観点 評価結果がフィードバックされ、改善のための取り組みが行われているか。

(観点に係る状況)

評価結果のフィードバックについては、目標・評価委員会を中心とした関連委員会を中心に行うこととしている。なかでも、ISO 部会を中心に内部質保証を推進することが目標としてあげられ、教授、准教授、講師、助教らがオープニングミーティング→内部監査→クロージングミーティング→外部監査のステップにより評価の内容がフィードバックされる体制が整えられている(資料 Z2-3-1)。(中期目標計画 K82)

#### 資料 Z2-3-1 内部監査 (マネジメントレビュー)

2014 年度内部監査(マネジメントレビュー)

##### マネジメントレビュー

熊本大学薬学部(熊薬)では、昨年度から若手教員が主催する次世代創薬研究者養成塾が新たに企画され、若手研究者自らが学部の垣根を越えて異分野交流を積極的に進めている。また、一昨年から、文部科学省の平成 24 年度博士課程教育リーディングプログラム[複合領域型(生命健康)]に採択され、グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO が展開されている。熊薬の将来は、これから伸びていく若い学生の双肩にかかっており、学生への質の高い教育は熊薬の発展に極めて重要であることは言うまでもありません。このような中、熊薬では平成 13 年 9 月に国際規格の環境マネジメントシステム ISO14001 の認証を取得し、「環境に配慮する薬学人の育成」にも真摯に取り組んでいます。この成果が認められ、昨年 2 月、ISO14001 マネジメントシステム永年登録表彰を頂くことができました。認証取得後約 12 年が経過し、継続によるマンネリ化も危惧されましたが、本年度の内部審査が滞りなく終了しましたことは、誠に喜ばしく感慨深いものがあります。

熊薬の環境目標は、大学本来の目的である教育・研究に主眼を置いており、本年度の内部監査では、以下の 5 点について重点的に監査を行いました。(1) 本年 5 月に改訂した環境マニュアル 17 版及び環境マネジメントシステム規定書 15 版に準拠した手順書の作成の確認、(2) 手順書の不備の有無、(3) 手順書に沿った運用・記録の確認、(4) 維持管理目標の手順書の作成とその適切な管理・運用・記録の確認、(5) 各分野での環境側面の抽出の確認。

その結果、環境目標に対し、それぞれ手順書が作成され、有効に維持・運用されており、達成状況は概ね良好と思われま。環境目標達成のために部署毎に積極的な取り組みが行われていますが、一昨年度より、薬学部全体の新たな環境目標として、「薬学部内部質保証を推進する」を掲げ、本年度より、各種評価資料の収集とその確認作業を行いました。今後も環境マネジメントシステムを定期的に見直しなが継続的な改善を図る必要があると思われま(1, 2, 3)。また、平成 25 年度の電気使用量は前年度比 6%増でしたが、過去 5 年間で最も使用量の多かった平成 23 年度よりは少ない使用量に収まりました。全国的に電力不足状態が続いている状態である上に、消費税増税による電気料金の増額も踏まえて、5 月 29 日に行われた内部監査クロージングミーティングでは、省エネを心掛けるよう啓発しました。複写機等使用量は過去 5 年間で最も少なかった前年度とほぼ同程度(4%増)であり、維持管理目標は達成していると考えま(4)。環境側面の抽出に関しても、各部署での抽出作業が行われま(5)。なお、軽微な指摘事項がみられまましたが、直ちに見直し・修正が行われま。

第 9 回サーベイランス審査を迎えるにあたり、環境管理責任者をはじめ環境推進責任者や環境推進委員の地道な努力のおかげで、環境 ISO 活動が着実に実施されていますが、マンネリ化を起こさないよう、関係各位の更なる自覚と研鑽を切にお願いする次第です。

熊薬は、学生教育や生涯教育及び研究活動に真摯に取り組み、積極的に情報発信を行い、地球規模での環境保全という課題を常に念頭に置いた優秀な「環境に配慮する薬学人の育成」に努めるとともに、緑豊かな熊薬の維持・発展を目指したエコ・キャンパスの充実を通じて地域・国際社会に貢献する薬学人を養成するために、鋭意努力する所存です。

2014 年 6 月 6 日  
薬学部長 大塚 雅巳

大塚 雅巳

(出典：熊本大学ウェブサイト)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

内部監査マネージメントレビュー等をもって、外部審査を受ける体制がとられ、最終的に外部審委員による総評（関係者以外部外秘）を直接受け、評価の内容がフィードバックされる体制が整えられている。

分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。（教育情報の公表）

観点 目的（学士課程であれば学部、学科または課程ごと、大学院であれば研究科または専攻等ごとを含む。）が適切に公表されるとともに、構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

(観点に係る状況)

目的については、ウェブサイトや入試関係資料等により適切に公表し、構成員に周知している（資料 Z3-1-1）。（中期計画番号 K84）

資料 Z3-1-1 薬学教育部の目的

薬学教育部は「創薬・生命薬科学専攻」及び「医療薬学専攻」からなり、学士課程教育で培われた基礎薬科学、生命科学、医療系薬学および衛生・社会系薬学の素養を基盤にして、各専門分野で自立し、かつ指導性を発揮できる、いわゆる高度な薬の専門家および生命科学者の育成を目指しています。本教育部「創薬・生命薬科学専攻」では、医薬品創製の現場で主導的役割を果たすゲノム創薬と基盤的創薬の研究者・技術者の育成、先端的な生命科学分野および環境科学分野の研究者・技術者の育成を目標としています。一方、本教育部「医療薬学専攻」では、臨床の現場で薬の本質を深く理解した医療の担い手として医薬品の適正使用に貢献できる高度な指導的臨床薬剤師の育成、疾病の予防及び治療に貢献する臨床研究者の育成を目標としています。

（出典：熊本大学ウェブサイト）

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

目的については、ウェブサイト等に適切に公表されており、構成員（教職員及び学生）に周知されている。

観点 入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針が適切に公表・周知されているか。

(観点に係る状況)

薬学部ウェブサイト及び入試広報等によりアドミッションポリシー等を公表・周知している（資料 Z3-2-1）。（中期計画番号 K84）

## 資料 Z3-2-1 薬学教育部のアドミッションポリシー等

## 薬学教育部アドミッションポリシー

薬学教育部の理念・ミッションに沿った教育・研究を行い、各分野における基盤的研究および最先端の研究を通して薬学および生命科学の将来を担う高資質な人材を育成するため、本教育部では次のような学生を求めます。

深い人間愛と国際性を涵養できる学生  
 科学的探求心や知的好奇心が旺盛な学生  
 多様な社会のニーズに即応できる、柔軟性豊かな学生  
 自らの将来に対するビジョンと信念を有する学生  
 問題提起能力および問題解決能力に優れる学生

## 創薬・生命薬科学専攻アドミッションポリシー

薬学教育部の理念・ミッションに沿った教育・研究を行い、各分野における基盤的研究および最先端の研究を通して薬学および生命科学の将来を担う高資質な人材を育成するため、本教育部では次のような学生を求めます。

深い人間愛と国際性を涵養できる学生  
 科学的探求心や知的好奇心が旺盛な学生  
 多様な社会のニーズに即応できる、柔軟性豊かな学生  
 自らの将来に対するビジョンと信念を有する学生  
 問題提起能力および問題解決能力に優れる学生  
 創薬科学・生命科学やその基礎となる科学に強い関心を持ち、医薬品の研究者・開発者、生命科学研究者あるいは教育者など、創薬科学や生命科学を通して社会に貢献しようという意欲を有する学生

## 医療薬学専攻アドミッションポリシー

薬学教育部の理念・ミッションに沿った教育・研究を行い、各分野における基盤的研究および最先端の研究を通して薬学および生命科学の将来を担う高資質な人材を育成するため、本教育部では次のような学生を求めます。

深い人間愛と国際性を涵養できる学生  
 科学的探求心や知的好奇心が旺盛な学生  
 多様な社会のニーズに即応できる、柔軟性豊かな学生  
 自らの将来に対するビジョンと信念を有する学生  
 問題提起能力および問題解決能力に優れる学生  
 医療・健康・環境やその基礎となる科学に強い関心を持ち、研究者・教育者あるいは薬剤師など医療薬学・臨床薬学の関わるさまざまな領域で指導的立場に立って社会に貢献しようという意欲を有する学生

## 創薬・生命薬科学専攻ディプロマポリシー

学位授与の要件は、当該学生が卒業した大学の学部によらず、以下のとおりである。  
 本学大学院薬学教育部の定める期間在学して、教育部の教育と研究の理念や目的に沿った研究指導を受け、かつ所定年限内に教育部が行う修士または博士論文の審査及び最終試験に合格し、課程を修了することが学位授与の要件である。修士の審査及び最終試験では、自らの研究の成果と意義を科学的かつ論理的に議論できることが評価に際し、重要な要件である。博士の審査及び最終試験では、自らの研究の成果と意義を国際的な水準で議論できることが評価に際し、重要な要件である。  
 博士前期課程の学生は、授業科目のうちから、34単位以上を修得する必要がある、履修した授業科目は、各コース特定の専門分野に加えて、専門分野にとらわれない分野横断的なものとなっていることが望ましい。

博士後期課程の学生は、授業科目のうちから、16単位以上を修得する必要があり、履修した授業科目は、社会で薬の専門家の高度専門職業人として即戦力となりうる特定分野の深い知識・技能に加え、幅広い知識・技能を持ち、かつ研究者専門分野にとらわれない分野横断的なものとなっていることが望ましい。

研究者として自立して活動し、また高度な専門業務に従事するために必要な能力とその基盤となる学識を身につけていることが、修了に際し、強く考慮される。

研究が、高い倫理性と優れた倫理観と環境マネジメント能力をもち、地域ならびに国際社会に積極的に貢献できるものになっていることは、修了に際し、考慮される。

#### 医療薬学専攻ディプロマポリシー

学位授与の要件は、当該学生が卒業した大学の学部によらず、以下のとおりである。

本学大学院薬学教育部の定める期間在学して、教育部の教育と研究の理念や目的に沿った研究指導を受け、かつ所定年限内に教育部が行う博士論文の審査及び最終試験に合格し、課程を修了することが学位授与の要件である。その審査及び最終試験では、自らの研究の成果と意義を国際的な水準で議論できることが評価に際し、重要な要件である。

博士課程の学生は、授業科目のうちから、32単位以上を修得する必要があり、履修しようとする授業科目は、専門分野にとらわれない分野横断的なものとなっていることが望ましい。

研究者として自立して活動し、また高度な専門業務に従事するために必要な能力とその基盤となる学識を身につけていることが、修了に際し、強く考慮される。

研究が、高い倫理性と強固な責任感とをもって実施され、人や自然との共生にかなったものとなっていること。

#### 創薬・生命薬科学専攻カリキュラムポリシー

1.社会が求める創薬および生命科学のスペシャリストを養成すること。そのため、4コース制を導入し、特定のカリキュラムを実施する。すなわち、

- ・医薬品の体内動態評価、製剤化および薬物送達を行うドラッグデリバリーコース（医療系創薬研究者の養成）

- ・医薬品の探索を行うバイオファーマコース（生物系創薬研究者の養成）

- ・医薬品のターゲットを発見し、医薬品の設計・合成を行うメディシナルケミストリーコース（化学系創薬研究者の養成）

- ・発生学や遺伝学などの生命資源学を専門基盤とし、創薬についての要素も含むライフサイエンスコース（生命科学研究者の養成）

2.特定の専門領域だけでなく、より俯瞰的かつ実践的な人材や国際化に対応できる人材を養成するため、各コースを担当する教員が連携して演習形式の授業を行うとともに、多様なシンポジウム・講演会・セミナーに参加し、自分の専門分野以外の研究動向についての知識を増やし、討論を通して理解を深めるための授業科目を配置する。

3.優れた倫理観と環境マネジメント能力をもち、地域ならびに国際社会に積極的に貢献できる行動力を養成するために、生命倫理学、英語でのプレゼンテーションや論文作成のための演習などの授業科網目を導入する。

#### 医療薬学専攻カリキュラムポリシー

1.医療・健康・環境やその基礎となる科学に強い関心をもち、高い問題提起能力および問題解決能力を修得し、研究者・教育者あるいは薬剤師など医療薬学・臨床薬学の関わるさまざまな領域で指導的立場に立って社会に貢献しようという意欲を有する人材を育成する。さらに、"地域社会に開かれた大学院"として、社会人に門戸を開き、薬剤師の資質向上を目指した生涯教育を実施する。

2.社会が求める実践的な高度専門職業人は、いわゆる特定分野の深い知識・技能に加え、薬学全般に通じている人間でなければならないという考えに基づき、創薬科学、生命科学、生命倫

理、医薬品開発、臨床試験、論文作成技術、副作用被害、医療訴訟などの幅広い知識・技能を持ち、かつ臨床および企業等の現場での実践的能力を身につけ、将来、それらを病院、薬局、製薬企業、CRO、SMO や大学・研究所で活かせる先導的薬剤師および臨床現場の薬剤師業務を理解する基礎薬学研究者、製薬企業等での医薬品製造研究者・臨床開発者、治験コーディネーター、大学等での教員・研究員として活動する人材を育てる。

3.卒業した大学の学部によらず 1. 2. を効果的に実現するために、6年制学部を卒業し先導的薬剤師の養成を目指す「臨床薬学」コースおよび医療の分かる研究開発者および教育者の養成を目指す「医療薬科学」コースの2コース制とする。

4.自らの研究の成果と意義を国際的な水準で議論し、必要に応じて、自らが国際共同研究の展開に寄与できる能力を養う。

5.専門分野にとらわれない分野横断的な学修ができるカリキュラムを実施し、常に未知の分野の研究にも、果敢に挑戦できる素地を形成する。

6.自らの研究の成果と、人や自然や社会との共生のために、強い責任感と高い倫理性をもって、自らの研究を深化させていく力を育てる。

(出典：熊本大学薬学部ウェブサイト)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

薬学教育部のウェブサイトや広報誌により、適切に広報・周知されている。

観点 教育研究活動等についての情報（学校教育法施行規則第 172 条に規定される事項を含む。）が公表されているか。

(観点に係る状況)

ウェブサイト及び入試広報等により教育研究活動等についての情報を公表している（資料 Z3-3-1）。（中期計画番号 K84）

資料 Z3-3-1 熊本大学ウェブサイト公表資料

学校教育法施行規則

（昭和二十二年五月二十三日文部省令第十一号）

最終改正：平成二六年一月一四日文部科学省令第二号

第四節 認証評価その他

第一百七十二条の二 大学は、次に掲げる教育研究活動等の状況についての情報を公表するものとする。

- 一 大学の教育研究上の目的に関する事
- 二 教育研究上の基本組織に関する事
- 三 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関する事
- 四 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事
- 五 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する事
- 六 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たつての基準に関する事
- 七 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する事
- 八 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する事
- 九 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関する事
- 2 大学は、前項各号に掲げる事項のほか、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する

る情報を積極的に公表するよう努めるものとする。

3 第一項の規定による情報の公表は、適切な体制を整えた上で、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によつて行うものとする。

(出典：学校教育施行規則)

薬学教育部では、ウェブサイトに加え、薬学分野の研究を網羅的に紹介する著書「熊薬ものがたり」の出版や最新の研究活動を紹介するニュースレターを発行し、情報発信に務めている（前掲資料 I-10）。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

薬学教育部ウェブサイトで、適切に公表されている。

分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。(施設・設備)

観点 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

大江（薬学部）キャンパスでは、51,264 m<sup>2</sup>の校地面積がある。北地区に講義室、実験研究棟、総合研究棟、共同実験棟、機器分析施設、附属育薬フロンティアセンター、RI 施設、動物舎、薬草園管理舎、標本園、樹木園、第1温室、第2温室、温室機械室、薬草園作業場、堆肥舎、危険薬品庫、宮本記念館、薬学部資料館、蕃滋館、体育館を有している。南地区に運動場及びテニスコート、標本園、薬草園、圃場を有している（資料 Z4-1-1、Z4-1-2）。

第1講義室、第2講義室、第3講義室、第4講義室、第5講義室、多目的ホール（総合研究棟3階）が講義に用いられる。

第一学生実習室、は有機系、物理系実習に、実習室は生物系、臨床系実習に年間を通して利用されている。パソコン実習室は情報処理実習に用いられる他、平日の7時～22時の間カードキーで入室することができ、学生の利用に供されている。

実験研究棟、総合研究棟は各研究室の実験室、測定室、教員室、ゼミ室などに用いられている。

機器分析施設には元素分析装置、X線結晶解析装置、核磁気共鳴装置、電子スピン共鳴装置、質量分析装置等の機器が設置され、研究、教育のために用いられている。

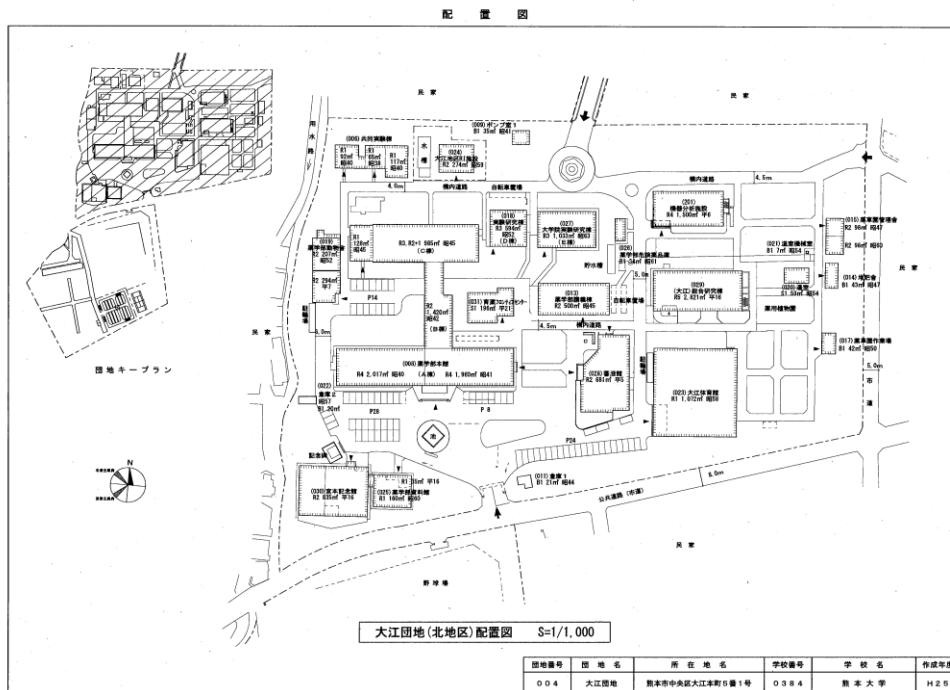
耐震基準は、大江キャンパス内の全ての建造物が基準を満たしている。体育館は、災害避難場所に指定され、非常用食糧・飲料水・発電機など必要な機能を備えている。

バリアフリー化を複数の施設で進めている。講義室建物入口、A棟正面玄関、D棟E棟出入口、蕃滋館、体育館には車椅子利用可能なようにスロープが設置されており、また、講義室建物、総合研究棟、宮本記念館・体育館にはバリアフリーストレイが設置されている。利用頻度の高い場所から積極的なバリアフリー化を進めている。

安全・防犯面について、全ての出入口にシリンダー錠もしくはキー入力錠を設置し、夜間や休日の部外者立ち入りを制限している。また、北地区内の全域に外灯を設置し、夜間照明を確保している。さらに、警備員が巡回し、不審者の侵入等に関して警戒態勢を敷いている。

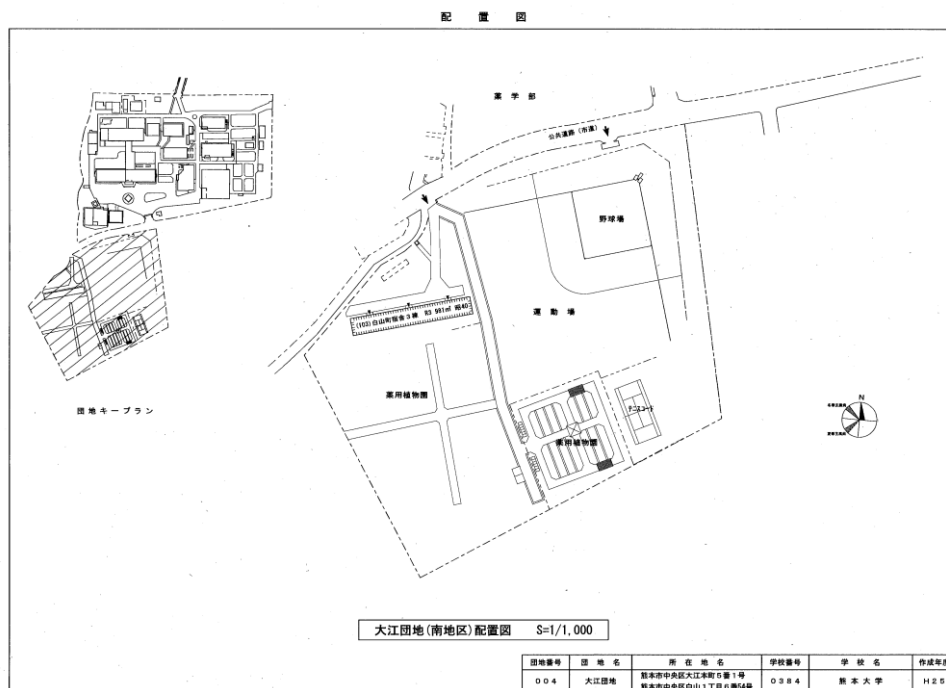


資料 Z4-1-1 大江団地（北地区）配置図



(出典：施設関係図面)

資料 Z4-1-2 大江団地（南地区）配置図



(出典：施設関係図面)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

大江キャンパスには、教育研究を行うために講義室、自習室及び図書館等十分な施設が整っている。

また、耐震基準をキャンパス内の全ての建造物が満たし、安全・防犯面も不審者の侵入を防ぐ配慮がなされている。

観点 教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

施設・整備面においては、大江地区の全ての建物には有線・無線 LAN が設置されており、研究室、講義室などのどこからでも学内 LAN (KUIC) に接続することが可能である。有線 LAN 使用時の IP アドレスについては、各研究室に管理責任者を置いた上で、図書委員会情報部会で総合管理している。使用 IP アドレス、機器設置場所などを把握してセキュリティ管理を行い、ウイルス感染などのトラブル時には迅速に対応できる体制を整えている。

授業内外で学生が利用可能なパソコンは、パソコン室に 100 台、図書館薬学部分館に 15 台あり、学生個人の ID でログインすることにより、どのパソコンでも同じ環境で使用出来るシステムが稼働している。パソコン室では、40 台については、月～土曜日の 7:00～22:00 の時間帯で開放しており、学生証認証で入室することで自由に使うことが可能である。

2013 年度のパソコン室での PC へのログイン数は、ほとんどの月で 1,000 を超えており、利用頻度はかなり高いと言える (資料 Z4-2-1)。

資料 Z4-2-1 2013 年度パソコン利用実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ログイン数	1750	1405	1611	2471	1173	921	1358	1139	1228	1342	1050	252

(出典：薬学教育部事務関係資料)

学習支援として利用可能なシステムは、全学的に導入されている WebCT, Moodle の他、独自開発した e-Portfolio システムがある (資料 Z4-2-2)。

## 資料 Z4-2-2 e-Portfolio システム 2013 利用実績

月	レポート 数	コメント数			
		教員	学生	実習先	コメント計
4月	106	0	1	0	1
5月	38	2	0	35	37
6月	1,680	273	39	557	869
7月	2,044	392	39	575	1,006
8月	286	296	15	140	451
9月	834	106	6	33	145
10月	1,390	71	6	262	339
11月	1,016	46	8	219	273
12月	28	0	1	3	4
1月	16	0	0	0	0
2月	90	34	0	0	34
3月	0	0	0	0	0
年計	7,528	1,220	115	1,824	3,159

(出典：薬学教育部事務関係資料)

WebCT については、科目登録されているものについては自動的に設置されているが、薬学教育部においては利用実績も高く、大学院科目として 26 の科目において実際に利用されている。

また、学部等科目については、学生の利用時間を積算したところ、延べ時間が 100 時間を超える科目が 19 あり、そのうちの 2 科目は、1000 時間を超えており、学生 1 人あたりに換算しても 10 時間程度と、かなりの活用度であると判断できる。教育部として e-learning の利用を推奨していることの結果であると考えられるが、今後益々の利用拡大を検討し、全ての科目での e-learning 利用を目指すべきところである。(中期目標計画 K84)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

全学的に導入されている WebCT, Moodle の他、独自開発した e-Portfolio システム等、教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されている。

観点 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

薬学部図書分館は、1 階書庫と 2 階閲覧室に 58 席の閲覧座席、インターネット・パソコン席 15 席を備えている。和書 15,882 冊、洋書 23,333 冊、和雑誌 620 点、洋雑誌 467 点の蔵書と、30 点の視聴覚教材を有し、図書係長及び外部委託社員 2 名により運営されている。

電子ジャーナルは、全学的に契約されており、平成 25 年度では約 5,000 タイトルがアクセス可能となっている。同年度では全学で約 50 万件/年のアクセスがあり、多くの教職員

や学生に利用されている。

貸出図書数と文献相互依頼の利用者数は、資料の電子化が反映されているため、貸出数は減少しているが、相互利用は大きな変動はない（資料 Z4-3-1）。

入館者数が年度を追うごとに減少しているのは、電子ジャーナルの普及により図書館に入館しなくても資料にアクセスできる現状を反映しているためである（資料 Z4-3-1）。平成 25 年度の月別の入館者数は、7、8 月と 1、2 月にピークがある。これは、8 月の大学院入試と 3 月の薬剤師国家試験に備えて学部生が勉強しているためであり、閲覧室が有効に活用されている（資料 Z4-3-2）。

館内には、希望図書申込書が設置されており、学生が希望する図書を購入されるシステムになっている。また、去年は、学生の要望で、不足していた補助座席を増やした。このように、利用者の要望に対し、適切に対応できる体制が構築できている。

資料 Z4-3-1 図書利用状況

年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
受入図書数 (冊)	483	52	171	96	138
貸出図書数 (冊)	1,295	856	649	699	644
複写依頼 (件)	453	325	302	307	290
複写受付 (件)	171	139	157	202	145
延入館者数 (人)	---	58,504	47,649	38,815	39,254

(出典：附属図書館関係資料)

資料 Z4-3-2 平成 25 年度月別入館者数 (人)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1,908	2,799	2,828	4,809	3,568	2,154	2,647	2,606	2,811	5,799	5,832	1,542

(出典：附属図書館関係資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

教職員や学生により有効に活用されるシステムが整備されている。また、各種資料から、図書・電子媒体が頻繁に利用され、閲覧室が有効に活用されている。さらに、利用する学生の要望に適切な対応が行われている。

観点 自主学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

学生の自主学習を円滑に進めるため、附属図書館薬学部分館に自習のできる机が設置され、最大 58 名の利用が可能である。また、インターネットに接続した情報検索用のパソコンが 15 台設置されている。書籍数は薬学部分館だけで約 3 万 8 千冊に及んでいる。土日祝祭日の開館及び大学院生に対しては図書館の 24 時間利用など、利用時間の延長を行っている。

学生のニーズは、学生委員会及び教育委員会と学生自治会との話し合いにより把握している。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

自主学習環境の整備については、学生からの要望を汲み上げており、学長と学生代表との懇談会で要望があった附属図書館薬学部分館の個別閲覧機の増設を実施している。また、時間の延長等、要望に応じて変化させてきており、十分に整備されている。

## 4. 質の向上度の分析及び判定

## (1) 分析項目Ⅰ 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること。

「重要な質の変化あり」

(記述及び理由)

改善、向上している。

管理運営体制及び事務組織は適切に整備され十分に機能しているが、薬学部地区が、黒髪地区及び本荘地区から離れていることが理由で、業務運営に一部支障がある面を抱えている。

なお、事務職員は、管理運営に関わる職務スキルや能力を向上するための研修等に積極的に参加しており、チームリーダーを中心に事務職員 11 名（定員内職員 6 名）という小さな事務組織であるが、英語を流暢に話すことができる職員を 3 名、衛生管理者 3 名を有しており、併せて、定員内職員 6 名全員が他機関での実務経験を持っており、うち 4 名は県外の大学での実務経験者でもある。

また、大江地区で開催しているオープンキャンパスや入試説明会においては、薬学部教職員のみ（黒髪地区は学生支援部がサポート）で開催しており、事務組織が十分な任務を果たすスキルを持っていると判断している。

薬学共用試験（OSCE）については、数年前から事務担当者も FD の一環として、試験進行のアナウンス、タイムキーパー等の重要な業務を担当しており、先生方からも高い評価を得ている状況である。

以上のことから、管理運営体制及び事務組織は、平成 21 年度に比べてより適切に改善され、また機能していると判断する。

## (2) 分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

「重要な質の変化あり」

(記述及び理由)

改善、向上している。

教育部の自己点検・評価は全学的な「組織評価」によって定期的に行われている。

本教育部では平成 13 年 9 月に環境 ISO14001 を認証取得し、環境教育及び環境に配慮した教育研究活動の推進に取り組んでいる。平成 25 年度から本教育部の内部質保証を推進することを、環境目的及び目標に盛り込み、この目的・目標を達成するために、各部署において、環境マニュアルに従って自ら作成した手順書に基づき、教職員と学生が一致して研究・教育内容及び研究・教育環境の向上に取り組んでおり、毎年 1 回外部者の評価が行われている。

以上の観点から、活動の総合的な状況に関する自己点検・評価は適切に実施されており、また、継続的に改善するための体制も整備され、機能していると判断する。

## (3) 分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。（教育情報の公表）

「重要な質の変化あり」

(記述及び理由)

改善、向上している。

本学のウェブサイトにおいて、教育研究活動等については周知しており、熊薬ものがたりやニュースレター等の刊行物の発信などにより、教育情報の公表を適切に行っており、説明責任を適切に果たしている。

入学者受け入れ方針（AP）、教育編成方針（CP）、学位授与方針（DP）を適切に定めてウェブサイト等で公表・周知しており、平成 21 年度に比べてより向上・改善されている。

以上のことから、教育研究活動等についての情報は、平成 21 年度に比べてより適切に、そして十分に公表されており、説明責任は十分に果たされていると判断する。

- (4) 分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。(施設・設備)

「重要な質の変化あり」

(記述及び理由)

改善、向上している。

薬学部地区の施設は、教員研究室、実習室、講義室及び事務室等適正に配置されている。

学生が利用可能なパソコン台数も十分に設置されており、教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境への配慮及び整備は十分になされている。

附属図書館薬学部分館は、和書、洋書、和雑誌及び洋雑誌の蔵書及び視聴覚教材を有し、図書環境は極めて充実し活用されている。

以上のことから、教育研究組織及び教育課程に対応した設備等は、21 年度に比べてより向上・改善され、有効に活用されていると判断する。